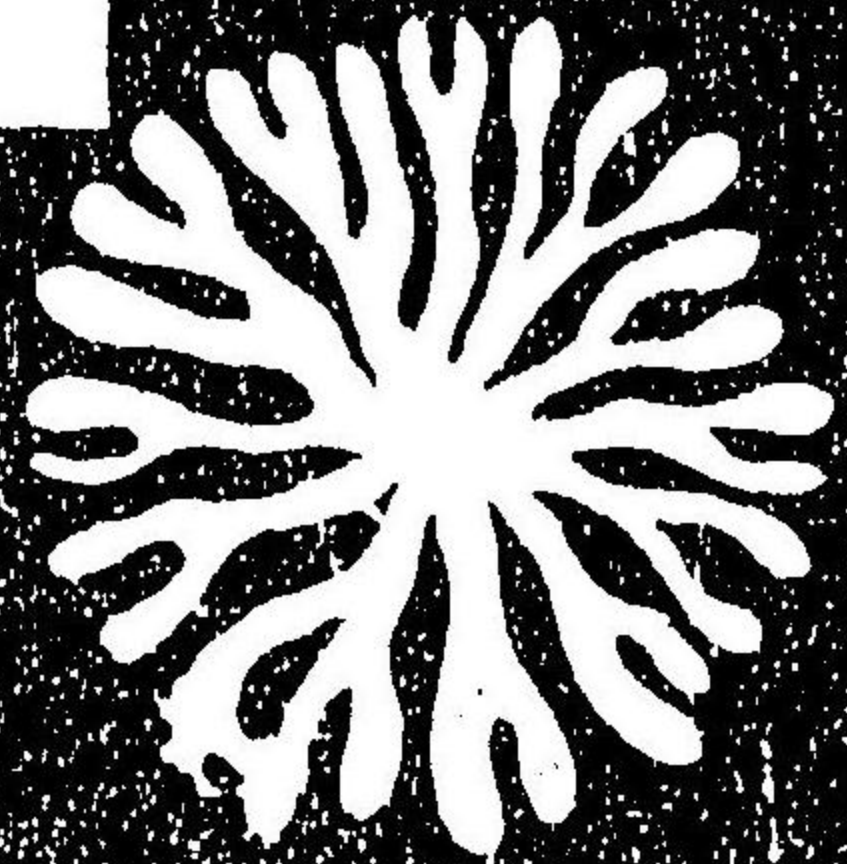


讚岐案内

291.82
Ka1654

讃岐の案内
讃岐の案内
讃岐の案内
讃岐の案内





讃岐案内

凡例

- | | | |
|--|---|--|
| (一) | 例 | 凡 |
| <p>一 所載の事項中重きを實業に置きたるも繁簡一ならず覽者咎むる無くんは幸なり</p> | <p>一 凡そ統計數量等に係るものは務めて最近の調査に據りしも比較の爲には數年前のものをも採用せり</p> | <p>一 本書は第八回關西府縣聯合共進會の開設に際し本縣現在の狀勢を紹介せんか爲め之を編纂す</p> <p>一 記事は簡明を主とし文體は平易ならんことを務めたれば傍訓を附せすたゞ必要缺く可からざる</p> <p>一 個所にのみ之を附せり</p> |



26193

(二) 一 本書は讃岐國勢の現在を示すを以て主とするも、聊其發達變遷の歴史をも考へ且つ國內探勝の便に供せんか爲めに社寺名勝故蹟の重なるものは其概略を記載せり

香川縣内務部第四課

讃岐案内目次

總說	一
沿革	一
實業	一
實業學校	一
農産及林産物	一
麥稈眞圃	一
故平賀源内	一
同業組合	一
水産試驗場	一
食鹽	一
多度津測候所(附氣象表)	一
老農奈良專二	一
砂糖	一
陶業	一
酒造同業組合	一
水産物	一
農事試驗場	一
工産物	一
向山翁砂糖開基碑	一
銀行會社	一
輸出入	一
韓海出漁	一

(一) 次	目
高松市	一
總說	一
諸學校	一
沿革	一
博物館	一
諸官街	一
圖書閱覽所	一

大川郡

- 公私立病院
- 銀行會社
- 旅亭
- 特産物商店
- 各地へノ海里
- 玉藻城址
- 漆器
- 公會及團體
- 諸工場
- 料理店
- 鐵道各驛哩數
- 輸出入
- 築港
- 羽二重織
- 新聞社
- 市場
- 劇場及寄席
- 各地へノ里程
- 物産
- 保多織
- 長尾村
- 志度町
- 故平賀源内宅
- 津田町
- 釋王寺
- 白鳥神社
- 引田城址
- 長尾寺
- 志度浦
- 靈芝寺
- 津田松原
- 脇屋義治墓
- 森權平墓
- 故向山周慶の宅
- 極樂寺
- 多和神社
- 長福寺
- 遠洋漁業
- 三本松町
- 引田村
- 大水主神社

木田郡

- 譽田寺
- 和爾賀波神社
- 細川清氏墓
- 六万寺
- 神柿王墓
- 惣門跡
- 大砂子
- 神内城址
- 喜岡城址
- 故柴野栗山宅
- 鎌倉塚
- 虹ヶ瀧
- 八栗山
- 佐藤繼信墓
- 祈石駒立石跡落畑
- 菜切地藏
- 西尾城址
- 屋島山
- 虎丸城址
- 靜塚
- 白羽八幡宮
- 八栗寺
- 大夫黒墓
- 源氏ヶ峯
- 戸田城址
- 三谷城址
- 潟元鹽田
- 小豆郡
- 土庄町
- 寶生院
- 大麻山
- 加藤遺物
- 鏡子瀑
- 北條遺物
- 富岡神社
- 湯船庵
- 龜山神社

香川郡

綾歌郡

内海灣

神懸山

飽浦信胤墓

洞雲山

葺田神社

山厓瀑

長勝寺

豊島

草壁村

星ヶ城

八幡神社

筆山

田中綏猷墓

翠塚

小江港

醬油素麵及石材

石門

清瀧山

碁石山

福田村

四門山

鳴瀧

伊喜末神社

島八十八ヶ所

理平燒

中間天神祠

法然寺

片山城址

丸龜市

市場

新聞社

官衙公所

總説

道場寺

飯ノ山

國分石

農事試験場

加茂神社

城山神社

雲井御所址

崇徳天皇社

羽二重工場

坂出町

旅亭

銀行會社

賭學校

舊城址

聖通寺

宇多津町

光貴寺

瀧ノ宮神社

國分寺

松山館ノ遺墟及松ヶ浦

木丸御所址

高屋神社

白峯皇陵

坂出壘田ノ碑

料理店

賭工場

病院

沿革

大川山

宇多津城址

世尊院三谷寺

綾川

縣社瀧ノ宮天滿宮

神谷神社

城山長者の遺墟

烟宮

白峯寺

讃岐紡績會社

仲多度郡

- 劇場及寄席
- 各地へノ里程
- 法音寺
- 妙法寺
- 花庭
- 多度津町
- 金倉寺
- 盡誠舎
- 琴平町
- 琴平公園
- 琴平高燈籠
- 曼荼羅寺
- 海岸寺
- 沙彌島
- 特産物商店
- 神社
- 宗泉寺
- 生産
- 輸出入
- 染織學校
- 農事試驗場
- 善通寺
- 金刀毘羅宮
- 稻橋
- 故日柳燕石
- 水菫ノ岡
- 鹽飽諸島
- 瀬居島
- 鐵道各驛哩數
- 玄要寺
- 善龍寺
- 團扇竹細工
- 名士の墓碑
- 多度津城址
- 善通寺町
- 大麻神社
- 工業學校
- 金刀毘羅宮神事場
- 滿濃池
- 出釋迦寺
- 工業補習學校

三豊郡

- 觀音寺町
- 琴彈公園
- 忌部神社
- 本山寺
- 萩原寺
- 砂大久保謎之巫
- 妙見山
- 那立航海學校
- 琴彈八幡宮
- 農事試驗場
- 大水上神社
- 首山觀音堂
- 雲邊寺
- 財田城址
- 詫間灣
- 礦工場
- 觀音寺
- 粟井神社
- 寶積院
- 植田天神松
- 彌谷寺
- 仁尼浦平石
- 粟島村

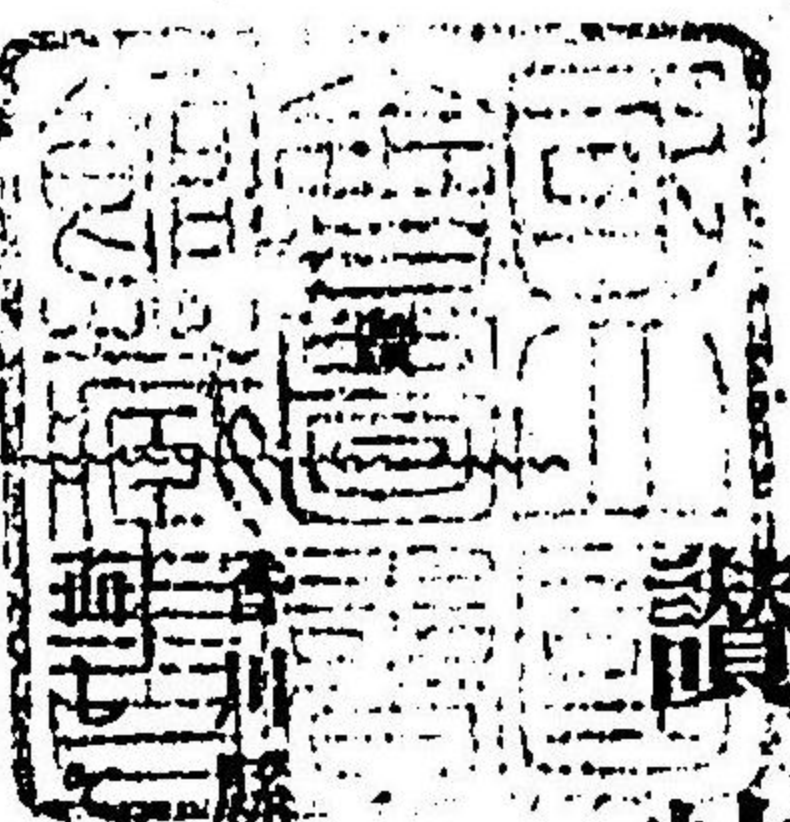
目

次終



讚岐案内

總説



一) 内 案 岐

は讚岐全國を管轄す南は山嶺を以て阿波伊豫の兩國に界し東西北は海に淡路播磨備前備中備後の五國に相對す東方阿波國界より西方伊豫國界に至る海岸の延長五十五里餘岬角港灣多し島嶼其間に碁布す幅員東西廿五里餘南北十里に満たす全國の面積は百十五方里地形半月形を成し平地山地大約相半せり地勢南に高く北に低し南部は峯巒連亘し其最も峭拔なるものを鷹山寒風山雲邊山の諸山とす河川は南より北に急下して海に入る河川の最も長きは土器川香東川の二流とす其流域は共に十里に過ぎず海邊は丘陵少く砂濱多し港灣中船舶出入繁留の至便なるは高松港を第一とし之に次くものは多度津港とす此兩港は毎日定期汽船の發着あり旅客貨物の東上西下する者悉く此兩港に由る其他海灣の最も廣大なるは東讚に於ける志度灣西讚に於ける託間灣とす地味は概して肥沃と稱するも可なり唯水利に乏しく無數の溜池を以て灌溉に供するもの多きに依り夏季旱天連日に彌れば稻作の困難を免れず道路は國道三線其延長二十三里

縣道十五線其延長四十九里其他郡町村の里道に屬するもの縱横四通し車馬の通せざるもの甚た稀なり只南方山部に至ては峻峻なるもの多し鐵道は現今高松より丸龜多度津を経て翠平に達する一線其里程二十七哩に過ぎざるも將來高松より阿波の撫養に通すへき阿讃鐵道金倉寺驛より伊豫の松山に至るへき豫讃鐵道は共に敷設の計畫中に屬す是二線路竣工するに至らば始めて國內を貫通するを得へし縣内を分ち二市七郡とす即ち高松丸龜の二市大川木田小豆香川綾歌仲牟度三豐の七郡是なり全國の戶數十三萬六千五百七十七人口七十壹萬千四百二十七人を有す物産は食鹽砂糖及綿花を以て中古讃岐の三白と稱し重要な物産たりしも通商貿易の開けしより綿花綿糸の輸入品に壓せられ年を追て實綿の栽培を減し今は僅に其痕跡を存するのみ砂糖も亦近年生産費用多く且つ米價の騰貴とに依り經濟の得失稍匹敵し或は米作の比較的利益多きに如かずと爲し是亦漸次作付反別を減縮するの傾向あり故に三白中現今尙百萬圓以上の價格を有し著しき衰頽を見ざるは食鹽のみ之を要するに農産に在りては米麥甘蔗大豆工産物に在りては砂糖製紙漆器麥稈具田糸繩酒醬油竹器類水産物に在りては食鹽鯛鱈鰯鮪其他の魚類を以て民衆の主たるものとす

風景讚國の地たる南方一帶山を負ひ北は海濱に面するを以て流峙の瀾眺頗る明媚なり若し夫れ朝暉朗に上り夕陽穩に照す時は海光山氣掩映發揮宛として一卷の妙畫を披くか如し國內の勝景遊觀に足るもの最も多し今其一二を挙げんに白鳥神社境外松林 大川郡松原村に在り(高松より十里八丁)縣社白鳥神社は壯嚴なる建築にして社外松林は古史に三里松原と稱するもの青松白沙海に臨みて眺望頗る佳なり

津田翠林 大川郡津田町の東端(高松より六里六丁)に在り有名なる老松林にして南は雨霧山の古城址を負ひ北は海濱を隔て、小豆島名子島多賀島等を望み頗る佳景とす播の舞子須磨の景と伯仲すとの評あり

八栗山 五劍山八栗寺の所在地にて木田郡牟禮村に在り五峰削り立てるか如く奇勝愛すへし峯頂八栗寺は弘法大師の創建に係り歡喜天を祀る毎年陰曆正五九三ヶ月の十六日賽者極めて多し峰頂の眺望二備播攝四國の八國を望むべしと云ふ

源平古戰場 八栗山下の牟禮村古高松村は壽永の役源平二氏の戦争せし處雨龍山洲崎(元は橋敷ト云)安徳天皇の行宮たりし六萬寺を始め佐藤繼信の墓名馬太夫黒の

慕那須與一駒立岩祈岩射落畑總門等の古跡處々指點に違わらず史跡を探くる者は必ず往き觀らるべし

屋島山 元は島なりしが滄桑の變今は山となれり山上屋島寺源平古戰爭の遺物を藏す山上の眺望瀬戸内海の大半を略すべく偉觀壯快を極む近時屋島保勝會の盡力に依り山上の遊觀甚だ便利となれり山の東腹には源平合戰の古跡多し

寒霞溪 小豆郡草壁村大字上村に在り大部越と稱して山麓より絶頂に至る十二の勝景あり一通天窓二香雲亭三錦繡屏四老杉洞五玉笥峰六蟠餘岩七書帖石八層雲巒九荷葉岩十罈帽子岩十一如螺壁十二四望頂是なり探勝の客之を過くれば皆言ふ豈の耶馬溪上野の妙義山之に比すれば遜色あるへしと以上大部越十二景の外に龍王越石門塔ノ穴越と稱するもの亦皆大部越の奇勝に劣らざれども未だ世に顯はれざるは惜むべし阪手觀音の北なる洞雲山の巖窟も亦奇にして壯觀と稱するに足る

栗林公園 香川郡栗林村に在り十五万餘坪の大庭園にして六大水局と十三大山坡とより成り眞山を假山に縫ひ遠景を近景に補ひ東洋園藝の美を極めたる園なり

綾松山白峰御陵 綾歌郡松山村に在り此地白青黄紅等の峰名あり白峰は 崇徳

上皇の御陵の在る所にして遊覽の地に非すと雖ども陵側に白峰寺ありて歷朝の御陵に納め奉りし寶物を藏し頼朝の供養塔玉章の樹頓證寺形燈籠等何れも保元の昔を偲ふに餘あり山上の幽邃眺望の佳絶なる亦喜ふべし御陵參拜の叙之を探くるべし御陵に參拜せんとするものは高松市より五里高松驛より汽車にて山南鴨河驛に至り更に車を驅ること一里にして高屋より上れば最も便なり西よりすれば坂出驛より高屋口に向ふべし

沙彌島 綾歌郡坂出町の沖合に在り柿本人丸が玉藻吉讚岐國者國柄加云々と歌ひし島にて聖寶理源大師の誕生地なり

屏風ヶ浦 多度津港の西二十五町海岸寺は弘法大師の舊跡なり海岸の白沙青松亦遊覽に適す

善通寺町 十一師團所在地にして善通寺は弘法大師の誕生地なり寺畔に五岳巒へ立ち偉人の誕生と相關するものと傳ふ

金刀比羅神社及琴平公園 日本一社と謂はれたる同社は仲多度郡琴平町にあり社殿の壯殿は云ふに及ばず社藏寶物には有名なる國寶多し加ふるに社頭は高

く象頭山の半腹に在るを以て備讃の海山一目の下に集まり眺望絶佳なり
琴平公園及潮川神事場は共に山下に在り松青嵐翠の間櫻楓の観頗る幽婉にし
て小嵐峽の名あり

彈琴公園及有明の濱 三豊郡観音寺町に在り此地讃の西陸に在りと雖とも彈琴
山は古松奇岩に富み山下は有名なる有明濱にして燧洋に面し南は豫山に連な
り北は備嶺を望み驕眺の明麗なること東部の津田琴林と一雙の佳景と云ふべ
く近時定めて公園借樂の地とせり山畔古跡頗る多く琴彈八幡宮は宇佐の神の
別魂の鎮まる處観音寺僧日證迦立弘法大師再興は古刹にして國寶寺寶を多く
藏し興昌寺の一庵は山崎宗鑑の暫く筌蹄を駐めし處なり

安原及鹽江一帯ノ山水 高松市を南すること三里強にして香川郡安原村に至れ
は香東川の源に遡りつゝ進まん先づ百々ヶ深の深淵奇岩應舉の繪を觀るが
如く更に岩部に至らは斷岸懸流は蕪村の畫を視るが如く鹽江に至りては鐵泉
の浴すへきあり更に東すること一里強にして小義の雌雄瀑布あり文晁杏所の
妙齋を視るか如くならん高松市より此處に至る坦途砥の如く半日を費さは閑
雅幽邃の仙境に遊ぶことを得へし

以上は遊觀に適する沿海の佳景若くは山中の仙境を擇ひ其重なるものを紹介し
たるなり若し其詳細に至りては各市郡内に之を別記せり細檢せらるへし
更に當國には古來宗教の關係として弘法大師が定めたる四國八十八番の札所た
る寺院あり其第六十六號より第八十八號に至るまでは當國內に屬するものなり
此寺院の在る處多くは深山僻村なりと雖とも毎年春季には信者の參詣引きも切
れず其地多くは好風景の地なり今其地點を表示せん

札所寺院

札所番	寺院名	所在地名
六十六番	雲邊寺	三豊郡
六十七番	小松尾寺	同郡大野村
六十八番	琴彈山	同郡観音寺町
六十九番	観音寺	同郡同町
七十番	本山寺	同郡本山村寺家
七十一番	彌谷寺	同郡大見村
七十二番	曼荼羅寺	仲多度郡吉岡村

内	案	岐	讓	(八)
八十七番	長尾寺			同郡吉原村
八十六番	志度寺			同郡竿岡村
八十五番	八栗寺			同郡善通寺村
八十四番	屋島寺			同郡龍川村
八十三番	一ノ宮寺			綾歌郡加茂村
八十二番	根香寺			同郡宇多津町
八十一番	白峰寺			同郡西庄村西庄
八十番	國分寺			同郡端岡村國分
七十九番	高照院			同郡松山村松山
七十八番	道場寺			香川郡下笠居村
七十七番	道隆寺			同郡一ノ宮村
七十六番	金倉寺			木田郡瀧元村西瀧元
七十五番	善通寺			同郡牟禮村
七十四番	甲山寺			大川郡志度町
七十三番	出釋迦寺			同郡長尾村

八十八番 大窪寺 同郡奥山村

此札所は四國にて八十八番を全くするものなるが更に島四國と稱し小豆島のみにて八十八番の札所を建たり是亦好風景の地多し
 國寶及古社寺寶物 當國には延喜の神名式に載せ給へる官社二十有四社あり而して其の儼存せるもの二十社なり今其の地點を表示せんに

内	案	岐	讓	(九)
鴨神	綾歌郡加茂村			
田村神社	香川郡一宮村			
和爾賀波神社	木田郡井戸村			
大箕彦神社	同 郡石田村			
多和神社	同 郡志度町			
神前神社	同 郡神前村字山崎			
布勢神社	同 郡石田村字石田西			
志太張神社	同 郡鴨部村字東山			
水主神社	大川郡譽水村字水主			
今は國幣中社				

神谷神社	同	那松山村字神谷
城山神社 <small>名神大座</small>	同	郡府中村字北谷
飯野神社	同	郡飯野村字東二
宇野神社	同	郡岡田村字岡田下栗熊村字栗熊西
榊梨神社	仲多度郡	那與北村字下榊梨
神野神社	同	郡神野村字眞野
太麻野神社	同	郡麻野村字大麻
雲氣神社	同	郡未詳
大水上神社	三豊郡	二宮村大字羽方
高屋神社	同	郡高室村字高屋
山田神社	同	郡柞田村字黒淵
加麻良神社	同	郡高室村字流岡
於神神社	同	郡粟井村字上野
粟井神社 <small>名神大座</small>	同	郡同村

(今は縣社)

等級種類	品名	數量	所有者
甲種三等	絹本著色十一面觀音像	一幅	香川縣大川郡志度町寺
同四等	絹本著色志度寺緣起圖繪	六幅	全
彫刻	木造十一面觀音兩脇士立像	三軀	全
全	木造御神像 <small>委述々日百製姫命坐像 倭國香姬命坐像 大倭根子彦太瓊命坐像</small>	三軀	全 水村主神社

黒船神社 同 郡一ノ谷村字池ノ尻

又當國は中古勅諭弘法大師(空海)法光大師(眞雅)法興大師(慈惠)智證大師(圓珍)理源大師(聖賢)を出したる國なるが故に中古佛教の旺盛なる發源地とも稱すへき勢なりしこと想ふべく隨ひて古き寺院の存在するもの頗る多しとす此等寺院には夥多の寶物を貯藏せしが近古天正の比長曾我部元親の侵入に因て社寺の兵燹に罹りしもの亦少なからず然れども尙建築と寺寶の現存するもの多きを以て去る明治三十三年内務省社寺保存會の出張員は縣下各郡の社寺寶物を調査し次て其十二月を以て左の數十點を國寶と假定し三十四年三月内務省告示第二十號を以て國寶たることを告示せらるるその品目左の如し

全	全	全
工	美	彫
藝	術	刻

絹本著色琴彈八幡本地佛像
木造涅槃佛像
金銅五銖鈴(傳空海將來)

一	一	一
幅	幅	幅
全	全	全
全大見寺	彌	谷
彌	寺	寺

是單に國寶に屬せしものを擧たるなり、一縣にして此の如く夥多の國寶を有するものは五畿内關西に在りては大和山城近江を除きて其例を視ざる所とす若し夫れ一寺一社の寶とする所にして國寶に非ざるも之に準すへきもの史料に資すべく探奇を飽かしむへきものは頗る多數なりとす

沿革

太古は邈たり今之を考證すへきの史乘なし想ふに讚岐の國は往古飯依彦の子孫に依りて統轄せられたるに似たり古説に飯の山(綾歌郡)に奉祀する飯山大明神は飯依彦の靈を祭れる處なりと人皇十二代 景行天皇の御宇に當り第十一皇子神(櫛)王を以て讚岐の國造とし王の子孫國內各地に姓氏を分ち居て之を治めたり中古王朝の始舊制を更革し國司を置かれてより 元明天皇の朝和銅六年大伴宿禰道足初めて讚岐守に任す爾後歷朝守介、椽、目を置き國政を管せしめたり今 淳和天皇より 安徳天皇に至る三百六十年間に於ける著名なる國守に任せられたる

者を擧ぐれば藤原冬嗣、滋野貞主、伴善男、藤原良細、紀夏井、春澄、善繩、藤原保則、菅原道真等あり王政已に衰へ國司の交代終に熄み天下の大勢一變し源平二氏干戈を交ふるや平宗盛元暦元年を以て 安徳天皇を奉し來りて行宮を山田郡の屋島に營す文治元年源義經來て之を攻む所謂屋島合戦即ち是なり屋島陥り平氏尋て西海に滅ぶ源頼朝日本六十餘州總追捕使となるに及び其臣佐々木盛綱を以て讚岐の守護と爲す武門の治下となるは此時に徧まる建久の末近藤國平建武の始舟木頼重等各讚岐の守護となる南北朝の頃足利尊氏細川和氏をして四國を經略せしむ建武二年和氏の從弟細川定禪頼重を逐て山田郡古高松城に據る延元二年和氏の弟頼春四國の大將となる正平十六年和氏の子清氏南朝に歸順し阿野郡高屋城に據りて四國を略す正平十六年頼春の子頼之清氏を殺す天授十一年頼春の弟詮春を讚岐の守に任し國內の聚族寒川、香川、香西、十河氏等を服従せしむ應永二年詮春の子義之讚岐守となり寛正元年其子成之成之の子義春義春の子持之其孫持隆相繼て讚岐守に任す此時に當り細川氏の勢威日に衰ひ天文の初三好長慶其弟一存をして十河氏を繼かしめ讚岐の國事に干涉す二十一年八月一存の父三好義賢持隆を殺し寒川諸族を降し國東の地を取る獨り香川、景則、天霧城に據り多度三野豊

田の三郡を領す永祿四年十河一存卒し義子存保嗣ぎ天正六年阿波を兼管す同七年土佐家族長曾我部元親香川羽床二氏を降し十二年遂に存保を逐て全國を併吞す同十三年豊臣秀吉兵を發して元親を攻め其侵地を奪ひ仙石久秀を封し鶴足郡宇多津に居城せしむ而して山田郡を十河存保に與ふ翌年久秀存保共に島津征伐の軍に従ひ存保は戰歿し久秀は剃髮して高野山に逃かれ國除せらる天正十五年尾藤知宣讃岐に封せられしも一年にして之を奪はれ生駒近規封を受け十五萬石を領し關ヶ原廢後に至り一正更に拾七萬三千石を領せしが曾孫高俊に及て國除せらる政權徳川氏に移るに及び寛永十八年山崎家治多度三野豊田の三郡に封せられ翌年松平頼重封を那珂以東の九郡に受けて高松に居城し中國探題となる山崎氏三世嗣絶へ國除せらる萬治元年京極高和之に代りて九龜城に居る元祿中多度郡を割きて京極高道を封し多度津に居らしむ是に於て讃岐全國は高松九龜多度津の三藩に分かれ小豆男木女木鹽飽の諸島は舊幕領及津山藩に分屬し各其統治を異にして徳川氏の末年に至れり明治四年二月五日多度津藩を廢し倉敷縣に合し四月十日舊幕領及九龜藩を九龜縣に併す六月津山藩を廢し津山縣を置く七月十四日高松藩を高松縣に改め十一月十五日津山縣を北條縣に併す此日新に香

川縣を置き國境擧げて其管する所となる六年二月廿日香川縣を廢し名東縣に併す八年九月五日再び香川縣を置き九年八月廿一日復た之を廢して愛媛縣に合す二十一年十二月三日更に又舊に復し香川縣を置く前後三回に及へり明治三十二年三月七日法律第四十一號を以て郡の廢置を行ふ即ち大内寒川の二郡を廢し其區域を以て大川郡を置き三木山田二郡を廢し其區域を以て木田郡を置き阿野鶴足二郡を廢し其區域を以て綾歌郡を置き那珂多度二郡を廢し其區域を以て仲多度郡を置き三野豊田二郡を廢し其區域を以て三豊郡を置き同年四月一日より施行す又明治二十一年十二月愛媛縣より分かれて香川縣を置かれしより今明治三十四年迄十三年間に縣知事の更迭せるもの十回即ち林董柴原和谷森真男小畑美稻深野一三徳久恒範小野隆助吉原三郎荒川義太郎末弘直方の諸氏はなり

實業學校 縣下實業教育の爲に建設せられたる公立學校七校あり其縣立に屬するもの高松市に於ける工藝學校と綾歌郡坂出町に於ける商業學校の二校とす又高松市に市立商業學校あり琴平に工業學校多度津に染織學校あり共に町立に係れり其他三豊郡粟島の航海學校は郡立にして本島村の工業補習學校は仲

多度郡本島村外四ヶ村の共立に屬す今其現在の狀況を表示し本縣實業教育の
一斑を讀者に紹介すへし

實業學校一覽

學校名	縣郡市	所在地	創立年月	學科	修業年限	職員(三十四年十月一日現在)	生徒(卅四年十月一日現在)
工業學校	縣立	高松	三一、二	木工、金工、漆工	二年	一五	一五〇
商業學校	縣立	坂出	三四、四	豫科、本科	三年	八	一一五
商業學校	市立	高松	三三、四	全上	豫科三年、本科三年	一一	一二四
航海學校	郡立	粟島	三〇、三	航海術	六年	一一	一二七
工業學校	町立	琴平	三一、四	木工、漆工	三年	八	四一
染織學校	町立	多度津	三三、二	染物、織物	三年	四	四三
工業補習學校	村立	仲多度郡本島	三〇、六	木工	三年	三	五七

備考 商業學校學科中修身、讀書、習字、作文、數學、地理、歴史、体操、外國語ハ豫科本科共ニ之ヲ課スルノ外豫科ニ理科圖書、本科ニ經濟、法規、簿記、商品、商事要項、商業實踐ノ科目アルハ縣市立皆同シ

實業學校經費

多度津測候所 仲多度郡多度津町の海岸に在り明治二十五年の創立にして年中
毎時觀測を行ふ一等測候所なり職員は技師技手其他を通して六人あり
氣象變化の實業に關するもの固より淺少にあらず桑茶の降霜に於ける麥收の
降雨に於ける船舶航海の風波に於ける何れか氣象を豫知し災害を避くるを以

學校名	卅四年度經費總額	國庫補助	縣費	郡市費	町村費	雜收入
縣立工業學校	一三、〇二〇、五	三、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇二〇、五	〇	〇	一、三六七、五〇
同商業學校	五、六九三、七	七五〇、〇〇〇	五、六九三、七	〇	〇	一、〇八五、三七〇
市立商業學校	七、三二七、〇〇〇	七五〇、〇〇〇	〇	六、三二七、〇〇〇	〇	二、九五〇、〇〇〇
郡立航海學校	七、六三〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	二、〇三二、〇〇〇	〇	六、四五〇、〇〇〇
琴立工業學校	四、五〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
多度津染織學校	四、一六四、八〇	八〇〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	四五〇、〇〇〇	二、五六四、八〇	九〇、〇〇〇
本島工業學校	一、五〇二、三〇	三五〇、〇〇〇	〇	二〇〇、〇〇〇	一、〇二六、三〇	一五〇
合計	四三、九六七、五	八、九五〇、〇〇〇	三三、八五三、五	九、四四七、〇	四、八五二、一〇	三、九〇五、六二〇

備考 雜收入ハ授業料生徒製作品、不用品賣却代等各其學校ノ雜入ヲ通算シタルモノナリ

て必要とせざるなし殊に當國の如き製鹽業者の多き地方に在りては天候氣象を前知せざるか爲數日の勞役を濃厚の鹹水とを合せて泡沫に属せしむることあるは往々免れざる所とす故に是等災害を未然に防遏する爲隨時警報を發するの外日々天氣豫報を前日に發するもの十五ヶ所に及へり今開設後八ヶ年間多度津に於ける氣象の一斑を表示すること左の如し

自明治廿六年 八年間多度津氣象一斑 其一

月次	空氣溫度 (攝氏)				濕度 (%)		雨雪量 (耗)	
	平均	最高	最低	較差	最高年日	最低年日	平均	絕對
一月	五、一	八、一	一、五	六、六	一四、九	三、九	三	四三、七
二月	四、八	八、三	一、〇	七、三	一七、七	三、〇	七	三九、一
三月	七、五	一一、四	三、四	八、〇	二〇、五	三、六	七	三五、〇
四月	一三、九	一七、一	八、六	八、五	二四、〇	〇、六	七	九六、九
五月	一七、三	二一、四	一三、〇	八、四	二七、〇	三、八	七	一〇五、九
合計								
一日中最多年日								

月次	全年	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
平均	一五、三	二、七	二五、九	二七、七	三三、五	一七、三	一三、四	七、六
最高	一九、一	二五、五	二九、六	三三、七	三七、四	二二、五	一六、四	一〇、八
最低	一一、四	一八、三	二二、一	二四、三	二九、八	一三、八	七、七	三、五
較差	七、七	七、二	六、五	七、四	七、六	八、七	八、七	七、三
最高年日	八、二	二〇、〇	二六、六	三〇、八	三六、六	二二、一	一六、四	一〇、三
最低年日	二、二	八、〇	一六、二	一八、六	二二、三	一四、四	〇、八	二、六
平均	八〇	八〇	八〇	七七	八〇	七六	七五	七二
絕對	三六、七	三九、一	四二、五	四三、二	四〇、八	三六、一	三二、四	二九、七
合計								
一日中最多年日								

(備考)

(一) 氷點以下ノ度ヲ示スモノナリ

自明治廿六年 八年間多度津氣象一斑 其二

月次	風速度 (一秒時間米)		風向ノ年日	類 別 日 數 (平均)										
	平均	最強		霙	雪	霰	雹	雷電	霧	快晴	曇天	暴風	霜	
一月	六、七	三六、〇	西三ノ十四	九、六	六、〇	四、四	—	—	—	〇、五	一、二	五、六	一七、〇	九、四
二月	六、一	三三、九	西南西次ノ一	九、九	五、〇	四、二	〇、五	—	—	〇、一	二、五	六、四	一三、七	九、七

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	全年
四、六	三、九	三、六	三、二	三、三	三、四	三、三	四、〇	五、〇	七、二	四、五
三、〇	三、四	三、九	一四、九	二四、八	三三、五	三〇、七	三〇、〇	二七、七	三三、八	三三、五
西世ノ十四	西世ノ廿五	西世ノ三	西南西世ノ六	西南西世ノ廿五	西世ノ六	西南西世ノ十二	西世ノ十六	西南西世ノ十二	西世ノ廿三	西世ノ廿六日
一三、七	一三、〇	一三、六	一三、六	二二、七	八、五	一四、五	一〇、一	九、七	一〇、五	一三、六
一、六									一、六	一四、三
一、五								〇、六	三、九	一四、六
〇、一	〇、一						〇、一	〇、一		一、〇
〇、二	〇、七					二、九	〇、三	〇、四	〇、四	一五、〇
〇、五	〇、九	〇、九	一、六	三、四	〇、六			〇、二	〇、一	五、五
二、七	四、九	三、四	一、五	二、二	三、二	一、七	三、九	五、六	三、四	三六、二
一〇、一	一三、〇	一三、一	一三、〇	一〇、二	六、七	二、三	九、一	五、六	五、七	二二〇、九
一一、〇	七、七	六、五	二、四	四、六	四、七	六、二	九、四	一三、五	一九、一	二四、九
五、〇	〇、一							〇、五	六、七	三一、五

農事試験場 香川郡栗林村に在り明治三十二年四月の創立に係る縣下農産の主
要なるもの米麥の右に出るものなし故に試験事業も夏作は専ら米を主とし冬
作は麥を主とし其他甘蔗栽培の得失を試験するを以て本來の主眼とす傍ら土

壤肥料の分析並昆虫の飼育試験を行ふ目今試験に要する土地の面積壹町九反
九畝十八歩あり職員は技師農學士一人(場長)農藝化學士一人技手三名書記一名
とす又明治三十三年四月に至り郡に於ても農事試験場を設置したるもの四郡
あり即ち大川綾歌仲多度三豊是なり是等試験場も亦米麥試験を主とし傍養蠶
及家禽飼育等を爲すものあり其主要作物米麥の試験に就ては租試験事項を前
年に於て協定せしめ縣立郡立互に脈絡を通して成蹟の普及を圖り彼是并無
きことを期せり又此四郡立農事試験場に對し縣稅補助規定により一郡平均金
四百圓一ヶ年金千六百圓を其經費の額に應じて等差を認け補助せり縣立郡立
農事試験場の位置左の如し

- | | |
|-----------|---------|
| 香川縣農事試験場 | 香川郡栗林村 |
| 大川郡農事試験場 | 大川郡石田村 |
| 仲多度郡農事試験場 | 仲多度郡龍川村 |
| 綾歌郡農事試験場 | 綾歌郡瀧宮村 |
| 三豊郡農事試験場 | 三豊郡常盤村 |

農産及林産物

農産に属する種類凡九十種林産に属するもの凡二十六種此二種一ヶ年の生産額を推算すれば千四百十三萬七千圓に達せり今農産物中主要なるもの十七種の産額價格を擧ぐれば左の如し

農産物 (三十三年生産)

品名	数量	價格
米	六四一、七七五	七、〇六二、四七八
麥	五二四、五四七	三、四二八、二五〇
大豆	一一、八三〇	八八、三二一
小豆	一、四七四	一五、五五六
大豆	二、二〇三	一四、三八六
大豆	一八、四五五	一一八、二三六
粟	六、〇〇〇	四〇、六五〇
黍	三、四四二	一九、三三三
蕎麥	六、〇六四	三三、三七八

品名	数量	價格
甘藷	七、七八七、六五一	二、三三三、八四六
菜種	五、六八八	四三、五五五
甘蔗	一三、一九三、二〇四	三五三、九八三
葉藍	一三〇、六一六	四八、四〇一
葉煙草	七五、八〇七	五三、〇一二
繭	一、七三〇	七二、八六七
真田用麥稈	一、四九二、八七二	一二六、四一七
實綿	五四、四五八	三〇、九三六
其他農産林産		二、三五四、九八七
總計		一四、一三七、五九二

老農奈良專二木田郡平井村大字池戸の人なり文政五年同所に生る少時より農業に志を傾け一本稻と稱する一種の稻苗を撰出して之を試作せしに最も收益多きを發見し之を有志に分ちしかは遠近相傳ひて其種子を請ふ者多く稱して奈良早稻と云ふ明治初年碎塊器を創製す構造甚だ便利耕夫一人耕牛一頭を以て一日の力役六人に相當せりと云ふ之を「ひよふなかせ」と稱す蓋し之を用ふる

もの多きに随ひて傭役人夫を減すればなり又甘蔗壓搾器を改良し牛二頭を以て運轉し一日甘蔗二百貫目を搾り白下糖百斤を製するに至れり其製糖生産費を減するもの鮮なからす明治十年の夏青森縣下に螟虫發生蔓延するや苗代に石油を注ぎて蛾を殺し又田面に點火誘殺を行ひ且つ苗の發育成長を催進して其莖を硬固ならしめ以て插秧後に於ける螟虫の害を防遏すへしとの説を立て大に農民に裨益を與へりと云ふ

明治十七年大日本農會第三回の總集會あるに際し其席上に於て他年の實驗談を述へ又紫菜種の利益を唱道し之を來會の有志に頒ち其利を共にせむことを勸誘す其言行切實深く會衆を感動せしむ當時大和の中村直三、上野の船津傳次平と共に日本三老農と稱せらる著す所の農業得益辨新撰米作改良法、慈苜栽培調理法、食用兔飼養法あり一時大に農業社會に行はる專二千葉縣秋田縣等に聘せられ農事の改良に心思を勞し肢體を役し其成績著しかりしが明治二十年五月秋田縣南秋田郡川尻村に在りて病死せり享年七十一歳其死する前日綠綬褒賞を賜ふ其記左の如し

日本帝國褒賞之記

香川縣讚岐國三木郡平井村大字池戸

奈良 良 專 二

夙ニ意ヲ農耕ニ注キ專ラ力ヲ稻種ノ撰擇ニ竭シ自ラ苗種ヲ試作シテ洽ク之ヲ各地ニ頒與シ遂ニ奈良種ヲ博スルニ至ル又碎塊器ヲ創製シテ耕種ニ便益ヲ與ヘ砂糖壓搾器ヲ改良シテ人力ヲ省キ慈苜蒔蒔ノ栽培調理法、食用兔飼育法、農家得益辨等ノ數書ヲ著シ又巡回教師ニ聘セラレテ農耕ノ要法ヲ説キ或ハ秋田縣廳ノ囑託ニ應シ四十種ノ稻苗ヲ試作シテ衆民ニ感發セシメ大日本農會ニ臨ミテ經驗説ヲ講演シ其他大麻紫萹英甘藷蔬菜ヲ栽培シ農産ノ増殖ヲ圖リ爲ニ私財ヲ投スル數百金老ニ至ルモ怠タラス洵ニ奇特トス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ綠綬褒賞ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

奉 勅 明治二十五年五月三日

工産物

工産に關する種類凡百八十種其生産價額九百九十六萬七千二百四十二圓に達せり今其重なるもの而已三十二種を擇ひ其生産數量と價額を擧ること左表の如し

(八二)

品名	數量	價值
羽二重	二、九五五	四九、二六二
白木綿	四三三、八二五	一九六、八一四
其他綿織物	一三七、七三二	二九五、五九〇
絹綿交織物	一九、七三二	二七、四一六
生糸	二、三三四	一二七、〇八〇
紡績綿糸	二五〇、七四〇	五〇一、四八〇
麥稈真田	一、三一三、六三四	三七八、六九五
團扇	一三、〇五七、二〇〇	九五、六三〇
同骨	三九、九六五、〇〇〇	一四三、八四五
傘	五〇九、一〇五	七三、八五六
莞筵	四、三三四	五五、〇三一
紙類	二、五三八、九三五	二六三、二〇四
竹細工	一、三五三、二二三	九八、三三九

工產物

數

量

(三十三年生產)

價

(九二)

漆器	陶器	瓦及煉瓦	菜種油	油粕	砂糖	素麵	清酒	醬油	味噌	味淋	酢	味噌	小麦粉	粉柏	摺附木
一三九、〇三二	一九、四一一	一七六、八〇〇	一〇八、〇一六	四一、三七五	一、二三三、二七六	二〇五、〇一一	一、〇六八、九五九	一、一七五、九五四	一六、七七四	二、七〇九	二、七〇九	二、七〇九	四二七、一五八	一、一二八、四四〇	九四五一、二〇〇

一二九、〇三二

一九、四一一

一七六、八〇〇

一〇八、〇一六

四一、三七五

一、二三三、二七六

二〇五、〇一一

一、〇六八、九五九

一、一七五、九五四

一六、七七四

二、七〇九

二、七〇九

四二七、一五八

一、一二八、四四〇

九四五一、二〇〇

刈煙草	六三九、一六三
卷煙草	一一、六八〇、八三五
度量衡器	三三三、二〇〇
賣藥	二、四九七、三三五
其他工産	—
總計	—

麥稈具田	一四七、〇三七
其他工産	二二、三三三
賣藥	二〇、八一七
其他工産	一一二、五三七
總計	二、五〇五、八三三
其他工産	九、九六七、二四二

麥稈具田 輸出品麥稈具田の生産は近年の創始に係れり明治三十二年に在りては斯業の製造販賣に従事するもの讃州全國を通して千數百人に過ぎざりしも到處の田圃最も此種の麥作に適し稈長く光澤あり具田の原料として内外の好評を博し且つ其麥を食用に供し稈は貿易商品となりて海外の販路廣きに依り農家の副産物として唯一の財源たり茲に於てか此種の麥作を爲すもの具田を製造するもの逐年増加し多數の輸出あるに乘し往々粗製品を發見するに至り之か矯正の爲め同業組合の設置を必要とし明治三十二年組合本部を高松に支部を各郡に置き検査員を本支部に配置し各製造家の戸毎に就て専ら其製品を検査し凡縣下の製造品にして組合本支部の検査に合格したるものに非らざれば証票を付せず証票無きものは賣買を許さざるの規定を設けたり現今縣下組合員の數七千三百三拾一人其検査に従事するもの生産時期の繁閑に依り多少の異動あるも本年九月の現在七十七人あり又本年(卅四年)四月以來半年間に製造したる製品に就き検査せしもの九月の現在五十八万三千六百拾五反の中合格品五十七万千反餘價格は時々變動を免れざるも意匠の巧妙にして外客の嗜好に投合するものは壹反七八拾錢乃至壹圓貳拾錢に達すべく本年は價格最も低落し殊に其舊套陳腐に屬する製品の如きは三十三年の半價に過ぎざるものありしと雖とも仍平均參拾七八錢の價格を保ちて輸出せり三十三年の生産六十六万反本年度は凡一百万反を下らざるへし將來意匠品の製造を主とし歐米の嗜好に投ずるときは百万圓以上の生産價額を擧ぐるは容易の事のみ其價格に昂低あり商況に消長あるか如きは貿易商品の常態にして其一盛一衰は喜愛を爲すに足らざるなり

砂糖 近古砂糖鹽綿の三種を以て讃岐の三白と稱し地方主要の物産と爲せり今其一到敷へられたる製糖業の濫觴を釋ぬるに資曆明和の頃藩醫に池田玄丈と云へる醫師あり藩主松平頼恭の命を受け甘蔗の栽培より製糖の業に至るまで

頗る研究せしも未だ宿志を遂ぐるに及ばずして病死せり其將に歿せんとするに臨み門人向山周慶、大川郡白鳥村の人)に遺囑し其志を繼かしむ周慶先師の遺命を受け専ら研究せし時偶四國遍路者薩摩人良助なるもの大内郡(今の大)に來りて重病に罹れり周慶爲めに藥餌を與へ厚く之を扶助したるにより良助深く其恩誼は感し疾癒るの後歸國し甘蔗數莖を得て再び周慶の許に至り其栽培法及び製糖の術に至るまで盡く之を周慶に傳たり蓋し再生の恩に報ひしなり歸國の後砂糖製造法を他國人に傳授せしは國禁を犯したるものとなし將に縛せられんとするを聞き復た當國に來りて生涯を終れりと云ふ是乃ち砂糖製造業の本國に起れる始めなり向山周慶一たひ其方法の傳授を受けしより志度の人平賀源内等と共に製糖の利を唱へて大に農民を鼓吹し甘蔗の栽培を勸誘せしにより糖業漸く發達したり又天明年間に至り高松藩に於ても最も之を獎勵せしにより益盛運に向ひ讚岐砂糖の名聲遠近に傳播せしは實に此時に在り天保の初年に至りては高松藩の執政に木村亘寛速水奉行に吉原三八、杉野九郎左衛門等の賢太夫輩出し藩廳に砂糖方を置き低利の資金を貸與し或は荷爲替海上爲替を以て融通の途を啓き凡砂糖の生産に關しては甘蔗の栽培より製糖の運

輸販賣に至る迄特殊の保護を與へ勸奨に勉めたるを以て其産額年を追て増加し頗る順境盛運に向ひ弘化嘉永より元治慶應に至る二十餘年間は殆ど盛況の極に達せしが維新の後に至り外糖輸入の制限を解かれ加ふるに廢藩と共に製糖業の保護方法を廢絶し民間の自營に放任せしにより外輸入の砂糖益其額を増し内米價の昂騰に伴ひ肥料の價格備役の貸銀も亦年を追て騰貴し愈生産費用を増加し輸入外糖と對立並行すること能はず斯を以て内地の商況振はさると共に其原料たる甘蔗の作付も亦漸次衰頽の傾向を呈せり然れども内國糖は自から内國人の嗜好に適し殊に國民生活の程度漸く昂進するに隨ひて砂糖の需用も亦逐年増加の趨勢ありされは器具器械を改良し製造の規模を擴張し努めて生産費を減するに至らば其衰勢を挽回すること敢て至難の業に非ざるか如し左に二十七年より七ヶ年間の甘蔗作付反別と其産額價格を擧げ糖業消長の一斑を示す

年 度	作付反別	收穫高	製糖產額	價 格	製一反步當 糖價格
明治貳拾七年	二、六四	二六、三〇五、七三七	五、六五五、四八八	一、七六、二五	六五、九九五
全 貳拾八年	二、六三	二〇、〇八五、一三三	四、〇五五、六八三	一、二五〇、六四三	四七、六九八
全 貳拾九年	二、三三	一一、九七、四九七	三、八七六、七五〇	一、五三四、一一	六、四九一
全 參拾壹年	一、九一五	一五、七九六、九五〇	三、五〇一、三三三	一、八二六、二九五	九五、三六九
全 參拾貳年	一、四六四	一二、二五〇、八二七	二、三三三、六二二	八九九、九六六	六二、四七三
全 參拾參年	一、四〇六	九、九三九、四七七	二、一〇九、一〇八	一、四四一、三九三	一〇一、五二九
壹反步平均	一、五二六	一三、一九五、一〇四	二、一〇九、七七一	一、三三三、二七六	八〇、八二七
		七九強	一七三強		七四、六三強

向山翁沙糖開基碑

夫沙糖以甘蔗作之、人家食物之用不少矣、然上古無之、蓋享保年間自琉球始傳其法於薩州也、吾讀國府案其法既久矣、昔命醫池田玄丈者搜索之、然不能得矣、時有向山翁者、即玄丈之弟子也、翁年猶少壯遊學于京師、時有薩州醫某生者、能製沙糖、翁乃就學其法、故能達其術、國府聞翁能達其術、乃召出令製沙糖、翁已蒙其命、亦有薩州人良助者來讚

時得疾大困、翁為診治、遂愈、良助本能達造沙糖術、於是為翁佐之、二人同心、勉勵製出冰糖、紫糖、霜糖、盡能成之、皆得絕品、享保三年己亥、國府以翁本善醫、且能創製沙糖、為藥坊主、給月俸、後竟至十三口、於是封內製沙糖者甚多、皆以之得利益、亦國中富饒之一助也、翁諱政章、稱周慶、讀大內湊邑人也、文政二季己卯九月二十六日病歿、年七十四、翁已沒後、其鄉人思沙糖利潤及人不少、乃為建其祠、祭之、今又將為建碑、乃來乞余文、夫小善必錄、微功不遺、今翁之功大也、固宜記、思吾與翁常相識、義不可辭、於是為叙其事、遂係之以銘、銘曰

蔗是奇種、挺挺叢生、似竹非竹、有汁甘清、製為沙糖、其利元亨、
 證人索術、其術難成、卓然向翁、得法發明、乃能製出、妙究其精、
 其術遂弘、助國富榮、今建此碑、勒翁功名、

弘化三歲丙午仲夏

藩儒 高 尾 發 撰

故平賀源內

平賀源內名國倫、字士辨、鳩溪ト號、幼名ヲ四方吉ト云フ、大川郡志度村ノ人、其ノ先ハ信濃ノ豪族平賀源心入道ナリ、父國久、高松藩ノ小吏タリ、源內幼ヨリ讀書算數ヲ好ム、性聰敏、才智衆ニ超ユ、延享ノ初、源內年尙十二ナルモ、獨立ノ精神固ク發

明スル所アリテ國益ヲ増シ大名ヲ百世ニ垂レンコトヲ期シ因リテ醫學ニ志シ本草學ヲ研ク高松侯松平頼恭之ヲ奇トシ召シテ栗林藥園掛小吏タラシメ月俸四口以テ十枚ヲ給ス源内乃チ綾歌郡白峯ニ朝鮮人參ノ移植ト香川郡東濱村字花畑ニ甘蔗ノ栽培ヲ施ス寶曆十一年源内年三十致仕シテ江戸ニ遊ヒ官醫田村元雄杉田鶴齋等ト交リ益物産ノ學ヲ修ム明和元年源内秩父山ノ石綿ヨリ火浣布ヲ製ス之ヲ幕府ニ上ル幕府之ヲ清商ニ示ス清商驚奇之ヲ本國ニ傳播セリ其他金唐革紅革玻璃ノ懷中自惚境(水銀應用)等皆源内ノ創製スル所タリ全七年更ニ長崎ニ遊ヒ和蘭本草學ヲ修メタリ偶々西洋ニ越歷電機器アルヲ聞キ曰ク是レ甚タ曉リ易キノミト數日考案ノ後電理機(電信器)及電理醫療器ヲ作ル世其ノ奇巧ニ驚カサルナシ凡此等ノ機器及發明今日ニ在リテハ近易ニ似タルモ百年ノ前已ニ之ヲ創始ス眞ニ破天荒ノ才ナリト云フヘシ源内又支那交趾ノ陶窯釉法ニ倣ヒ多ク陶器ヲ作ル奇巧異彩世ノ珍トスル所ナリ之ヲ源内燒ト云フ其遺法ニ依リテ讚岐ニ赤松陶濱屋島林叟等ハ屋島燒ヲ傳ヘ志度ニ庸入アリ三本松ニ道入アリシナリ源内始メ田沼意次ニ依リ仕ヘテ其抱負ヲ行ハントス而シテ事志ト違フヲ以テ意ヲ仕途ニ絶チ専ラ著書ニ力ヲ用フ其著ニ神農本草經本草和名

考物類品備本草比肩食物本草火浣布考四季名物正字考萬國圖日本穀木石禽獸魚介蟲ノ諸譜等アリ晩年世ヲ玩ビ院本小説ヲ戲作シ風來山人トイヒ福内鬼外ト號ス神靈矢口渡院本風來山人六部集ノ如キ最モ世人ノ欣賞スル美文ノ妙篇トス安永八年十二月年四十八ニシテ死ス墓ハ江戸橋場總泉寺ニ在リ題シテ智見靈雄ト云フ

陶業 中古王朝の盛りし時當國より陶磁を貢物として奉りし事ありて今にも綾歌郡内に陶といふ村名を留め(村内字瓶谷といふ處ありて古陶の殘片土中より出つ)又仲多度郡内に土器川といふものあり共に往時陶業の盛なりしを知るに足る

寛永年間凡七百二十餘年前京師陶工野々村仁清九龜侯の爲めに屢茶器水注皿鉢等を作り之を納る當時仁清は藩の執政多賀氏の家に來り寓せりと傳ふ此れと同時に高松侯も亦陶工紀太理平仁清の弟子を以てて城南御林(今の栗林公園)の傍に陶窯を起さしむ粘土は大川郡富田村丸山に取りしといふ其色彩古清水燒と相似たり世に之を高松燒又は理平燒といふ理平子孫世々其の業を傳へ二世理平以下は銘高を用ふ高といふは被風廢藩較衰へしも今の十三代理平復た之を繼ぎ栗林公園内に陶窯を起せり

寶曆年間凡四百十一年前大川郡志度町の平賀源内研學の餘力を以て支那交趾窯の釉法を悟り紫黄青の諸色を用ゐる珍器を作る銘するに鳩溪行草二休を以てす世に之を源内焼と稱す其の五世の孫熊太郎復た斯の業を傳ふ先是志度に赤松彌右衛門といふ者陶業を營みしが其の四世の孫松山名光信字田夫通稱字吉田源内に釉法を傳へられ後に天明年間凡百十餘年前富田金山の麓に窯を移し染付南京焼をも作りしが之を弟子藤造に譲りて復た志度に歸り窯を作りしかば世に之を志度焼といふ銘は楢園内に松山楷を用ふ松山の孫陶濱高松城下に移り業を繼ぐ陶濱の子喜平又陶濱と稱し高松市古新町に業を傳ふ之を陶濱焼といふ文化年間凡九十九餘年前平賀源内の甥源吾の門に三谷林叟といふ者ありて木田郡屋島山の麓瀧元村に交趾風の窯を開く銘は林叟行草或は楢園内に屋島燒楷を用ふ爾後今日に至るまで其業を傳ふ世に之を屋島燒といふ

林叟と同時京師の陶工仁阿彌道八大川郡三本松町堤氏に招かれて京焼の風を傳ふ銘は龜甲内に讚窯楷の二字を用ふ世に之を讚窯道八といふ此の頃高松城下の豪商津島氏樂焼の茶器風爐類を作る之を壽美屋焼といひ又城南淺野村の豪農向井氏其宅西舟岡山にて高取焼を模作せり之を舟岡焼といふ漆器の名工

玉楮象谷亦時に陶器を作る世尤も之を珍とす

香川郡中笠居村の陶器は六十餘年前觀音寺の遠藤庄助始めて陶窯を開き泉川喜助練習を受けて製造を始め今や二十九戸の製造戸數あり土瓶土鍋行平の類最も多く三備及九州の北部其他兵庫にも販路を有し壹々年壹万六七千圓を上下せり此他甕類土瓶土鍋土管の如きは小豆那を除くの外各郡市に産出あり其金額六万圓以上に達すれども率ね縣内の需用に止まれり

銀行會社 諸會社の數頗る多し株式會社にして銀行の業務を營むもの十八合資會社合名會社各一此二十個銀行の株式拂込金額二百三十九万四千七百九十圓にして乃ち本縣農商工業の金融機關なり又各種の製造及販賣を業とする株式組織の會社三十九其拂込資本金二百四十五万二千五百七拾圓合資會社四十七此資本金四十二万九千九百二十三圓合名會社七此資本五万六千圓是等諸會社の總資本金額を通算すれば五百三十三万三千二百八十三圓に達せり各會社に就て社名及營業種別等を擧ぐるは其煩に堪へざるを以て之を左に表示せり

銀 行

郡 市 行	名 營 業 種 別	創 業 資 本	年 月 總 額	拂 込 資 本 金	在 地 名	重 役 中 ノ 氏 名
-------	-----------	---------	---------	-----------	-------	-------------

郡市社	名營業種別	創業年月	資本總額	拂込資本	在會地	社名所	重役中ノ氏名
小豆郡	小豆島草壁醬油株式會社	上三、〇三	五〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	草壁	草壁村	取縮高橋房次郎
	小豆島醬油株式會社	上三、〇五	五〇,〇〇〇	二二,五〇〇	草壁	草壁村	取縮高橋房次郎
	小豆島倉庫株式會社	上三、〇四	五〇,〇〇〇	二二,五〇〇	草壁	草壁村	取縮高橋房次郎
	小豆島醬油製造株式會社	上三、〇四	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	草壁	草壁村	取縮高橋房次郎
	小豆島池田醬油株式會社	上三、〇七	四〇,〇〇〇	一六,〇〇〇	池田	池田村	取縮高橋房次郎
	小豆島馬越醬油製造株式會社	上三、〇六	二〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	北浦	北浦村	取縮高橋房次郎

會社其株式會社

計	丸龜市	高松市
株式會社	株式會社	株式會社
合名會社	株式會社	株式會社
合資會社	株式會社	株式會社
計	計	計
一八〇	一〇	一〇
一〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
通	通	通
町	町	町
取縮長谷川八郎	取縮長谷川八郎	取縮長谷川八郎

大川郡	小豆郡	綾歌郡	仲多度郡	三豐郡
株式會社大内銀行	株式會社小豆島銀行	株式會社坂出商業銀行	株式會社多津貯蓄銀行	株式會社西讚銀行
業三、二〇〇,〇〇〇	業三、一〇〇,〇〇〇	業三、〇〇〇,〇〇〇	業三、〇〇〇,〇〇〇	業三、〇〇〇,〇〇〇
六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇
三本松村	土庄	坂出	多津	觀音寺
對馬清平	大森辨藏	宮井孫三郎	宮井孫三郎	細溪宗次郎

郡市社	名	營業種別	創設年月	資本金	會社所在地名	重役中ノ氏名
小豆郡	小豆島四洋醬油製造合資會社	醬油製造販賣	三〇、三	七、〇〇〇全	九富林三村	九富林三
	小豆島醬油廣瀬合資會社	全	二九、〇九	五、五〇〇坂	手村	廣瀬茂千賀
	小豆島大部醬油合資會社	全	三〇、〇一	六、〇〇六	大部村	橋上友三郎
	小豆島入部醬油合資會社	全	二九、一〇	八、五〇〇池	池田村	岡井熊次郎
香川郡	讃岐食鹽合資會社	鹽賣買	三三、〇三	八、〇〇〇東	濱村	中川山太郎
	林田倉庫合資會社	金錢貸付業及肥料雜品委託販賣	三三、〇五	五、〇〇〇林	田村	代表社員 松浦和喜之進
	蟻土木合資會社	土木工事受負業	三三、一三	三、五〇〇坂	出町	立石九郎右衛門 業務擔當社員 豐島小太郎
	宇多津商品合資會社	物品運送委託受負業	二七、二三	四、〇〇〇宇	多津町	業務擔當社員 鹽田時敏
綾歌郡	綾泉酒造合資會社	酒類釀造販賣	三〇、三	三、〇〇〇羽	床上村	鹽田時敏
	鴨川倉庫合資會社	倉敷業金錢貸付業	三〇、〇七	二〇、〇〇〇府	中村	藤井龜三郎
	坂出商船合資會社	商品買賣海陸運輸	二六、一一	三、〇〇〇坂	出町	濱野佐之吉 業務擔當社員 濱田金太郎
	鹽產合資會社	食鹽製造販賣	二六、三	一〇、〇〇〇全	町	濱野佐之吉 業務擔當社員 濱田金太郎
	合資會社旭商會	木材及建築諸材料販賣	三〇、一〇	三、五〇〇多	度津町	業務擔當社員 丸尾熊造
	櫃石織物合資會社	木綿製造販賣	三三、二	二、〇〇〇與	島村	櫃本喜八
仲多度郡	琴平園藝合資會社	盆栽、賣買園藝築造	二九、一〇	一、〇〇〇琴	平町	岩崎辰己

郡市社	名	營業種別	創設年月	資本金	會社所在地名	重役中ノ氏名
大川郡	東讚精米合資會社	精米販賣米麥貨揚	三三、二	一〇、〇〇〇志	度町	業務擔當社員 間島九平
	大川郡大内精米合資會社	米穀販賣貨揚	三三、〇六	三、〇〇〇三	本松町	谷口市平
	東讚生命保險合資會社	生命保險	二九、一〇	四、〇〇〇松	原村	橋本祐祐
木田郡	屋島瀉元鹽商合資會社	製鹽販賣石炭賣買	二九、〇七	四、六〇〇瀉	元村	福家義局
	上庄合資會社	茶葉製造販賣	二九、〇七	一、一五〇洲	崎村	業務擔當社員 森口兼太郎
	草壁吳服合資會社	吳服太物販賣	三三、一六	一〇、〇〇〇草	壁村	業務擔當社員 鏑田林三郎
	池田製麵合資會社	精米製粉素麵製造	三〇、一三	三、〇〇〇池	田村	業務擔當社員 福崎清助
小豆郡	小江素麵合資會社	素麵製造販賣	三〇、〇六	三、五〇〇四	海村	須藤光助

會社其二合資會社

計	三九	三九	三九	三九	三九	三九
丸龜市丸龜製鹽株式會社	鹽業	二七、〇六	三、〇〇〇全	三、〇〇〇全	町	松田利吉郎
株式會社古香堂書畫骨董業	書畫骨董業	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇通	五、〇〇〇通	町	龜野敏三郎
丸龜麥稈株式會社	麥稈具田製造賣買	三〇、〇〇〇	七、五〇〇松	七、五〇〇松	屋町	社長取締役 長谷川和愛
計	三九	三九	三九	三九	三九	三九

郡市	社名	營業種類	創設年月	資本金	會社所在地名	重役中ノ氏名
九龍市	坂合資會社	魚類介藻類委託販賣	三、二	一〇、〇〇〇下	橫町	全 椎名秀胤
	高松工業資會社	建築指物受負業	三、〇六	六〇〇南	新町	業務執行社員 宮谷彌一郎
	高松漁業資會社	魚類販賣	三、一〇	三、〇〇西	濱町	代表社員 伊勢島長松
	諏圓合資會社	花莖製造販賣及原料	三、〇六	一、〇〇〇福	島町	業務執行社員 富山寅吉
	三渡邊合資會社	內外線綿各紡績落綿	三、〇三	五、〇〇〇鹽	飽町	業務擔當社員 青直男
	丸龜活版合資會社	活版組立印刷	二七、一〇	三、二〇〇本	飽町	全 都村源吉
	丸龜團扇合資會社	團扇及張下地製造販賣及倉庫業	二七、〇七	五、〇〇〇鹽	飽町	全 富羽政吉
	讚岐木材合資會社	木材販賣	二一、一〇	三、〇〇〇地	上方	全 藤井仲次
	八幸花莖合資會社	花莖製造販賣並二原料湖草販賣	三三、〇五	三、〇〇〇全	上方	代表社員 笠井廣照
	計	四七		四九、九三		

會社共三名會社

郡市	社名	營業種類	創設年月	資本金	會社所在地名	重役中ノ氏名
三豐郡	向井合資會社	肥料穀物販賣	三、二	六、〇〇〇與	北村	業務執行社員 向井半次郎
	合資會社讚岐製糸場	生糸製造生糸繭賣買	三、〇五	三、〇〇〇豐	原村	代表社員 龜山熊男
	合資會社香川商會	陸海軍隊需用品供給	三、〇六	五、〇〇〇善通	寺町	業務擔當社員 瀬尾幸太郎
	朝日合資會社	煙草庖丁販賣	三、二	一〇、〇〇〇觀音	寺町	全 細川彦治
	觀音寺砂糖合資會社	內外國產砂糖販賣	三、〇四	二、〇〇〇全	濱町	全 久保安治
	讚岐判綿合資會社	綿製造等業	二六、〇二	五、二〇〇豐	濱町	業務擔當社員 大野亨平
	讚登判綿合資會社	綿製造販賣	二四、〇八	四、五七和	田村	全 瀧田芳平
	大矢根兄弟合資會社	煙草庖丁製造	三、〇八	五、〇〇〇仁	尾村	業務擔當社員 大矢根傳治郎
	眞鍋兄弟合資會社	人形雜製造販賣	三、二	五〇〇全	田村	全 眞鍋芳松
	讚岐互濟合資會社	生命保險	元、〇三	一、〇〇〇神	田村	全 青野新太郎
	西讚生命保險合資會社	生命保險	二七、一〇	一、〇〇〇豐	田村	全 片山崎五郎
	讚岐鋳物製造合資會社	物製造販賣	三〇、〇六	九、〇〇〇南	新町	全 宮本芳太郎
	高松掃除合資會社	井取拾	二一、〇四	五、〇〇〇登	番丁	全 武田宇次郎
	圓通製煙合資會社	寸製造販賣	三〇、二	四、九〇〇築	地町	全 大内與次郎
高松製劑合資會社	藥製劑販賣	二六、〇三	五、〇〇〇龜	田町	全 八木久太郎	

小豆郡合名會社鎌中商會	航海業及米穀肥料賣	三、〇〇〇	三、〇〇〇全	村	業務執行員 中田延次
岡田酒造合名會社酒類製造販賣	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇池	田	業務執行員 高橋實造	
綾歌郡小松讚鹽合名會社食鹽米穀賣買	三、〇〇〇	五、〇〇〇坂	出	業務執行員 小松忠八	
高松市西濱漁業合名會社漁具ノ仕入漁夫ノ雇入生魚仲買	三、〇〇〇	一、〇〇〇西	濱	代表社員 和波龜八	
丸龜市合名會社假家川店筆紙墨賣買	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇通	町	代表者 高木竹八	
計	七	五、〇〇〇	一		

同業組合 其一

明治三十三年法律第三十五號重要物産全業組合法ニ依リ

同業組合ヲ組織セシモノ左ノ如シ

組 合 名 稱	事務所位置	認可年月	組合區域	組合人員	組長氏名
讚岐漆器同業組合	高松市南新町	明治三十二年三月	縣 下 一 四	四二名	藤川米造
香川縣麥稈真田同業組合	同 市 新 町 全	三十二年五月全		七、六三二	小野麟吾
讚岐製紙同業組合	全市旅籠町全	三十二年十月全		一五二	長谷川小一郎
香川縣度量衡同業組合	全市新通町全	三十四年八月全		三六	岡真澄

羽二重同業組合	全市七番丁全	三十四年十二月	香川、三豊、綾歌、木田ノ各郡及高松市	一〇	細川雄藏
香川縣西讚鹽田同業組合	綾歌郡坂出町全	三十四年十月	讚 三 郡	一四一	宮井孫三郎

同業組合 其二

明治三十二年勅令第三百四十號酒造組合格則ニ依リ

同業組合ノ組織セシモノ左ノ如シ

組 合 名 稱	事務所位置	認可年月	組合區域	組合人員	組長氏名
香川縣大川郡酒造組合	大川郡長尾村	明治三十四年三月	長尾稅務署管内	二四	間島仁平
全 小豆郡酒造組合	小豆郡洲崎村全	三十四年六月	土庄稅務署管内	七	盛澄八郎
全 綾歌郡酒造組合	綾歌郡坂出町全	三十四年五月	香川縣綾歌郡内	二三	副組長 宮武松次
全 三豊酒造組合	三豊郡觀音寺町全	三十二年十二月	觀音寺稅務署管内	二一	高城龜太郎
全 高松酒造組合	高松市三番丁全	三十二年十二月	高松稅務署管内	三八	武下隆太郎
丸龜酒造組合	丸龜市全	三十四年六月	丸龜稅務署管内	一九	四野嘉右衛門

輸出入 縣下各港灣より輸出する所の貨物農産工産水産礦物等を合せて凡五十

種内外あり其最も多きものは米、麥、食鹽、砂糖、醬油とす又輸入の多きは肥料、織物、石炭、及石炭油、木材、清酒の類とす然れども輸入は常に輸出金額に達すること無

し三十二年の輸出千二百万圓に對し輸入七百十八万圓即ち四百八十万圓の輸出超過なり三十三年に至ては輸出の數一千十六万圓に減したれども輸入も亦六百十六万圓に過ぎず即ち四百万圓の差あり今三十三年度輸出入の重なる種類に就て其數量金額を擧ること左の如し

品名	數量	價額	重ナル仕向ヶ地
米	三六九、〇〇〇石	三、四〇二、五四九圓	大阪神戸
麥	一六二、六四六石	一、二九六、二二二圓	大阪神戸
雜穀	一五、〇〇〇石	一七五、〇〇〇圓	大阪東京神戸
砂糖	一、三三六、五〇四斤	九六、五二八圓	大阪東京
醬油	六二、一七〇斤	五九、六八八圓	大阪神戸廣島
魚	一八七、六九七斤	二一八、九〇四圓	大阪
鹽	一、〇三三、五九六斤	一、七〇、三四四圓	北海道大阪九州東京
肥料	一、五〇〇、〇〇〇斤	五五、〇〇〇圓	徳島
織物	三〇〇、三二五斤	三、四八、六九〇圓	福井大阪

案内	岐	課	輸出入	數量	價額	重ナル仕向ヶ地
麥稈	漆器	摺附木	紙扇骨	其他	計	三十二年
一、二三四、一〇五	一三三、八〇〇	八、〇三三、六〇〇	二五五、四三三	三五、九五〇、〇〇〇	三、四〇二、五四九	神戸横濱
二四、〇〇〇	一六〇、四三三	二四〇、五二二	一四三、八〇〇	六六〇、一四〇	一〇、一六、七六	東京大阪神戸
三、四〇二、五四九	一、二九六、二二二	九六、五二八	五九、六八八	二一八、九〇四	一、七〇、三四四	大阪神戸廣島
五五、〇〇〇	三、四八、六九〇	五五、〇〇〇	三、四八、六九〇	三、四八、六九〇	五五、〇〇〇	徳島
三、四八、六九〇	三、四八、六九〇	三、四八、六九〇	三、四八、六九〇	三、四八、六九〇	三、四八、六九〇	福井大阪
五、五三〇、四八六	七、一二五	四六、四五〇	三五、三三一	五三、六五四	一六、四四六	九州
五、五三〇、四八六	七、一二五	四六、四五〇	三五、三三一	五三、六五四	一六、四四六	九州
五、五三〇、四八六	七、一二五	四六、四五〇	三五、三三一	五三、六五四	一六、四四六	九州中國
五、五三〇、四八六	七、一二五	四六、四五〇	三五、三三一	五三、六五四	一六、四四六	兵庫
五、五三〇、四八六	七、一二五	四六、四五〇	三五、三三一	五三、六五四	一六、四四六	北海道

織 績 綿 糸 物	織 績 綿 糸 物
四七、四三三	七三、一六〇
一、〇〇〇	一〇九、九三二
一、四一〇	四三、二四四
二、三三、一〇〇	一三、一五四
一、七五四、一四五	五三、六六二
一九、六九九、三四五	一八五、八五六
六〇、七三〇	一〇九、四六〇
五、四三三、〇〇〇	一五五、六九二
一、七三九、六六〇	七四、〇七〇
	六、一三三、四六
	七、一六六、一四

水産試験場 香川郡中笠居村に在り本場は明治三十三年六月の創設に係る現今
 試験する所のもの漁撈製造養殖の三科に分ち漁撈に在りては網地の試験揚繰
 網打瀬網試験染料試験鳥賊釣試験漁場調査等なり製造に在りては「にし」まて「な
 び」たこの鑑詰「まて」にし「なび」の乾製海苔の製造其他佃煮魚味噌酢漬等なり養

殖の試験は鹹水々族淡水魚族の二種に分ちて鹹水に在りては牡蠣真珠灰貝海
 苔の類淡水に在りては鯉鱈鱒鮭等の養殖試験を行ひ及此三科に關する諸般の
 調査を行ふ職員五人技師一人場長たり技手三人書記一人各主管の分科に専任
 す

水産物 本縣の地勢東北西の三面海に瀕し殊に大小無數の島嶼海表に散點する
 を以て漁民の戸口最多し三十三年末の現在戸數七千三百戸人口一万二千七百
 人あり其漁獲物の重なるもの春季に於ける鯛鱒及鱒鮓等とす其豐漁の時季
 に於ては船舶の便に頼り神戸大阪に生魚を販送し否らざるも高松丸龜翠平多
 度津觀音寺等の市街地多く生賣の便あるを以て製造するもの甚た少し三十三年
 年の漁獲物凡二十七種の金額七十二万四千四百餘圓とす製造品は乾鰯煮乾鰯
 海參乾鰯等是其重なるものなり此他の製造品凡十三種類の生産金額十七万六
 千九百餘圓二者を合せて壹ヶ年九拾萬圓餘に達す此他朝鮮海出漁に依り得る
 所のもの亦尠からず

韓海出漁 本縣下の漁民にして朝鮮海に出漁せし起原今詳ならず近時著しく渡
 航者の増加せしは明治二十八年以來とす蓋し同年度より大に遠洋漁業を獎勵

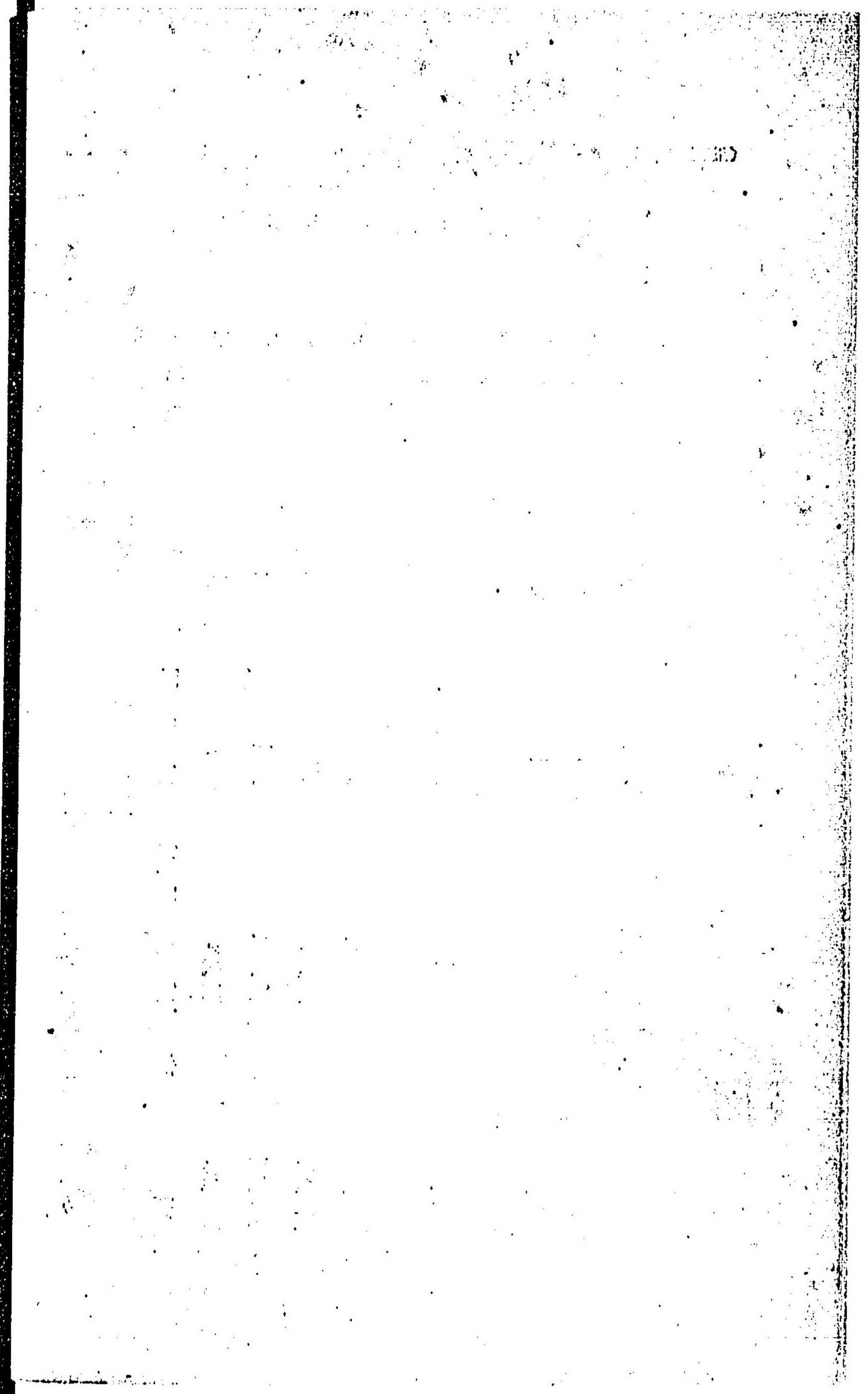
し或は改良の漁船に對し或は出漁の人員に應し或は漁場探検の費用を補充する爲年々千八百圓を縣稅より補助して今日に到れり昨年三十三年春秋兩期出漁したる漁船四百六拾三艘其漁獲物の賣價十六万二千四百圓に達せり先年朝鮮通漁組合を設け本部を三豊郡觀音寺に支部を各郡に置く目今組合員たるもの千七百七十三人縣下各郡に亘るも大川郡津田町小田村最も多し

食鹽 讃岐の國は瀬戸内海に沿ふて氣候温暖の地たり殊に夏季は暑氣強く北風多きに依り瀬海の地到る處製鹽に適するは江湖の周く知る所なり故に中古以來食鹽を以て當國重要な産物とし讃岐三白の一に數ふるに至りたるもの偶然に非ざるなり其濱浦と稱する鹽田所在の箇所を擧ぐれば大川郡に鹽屋浦安戸濱松原濱あり木田郡に古濱新濱各二箇所久通庵治野天亥ノ濱子ノ濱檀ノ浦明神角屋齋田濱あり小豆郡に土ノ庄大高下宮ノ下内濱安田石井ノ諸濱あり香川郡に沖松島新開郷東生島全新濱龜水直島香西濱あり綾歌郡に古濱明治濱新濱綾井御供所林田瀧大越の諸濱及松ヶ浦釜屋浦綱之浦宇夫階三浦の諸浦あり仲多度郡に内濱外濱新濱菊田宮ノ濱あり三豊郡に託間松崎山田古江濱あり高松市に西濱濱ノ丁あり九龜市に新堀濱あり都て五十四箇所の鹽濱あり其反別

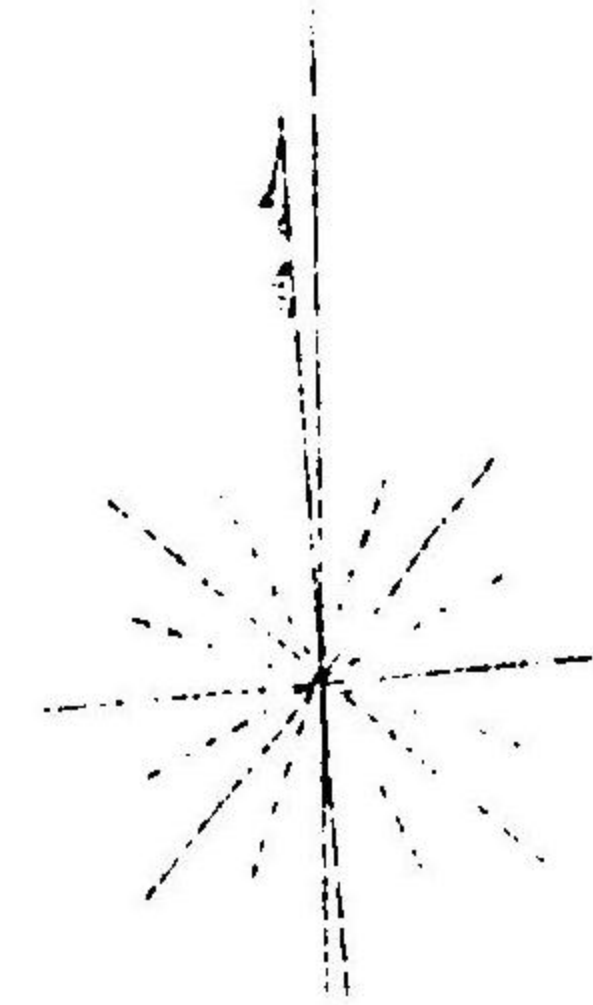
數産額價額を郡市に分ては左表の如し但三十三年末の統計に係るものなり

鹽田反別産額及價額 (三十三年十二月間)

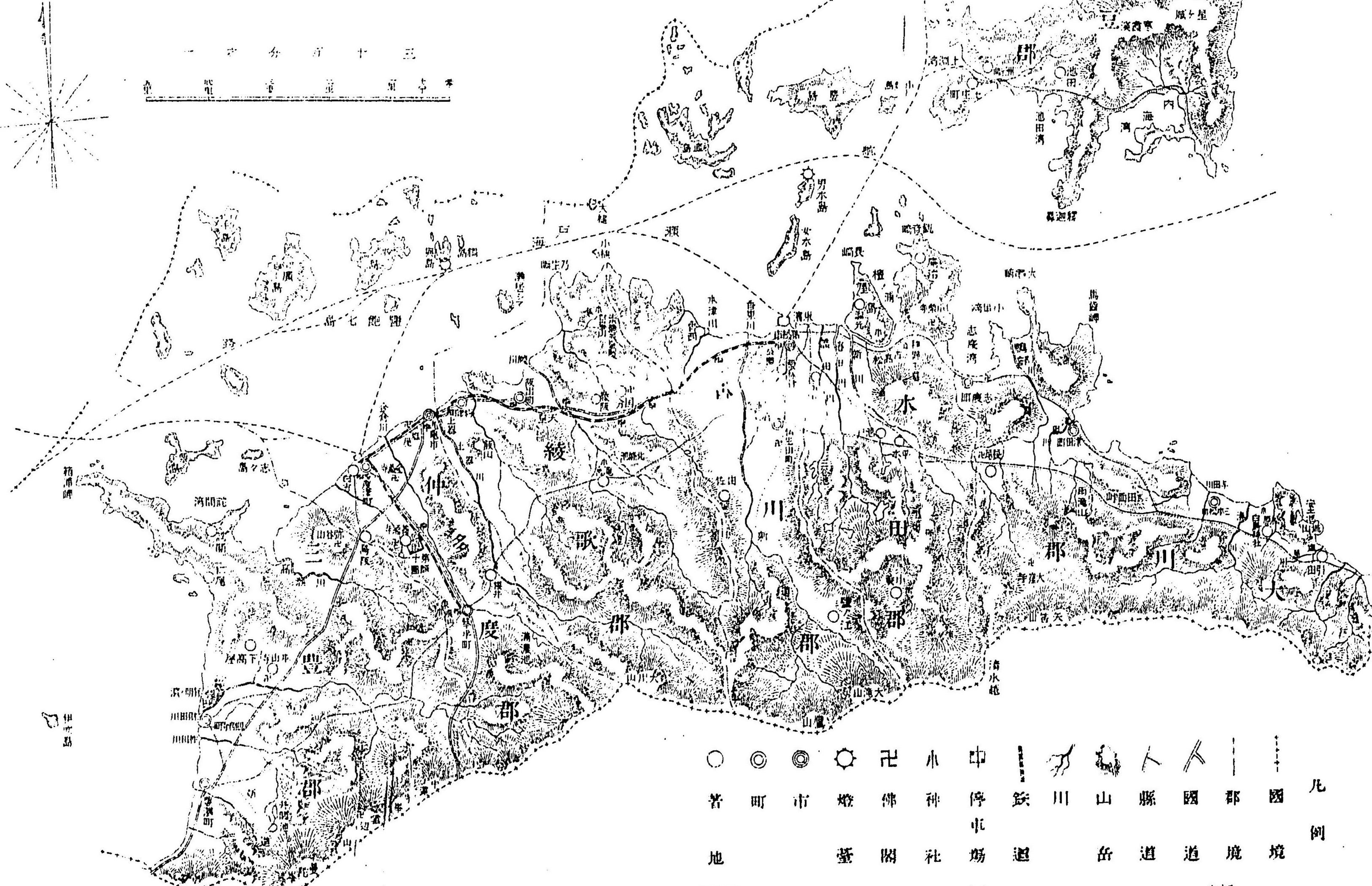
郡市	鹽田反別	食鹽産額	價額
那市	一元	八一、〇九五	六六、一八六
大川	七四	二五、〇九五	三五、〇五〇
木田	二五	四、二三五	三、四四五
小豆	三三	一、四六五	一四、六三五
香川	三三	六五、七六二	六七、七七一
綾歌	二五	四、二三五	一〇、一三〇
仲多度	二四	六〇、二六三	一〇、二〇〇
三豊	四四	二七、四〇〇	三、六三四
高松	六	一五、三六六	一五、七〇四
九龜	八	九三、四	一、五〇四、六七七
計	五四六	一、三〇六、一三三	一、五〇四、六七七



川 縣 全 地 圖



一 寸 分 百 十 三
五 里 毫 厘 毫 毫 毫



- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ○ | ◎ | ⊙ | ⊗ | 卍 | 小 | 中 | ⋯ | ⋯ | ⋯ | ⋯ | ⋯ | ⋯ | ⋯ | 凡 |
| 者 | 町 | 市 | 燈 | 佛 | 神 | 停 | 鉄 | 川 | 山 | 縣 | 國 | 郡 | 國 | 境 |
| 地 | | | 臺 | 閣 | 社 | 場 | 道 | 岳 | 道 | 道 | 境 | 境 | | |

三十分

二十分

二十四分

分十三

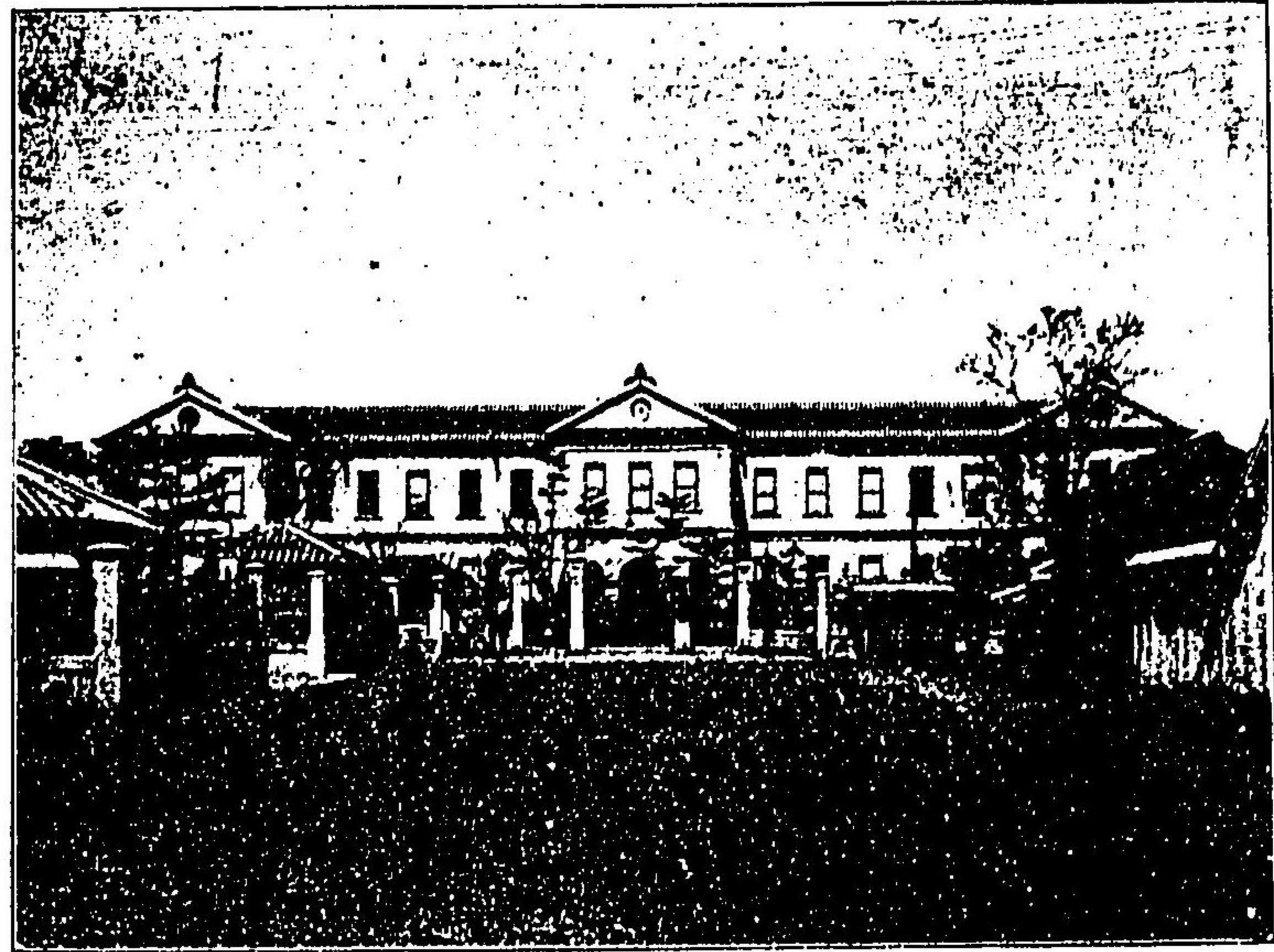
分十四

分十五

分十六

分十七

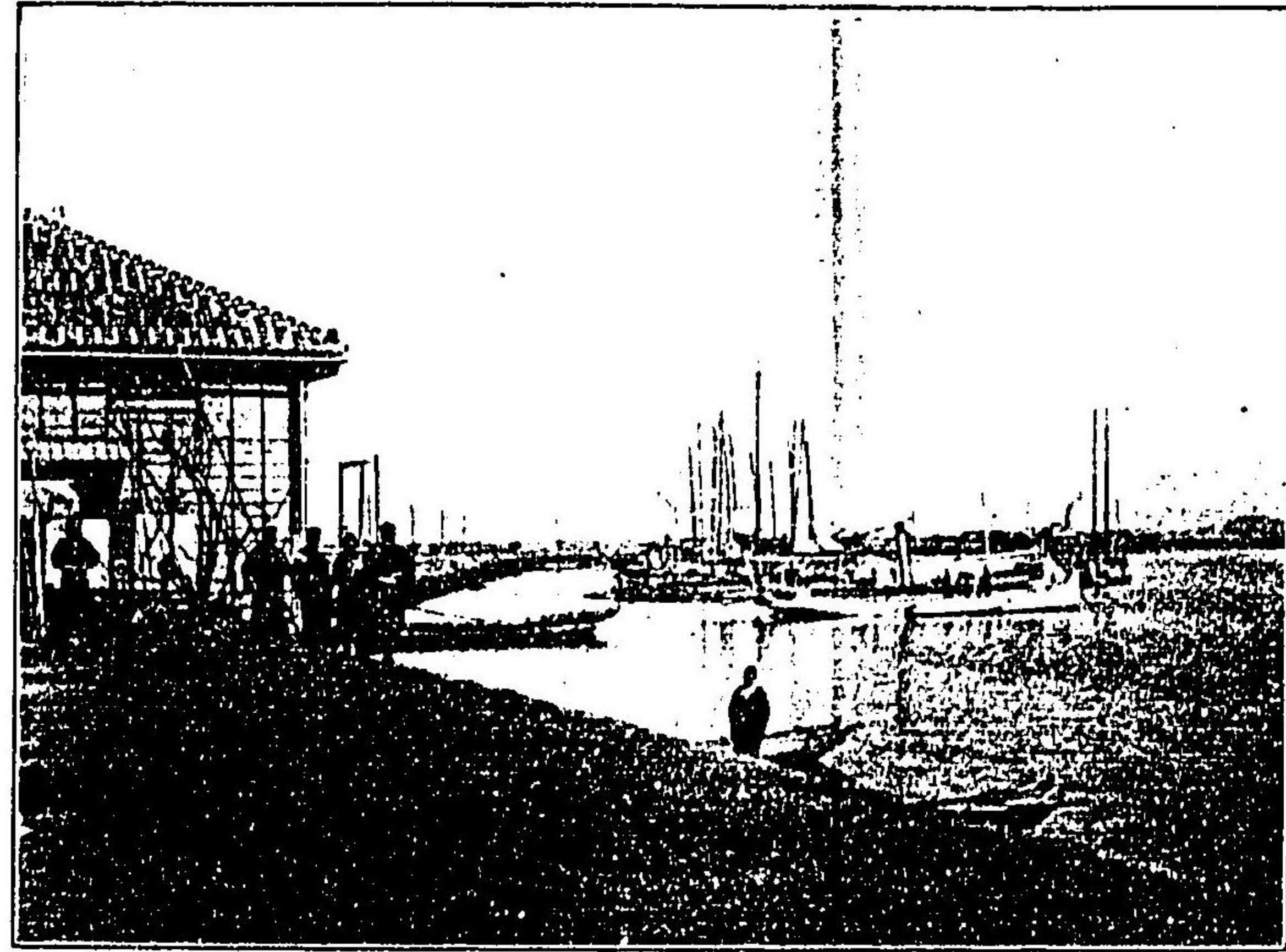
分十八



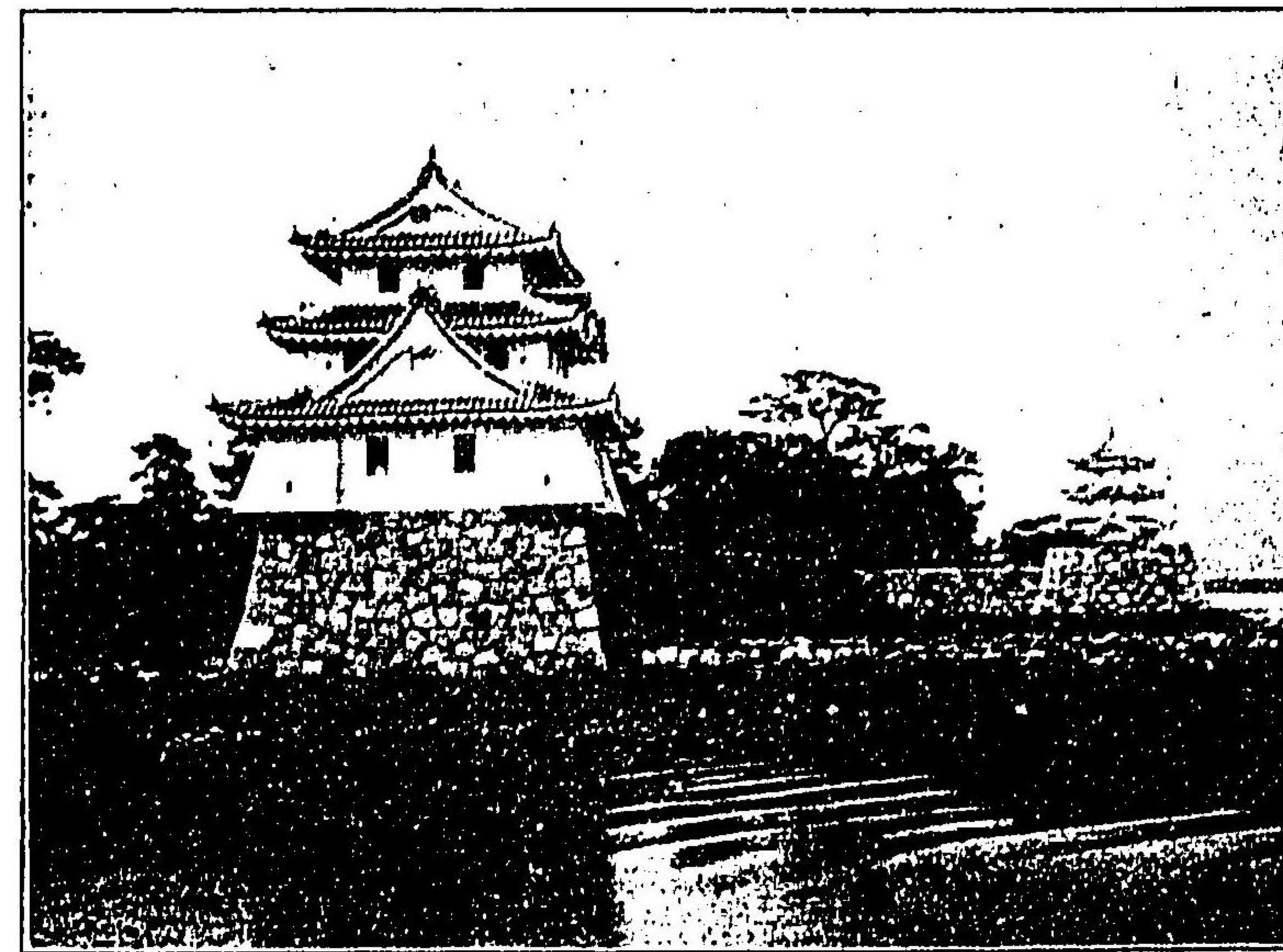
香川縣廳



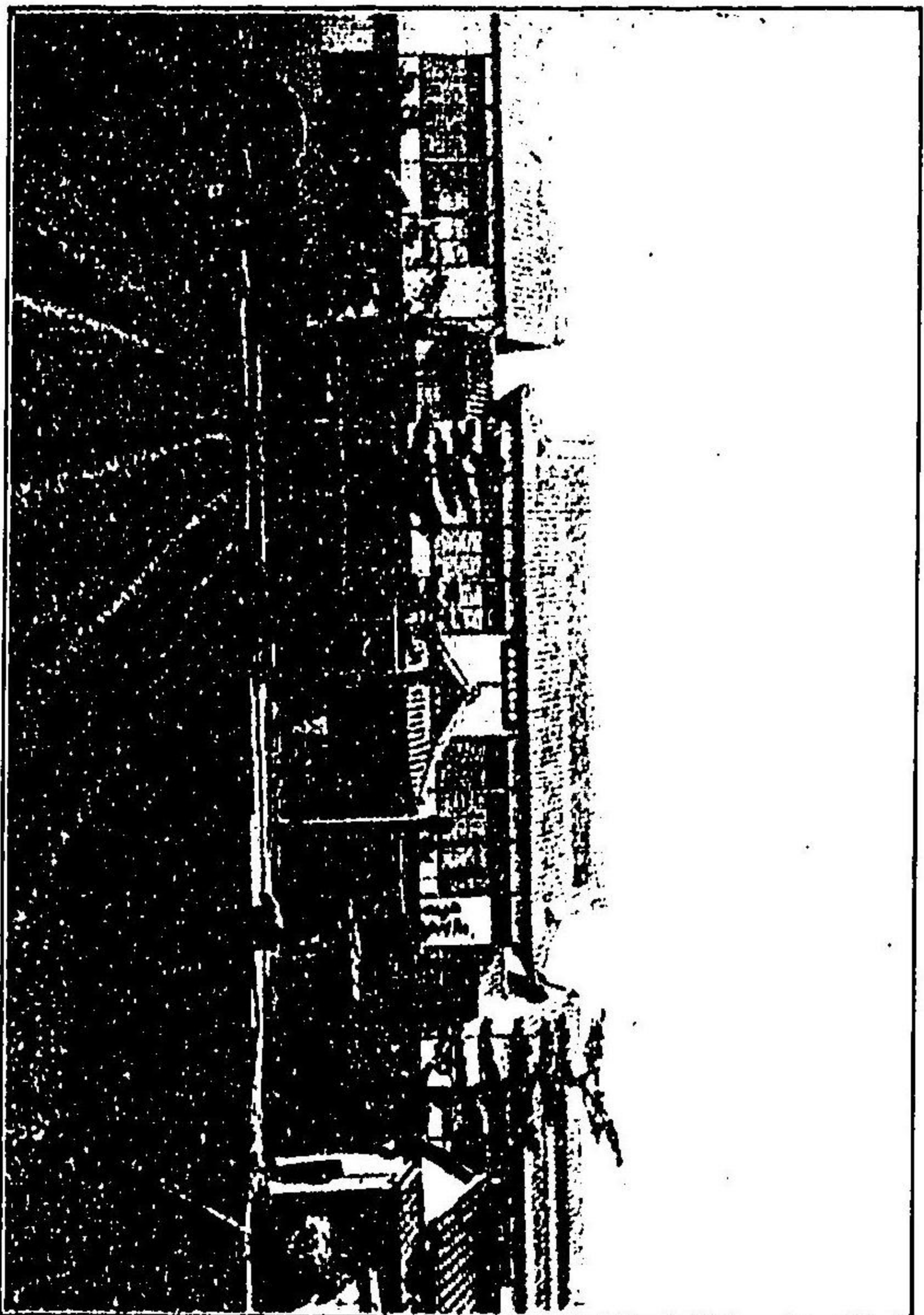
高松市街



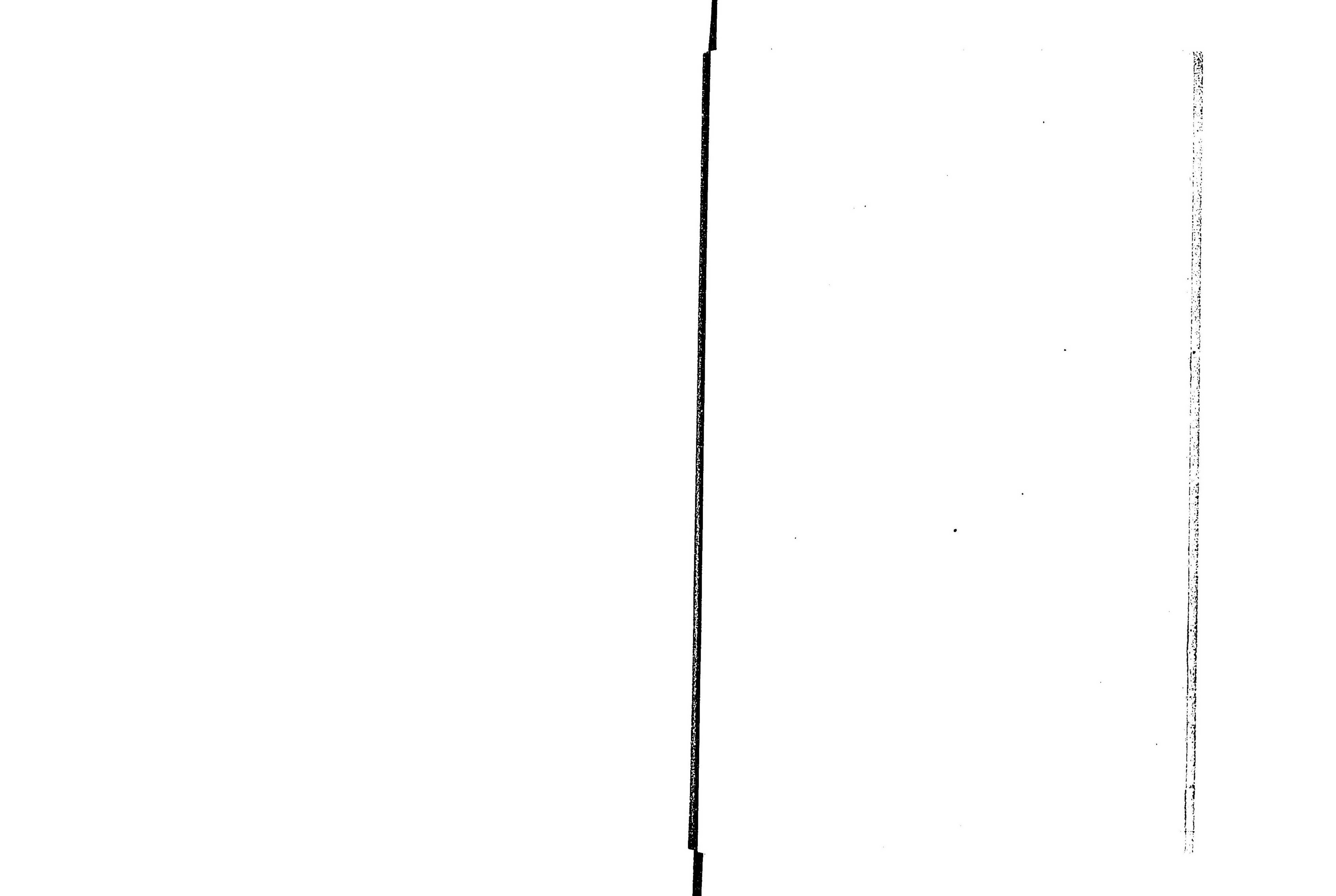
高松築港



玉藻城址



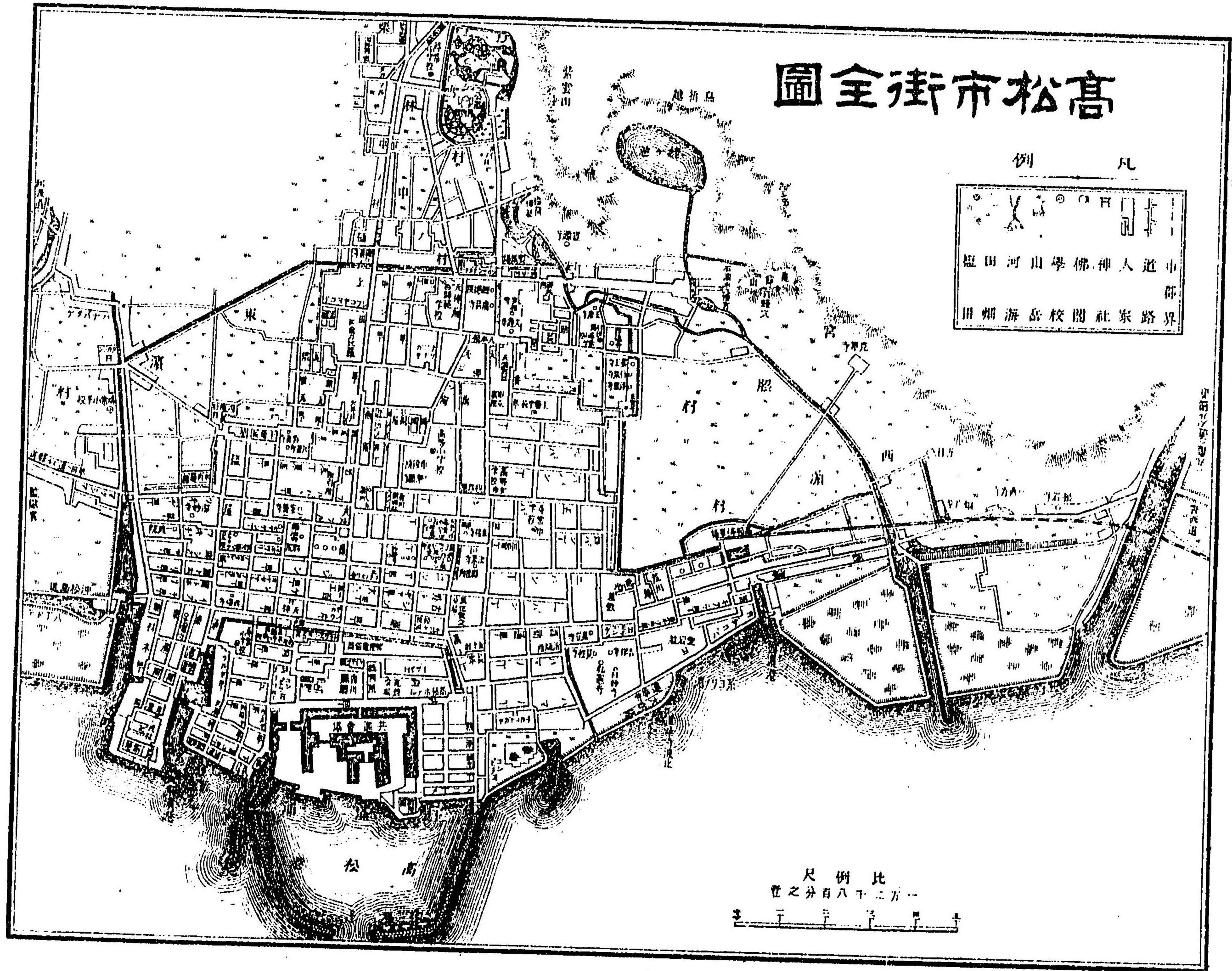
香川縣工藝學校



高松市街全圖

例 凡

市界	山	河	學	神	道	街
田	畑	海	校	閣	社	家
田	畑	海	校	閣	社	家



尺例比
壹之分百八千二万一

高松市

總説 市は香川縣廳の在る所全讃主要の地なり香川郡の北端に位し西香東川御坊川の間に介在す西南に紫雲山を負ひ北は瀬戸内海に面し東は廣瀨なる田野に接す地勢南に高く北に低く西に狭く東に廣し東西二十四丁南北二十五丁面積百五十万三千六百五十一坪戸數八千七百一戸人口三万五千三百七十七人市坊の數六十二個より成る

沿革 高松は三百年前に在ては篁原の庄と稱し、讃戸の一部落に過ぎず天正十一年(今より凡三百二十年前)豊太閤讃岐全土を擧げて生駒近規を封す生駒氏初め引田城に居る其甚た東に偏するを以て宇多津城に移り後再び地を篁原の庄に卜し玉藻の浦に臨て居城を築き名つけて高松城と云ふ蓋屋島古戰場たる牟禮高松の名を用ひたるなり而して故の高松を改めて古高松と曰はしめたり生駒氏封を出羽に移さるゝに及びて寛永十九年(凡そ二百七十年前)松平頼重(水戸藩源義公の兄)常陸下館より封に東讃十二万石に就く松平氏高松城を修め之に居り藩府を開き治を創む繼承十一世明治四年廢藩置縣に至るまでは實に二百三十年とす廢藩後香川縣の廢置分再三に及へるも縣廳の位置は置縣毎に高松に存在せり

諸官衙	内	高松市役所	五番丁	高松稅務署	五番丁
香川縣廳	内	南新町郵便	南新町	高松小林區署	七番丁
高松區裁判所	内	事務取扱所	内	高松郵便電信局	内
高松警察署	内	公証役場	内	西通町郵便	西通町
諸學校	内	高松地方裁判所	内	事務取扱所	西通町
香川縣師範學校	天神前				
香川縣工藝學校	天神前	市立尋常小學校	四番丁鶴屋町	私立英華學校	天神前
私立高松高等女學校	六番丁	香川縣高松中學校	五番丁	私立高等裁縫女學校	天神前
市立高松高等小學校	五番丁	市立高松商業學校	演ノ町		三番丁
博物館	栗林公園内			私立高松和洋裁縫女學校	野方町
公私立病院				圖書閱覽所	栗林公園内
市立高松病院	八番丁	湖崎眼科病院	鹽屋町		
柏原病院	外磨屋町	抽誠堂長町病院	西通町	成海堂太田病院	中野町
十全堂高坂病院	野方町	三橋堂長尾病院	西通町	山田眼科病院	野方町
公會場及團體					
赤十字社支部	内	縣廳東	三々俱樂部		内
商工會議所	寺町普昌寺内	公會堂			内
讚岐漆器同業組合	南新町	香川縣高松市漁業組合	東濱町	香川縣度量衡同業組合	通町
讚岐製紙同業組合	七番丁	香川縣麥稈真田同業組合	古新町	香川縣高松酒造組合	九龜町
新聞社	香川新報社	南龜井町			

銀行會社	高松百十四銀行	九龜町	讚岐鑄物製造合資會社	南新町
	高松商業銀行	北古馬場町	高松掃除合資會社	一番丁
	讚岐農工銀行	南鍛冶屋町	圓通製燈合資會社	築地町
	高松銀行	通町	高松演劇株式會社	鹽屋町
	讚岐貯蓄銀行	通町	鐵泉石炭株式會社	西新通町
	高松電燈株式會社	内	堺合資會社	下橫町
	米麥取引所	東濱町	高松工業合資會社	南新町
	高松木材株式會社	東濱町	高松漁業合資會社	西濱町
	高松織物株式會社	七番丁	西濱漁業合名會社	西濱町
	高松製劑合資會社	福田町		
諸工場				
下津製燧所	三番丁	勸弘堂	南新町	
高松製絲所	七番丁	齋藤織工場	二番丁	
圓通製燧所	築地町	各製紙所九ヶ所	中野村、東濱村、新瓦町	

(五六) 内 案 成 限

摺	傘	紙	食	織	砂	雜	米	輸出入	尾	朝	福	笠
附									道	山	岡	
木		鹽	物	糖	穀							

品名	數量	價格	重ナ～仕向地
	二、六〇、〇〇〇	二、六六、〇〇〇	大阪神戸
	二、五〇、〇〇〇	二、五〇、〇〇〇	大阪神戸
	一、一三、七、五〇〇	一、一六、三九〇	大阪
	二、二、五〇〇	三、二、五〇〇	大阪
	一、四、五〇〇	二、六、〇〇〇	大阪、九州、北海道
	五、一、三三〇	一、九、九四〇	大阪
	六、五、〇〇〇	六、〇〇〇	大阪
	三、五、〇〇〇	三、九、三三〇	大阪
	一、三、三三〇	一、一、七〇〇	東京
	二、五、〇〇〇	二、五、〇〇〇	大阪
	二、五、〇〇〇	二、五、〇〇〇	大阪
	二、五、〇〇〇	二、五、〇〇〇	大阪
	二、五、〇〇〇	二、五、〇〇〇	大阪
	二、五、〇〇〇	二、五、〇〇〇	大阪

内 案 成 限 (四六)

玉	下	三	牛	神	大	地	高松ヨリ各地ニ到ル海里	池	多	九	宇	坂	白	香
島	江	番	窓	戸	坂	名		戸	津	龜	津	出	峰	西
								良港		十二聯隊兵營所在地	大鹽田所在地	大鹽田所在地	崇徳天皇綾松山御陵所在地	水産試驗場所在地

數量	二七、	一四、五	二〇、	一六、五	六六、	七八、	濕 數	二、二六	八、一九	七、〇八	六、〇六	五、一七	五、〇〇	
名	土	別	今	三	馬	三	地	本	彌	琴	善	觀	鹽	佛
	庄	府	治	津	關	田	地	山	谷	平	通	音	ノ	生
				濱	門	尻	名	寺	寺	寺	寺	寺	江	山
					司			全右	八十八番札所	金刀比羅神社所在地	十一師團所在地弘法大師誕生院所在地	有明濱彈琴公園所在地	鑛泉所在地	法然寺所在地
濕 數	二、	一五、	五、	八、	一七、	一四、				九、一〇	九、三一	一四、二三	六、〇〇	二、〇九

内 案 枝 讀		輸 入	計
品 名	數 量	價 格	東京大阪神戸
漆	133,600	144,000	東京大阪神戸
米	33,000	186,000	九州
雜穀	11,000	66,000	大阪
砂糖	33,000	133,000	大阪
織物	209,900	330,890	京都
肥料	656,500	9,620	大阪、北海道
石炭	5,000	175,000	兵庫
薪	2,349,000	5,430	九州、大阪
炭	355,000	10,350	伊豫土佐
石	333,000	24,420	日向備中
油	36,000	192,000	
竹	13,000	7,150	

内 案 枝 讀		生 産
品 名	數 量	價 格
材	1	55,000
陶器	255,000	35,000
漆器	16,000	3,000
金器	31,000	36,000
摺物	421,000	9,620
附 木		25,000
乾物		15,000
野物		56,000
其 他		1,024,950
計		

本市一ヶ年の生産力は農産壹萬六千九百貳圓工産百萬五千參百八拾四圓水産十四萬七百拾參圓計百拾六萬貳千九百九拾九圓とす今其重なる工産物の種類價格を擧ぐれば大約左の如し

但金額壹萬圓以上に達するものゝみを掲ぐ又壹萬圓以上に達するも食品の如きは之を省く

京都、尾張、九州
 紀州
 大阪
 大阪神戸
 大阪
 岡山

種	類	格	價
種	類		
摺	附		
漆	器		一八六、〇九三
賣	藥		一二四、〇〇〇
傘			六六、一〇〇
羽	重		四七、七〇〇
楢	物		二四、〇四四
下	臺		一九、四〇〇
下	臺		二二、八〇〇
生	糸		一六、六〇五
清	酒		三三、二七六
和	紙		一一八、三八九
名勝	跡		

玉藻城址 東上西下の船舶に搭して瀬戸内海を渡り船頭先つ南を指せば海色藍の如きの間一簇の白雲海を壓して天に朝するを見る是玉藻城址なり往昔生駒氏が黒田如水の設計に依て築く所なりと云ふ松平頼重公の封に就くに

及んで更に擴張せらるる維新廢藩の後陸軍の所轄に歸し一時兵營に供せられ幾も無くして兵を撤し本丸及天守閣を毀ち僅に外廓の城樓二三と門扉とを存するのみ明治二十三年再び舊藩主松平伯爵の所有に歸す此城由來景勝を占め廓内水深く松青く東に屋島あり翠巒一帶畫けるが如く西に植島あり大小兩頭波間に出沒し雌雄兩島の勝亦近く城外に横はりて山水の明媚風光の佳絶真に一眸の下に朝す

築港

高松新築港は市の北端舊高松城後に在り舊堀川港を埋めて新に斗出築造せるものなり其規模雄大蓋し海南諸州其比を見ず明治二十八年始めて企畫を立て五ヶ年にして大成す其本突堤は西に位し長さ三百五十間幅五間乃至四間其外側に回らずに高さ四尺の防波堤を以てす之と相對して東方に長さ二百七十五間幅二間の防波突堤あり港内の面積總て八萬餘坪概ね平均干潮十四尺の水深を保ち堤外の水深は廿二三尺を下らす本突堤に添ひて長さ九十尺幅十五尺の浮槽三個を設け各長二十四尺幅十二尺の棧橋に依りて突堤に連続し船客の上下及貨物の出入に便し且つ突堤の起點より先端に至る間三

十五燭光の電燈十數臺を點し港内の要所には十五燭光の電燈を點す此工費は市債二十万圓と縣稅一万五千二百二十五圓餘の補助とに依り三十三年度に於て落成せしも尙港内水深の完全を期し更に之を浚深せんとするに依り三十四五兩年度に於て縣稅より四万九百二十二圓餘を補助することゝなれり

高松新埠頭圖記

黒木欣堂

按讚岐國海岸延長凡五十五里有十二港灣曰白鳥浦曰津田浦曰志度浦以上屬大川郡曰庵治浦屬木田郡曰高松港曰香西浦以上屬香川郡曰坂出港曰宇多津以上屬綾歌郡曰丸龜港曰多度津以上屬仲多度郡曰詫間灣曰觀音寺浦以上屬三豐郡皆爲良津泊而高松港東控播磨北面三備西通山陽鎮西諸州昔者高松侯松平氏之就封也卜治城于此屋島當東爲之保障椎門在西爲之門闕且南望則遠山綿亘疊黛繁青北望則近嶋斷連基峙星羅世稱其形勝之固而美矣 皇政維新高松藩納封土舊治城漸屬荒廢明治廿八年高松市民胥議就城西海堀新築埠頭三十三年落成於是峨艦大舶來往出入加通濟之利絕風波之患稱以海南第一良港云

保多織 は高松市の特産にして、絹製あり綿製あり、織物の種類も亦各種あり、即ち

手巾、敷布、布圍、前掛、及四季の衣服地等是なり、就中需用の最も多きものを綿織の單衣浴衣の類とす、其産額は甚た多からざるも、亦是一種特色の織物なり、目今市内に織元及販賣店とも數十戸あり然れども其元祖たる織屋は高松市龜井町北川政太郎の高祖に出るなり、今左に其傳來の概略を擧ぐ、北川氏は其祖先京師の人三守氏より出つ、元龜二年三守石見守内藏寮織物司の命に依り、御料の御裝束を調進す、爾後代々の子孫其業を世襲したるを以て御寮織殿と稱す、其後百餘年を経て、元祿年間三守越前之輔の代に至り、高松藩祖松平頼重幕府へ織物を貢獻せんとし、其弟三守伊兵衛常吉を京師より召聘す、常吉命を奉して來り、夙夜心思を勞し、肢體を役し、數年の後一種の絹織物を發明して、其試製品を藩侯の覽に供す、即ち今の保多織是なり、侯大に擇ひ厚く之を賞し、以て貢獻の用に供す、茲に於て伊兵衛常吉に姓を賜ひて北川と稱し、其織物は一家繼承其技の漏洩を許さず、永く讃州の特産として、毎歲幕府へ貢獻せり、正徳元年常吉死する後、子孫連綿相傳へて、幕府の末世に至るまで、藩侯の御用品となり、百八十年、維新の後、其秘訣を解き、廣く世間に之を傳習し、殊に明治十年、士族授産の目的を以て、二個の會社を組織し、一は高松就産會社と稱し、松本貫四郎之が社長たり、一は高松紡織會

社と稱して高橋碧社長たり、政府も亦勸業資金若干を貸付して其器を援助し、二社共に専ら士族の姉妹を集めて紡織の業を練習せしむ其後故あり二社共に廢絶したるも其業漸く市内の各所に勃興し今や地方一個の主産となるに至れり、市内丸龜町岩部商店の如き此特産織物の製造販賣に最も力めて漸次擴張信用を博せり

漆器 讚岐彫又は讚岐塗象谷塗とも云ふの名は産地に因み象谷塗の名は祖匠玉楮象谷の號より出て漆器に得意の彫刻を施せるものなり尙之を詳説せば象谷が支那の張成存星蒔等の髹法に我が古代髹法をの斟酌して創製せるものにして一種の漆器なり今象谷の略傳を左に録す

玉楮象谷
象谷は藤川氏文化參年十月今より九十七年前高松外磨屋町に生る名は爲三字は子成又敬造とも稱せり象谷は其號にして壯年には藏黒とも書けり藩の執政寛速水が孔子の家語より撰ひて與へしものなり父は洪隆字は周南蘭齋と號し髹塗師を業とせり天保元年象谷初めて時の藩主松平頼恕に仕へ頼胤頼聰に歴仕して藩公の爲にのみ凡三百餘箇の器物を作りしと云ふ象谷は幼より父の膝下

にて家業の髹塗を習ひ傍ら好みて彫刻を作し此技能先天的に父より禀けて更に感化脩得せられ甚た精妙を極め今尙世人に稱せらる殊に天保十年八月時に年卅四藩侯に上りし方一寸の一角の印籠に荷葉五十五花三十大湖石二龜三百四十三蟹四百三十三蛙四十一蝸牛二十七蜻蛉二十四蠅九蜂四蝶二十六玉虫二、蚱蜢四、蜚四、蟋蟀二、蠨螋四、蜘蛛十八、蝶二、蜈蚣五、兜虫一、十六箇の物象を彫刻せるものなり藩侯大に之を嗟賞し、帶刀を許され扶持を給せられ苗字をも賜へたり事は茂松道人(高松藩高島清平)の文に詳なり今其全文を掲ぐ

玉楮氏說贈象谷山人

象谷山人玉楮爲氏余未知其先自何人出也而玉楮豈無其故乎人之姓氏或出於地或原於官或取於事今於象谷余反覆察之而知其說昔宋人有爲君以玉爲楮葉者三年而成以巧食其國象谷山人吾讚之良工而有磊落之奇才其運刀也善摸漢製其用漆也巧擬宋工蓋天下無能及者焉嘗雕昆虫千種于方寸之一角具體粲然蠢々欲生動而其大僅如芥子雖明如離婁殆不易辨也而其成也不過旬有余日云山人嘗携來而示余余乃驟然歎曰吁哉象谷之妙技一至于此邪象谷遂獻之先公公深愛賞之因賜佩雙刀班列官工可謂榮幸矣余意此事與宋人頗相似類然則玉楮之姓殆由是乎

抑公賜之乎而名曰爲三字曰子成俗稱爲敬造豈無其故乎吾將就山人而質之
壬寅孟冬於讀我書齋 茂松道人清矣

象谷塗は象谷が中年の頃より専ら彫刻と髹漆とに意を注げる經營辛苦の化現なり其製品の特色として世人に稱せらるゝは着想の奇響秀抜にして意匠の巧妙高雅なる結構布置の井然として髹面の斑なく精研潤澤なる鐵筆の跌宕遒勁にして實質の堅緻なるは其主なる點ならん象谷は天資豪宕磊落にして金帛名利の念無く殆ど塵表に卓絶し京の眞名海屋永樂保全、借雲華、浪華の篠崎小竹、讚岐の宮本敬哉、山田梅村、阿部絹洲等と親交あり殊に保全と敬哉とには入魂なりしと云ふ永樂保全も亦磊落にして氣概あり象谷曾て行き面會を求めしに保全人をして曰はしむ職人との對面は工場に於てすへし豈殊に禮を設くるを要せんやと即ち工場にて對面せり是より共に斷金の友となりと云ふ明治二年二月六十四にして歿す四男三女あり長は理吉、次を拳石と云ふ共に四十九にして歿す三男藤樹、四男爲造、即ち雪堂、其後嗣たりしも明治三十三年已に歿せり其嗣子藏谷業を承く象谷の弟舜造、藤川家を繼ぎ、存星、菊齋の製法を受け文綺堂又は黒齋と號す兄と同一讚岐彫の名手と稱せらる明治十八年七十五歳にして歿

す子新造、米造共に其業を紹き新造は父の文綺堂を名のり米造は文賞堂と云ふ二家共に範を父翁に取りて銳意髹漆彫刻の業に努む

方今高松市内に在りて髹漆の業に従事するもの藤川両家の外四十餘戸あり其産額年々十二三万圓を下らず明治三十二年同業協同し法律第三十五號に由て組合を設け相互製品を檢查し以て粗製濫造を戒飭せり其組合の名稱事務所の位置及重なる製造販賣店の所在等之を高松市の部に表示せり

羽二重織工場 七番町に在り明治三十年五月の創立にして株式組織の會社たり現今細川雄藏氏之を管理す機臺の數八十臺を出入し職工男女の數亦之に應す本社は縣費の補助を受け三十三年度に於て女工を養成するもの五十人香川郡木田郡綾歌郡の各所に羽二重織業を開始するもの多くは當社の傳習を受たる工女を以てす

齋藤職工場 二番町に在り明治三十二年一月の創立にして齋藤サト氏之が持主たり本工場は羽二重に加ふるに保多織を以てし職工二十一人を有す

三十三年本市の羽二重産額は四千九百六十疋價額九万二千六百圓、平絹百五十反價額千五百圓、絹製保多織百三十反價額千六百圓あり羽二重は練業の未だ開



湖 度 志



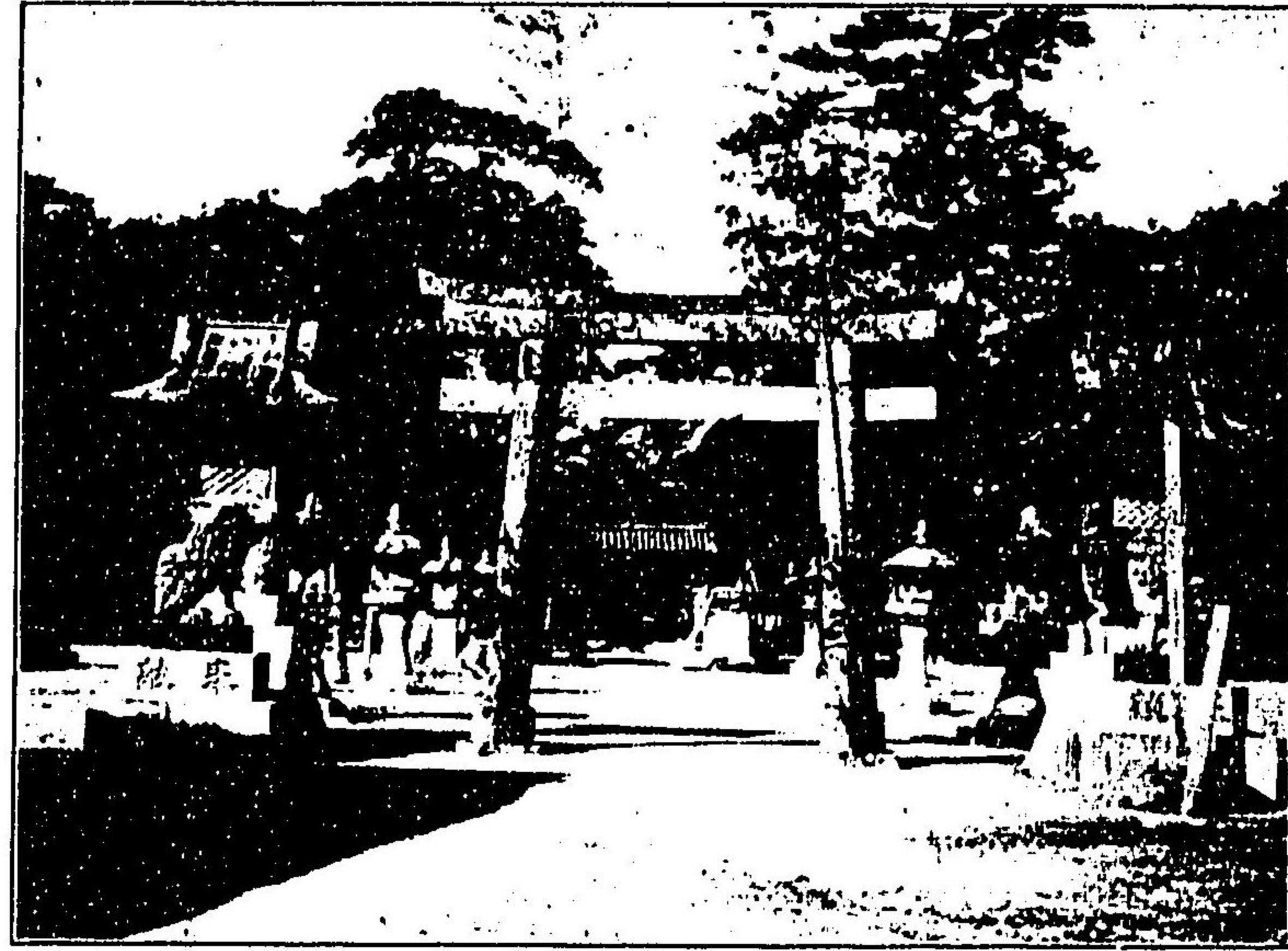
寺 度 志

内 繁 枝 限

けさるに依り福井に送り賣却するを常とす當業者之を慨し近く此地に練業を
起さんことを計畫せり

林 琴 田 津





白鳥神社



白鳥松原

大 川 郡

大川郡は舊大内、寒川の二郡を合せたる郡名なり。讃岐の極東に位し、東北は總て海に臨み、斜に淡路國と相面し、南は阿波國板野郡及阿波郡に界し、西は木田郡に接す。面積二十一方里餘。志度、津田、三本松の三町相生、引田、松原、福榮、白鳥、譽水、丹生、松尾、富田、五名山、石田、神前、造田、長尾、奥山、志度、鴨部下庄、鴨部、小田、鶴羽の廿ヶ村より成る。郡内を貫通する縣道二線あり、一は阿波街道と稱し、高松より長尾村を経て徳島に達するもの一は志度街道と稱し、高松より古高松、志度、津田、鶴羽等の海邊を経て丹生村に於て阿波街道を會するもの是なり。高松より阿波街道に由り阿波國板野郡大寺村に至る里程は十三里三十丁餘あり、全郡の戸數一万六千三百四十一戸、人口九万七千七百七十七人を有す。本郡出身の實業家中、其名聲あるものは、寶曆年間志度に平賀源内あり、湊に向山周慶あり、向山は讚岐に於ける甘蔗栽培及製糖業の鼻祖たり。平賀源内は陶器製造を以て名あり、源内焼と云ふ生産物は、米、麥、甘蔗、砂糖、清酒、醬油、蕎麥、稗、眞田等を以て重要物産とす。又郡内に戰國時代の城址、古戰場、古墳墓、社寺名區等尠からず。今郡内に在る官署、學校と共に、其著名なるもの各其二三の概略を左に列記して、讀者に紹介す。

郡役所、警察署、稅務署、郵便電信局、長尾寺、極樂寺、靈巖城跡(以上長尾村)、上代の石窟及古墳(富田村)、農事試驗場(石田村)、警察分署、郵便電信局、志度寺、多和神社、平賀源内宅、靈芝寺(以上志度町)、長福寺、鴨部村、警察分署、郵便電信局、裁判所、出張所、津田、琴林、遠洋漁業以上津田町)、釋王寺、脇屋、義治、墓、丹生村、警察署區、裁判所、郵便電信局、高松中學校

(以上三本松町)白鳥神社、森權平墓、松原村警察分署、區裁判所出張所、郵便電信局引田城址以上引田村、故向山周摩室(白鳥村)大水主神社、磐田寺、虎丸城址(譽水村)

長尾村 郡の西端に在り阿波街道の要所にして戸數千九百八十八戸人口七千二百六十二人あり西高松へ四里十七町東徳島へ十二里廿八丁あり兩地往來の行客率ね此地を經過す郡役所稅務署警察署郵便電信局等あり市街を成して連擔櫛比自から郡内都邑たるの觀あり旅店の休泊すへさるもの數戸あり三木屋橋本屋大島屋の如き其最たるものなり

長尾寺 長尾村大字長尾西に在り四國八十七番の禮拜所にして本尊は聖觀音なり補陀洛山觀首院と號し天台宗寺門派山城國愛宕郡岩倉寶相院の末寺なり寺記に曰く當寺は天平十一年僧行基の創造なり天長二年讚岐大守良岑安世藤冬嗣の奏聞に基き新に財を捨て、堂宇を修造し地名に依て寺號を改む降て慶長年間生駒一正土木を起して之を再興し天和三年松平頼重此寺を以て國內七觀音の一とす元眞言宗なりしを本宗に復せしめらる現今の境内は平坦にして本堂は南面し其左右に大師堂護摩堂藥師堂自在天堂金毘羅堂秋葉堂庚申堂常行堂枳尻堂辨天堂等あり

本尊、正觀音傳行基作、脇佛、不動尊毘沙門天、客殿、文元年再建、二王門、元祿七年松平讚岐守頼重造營、御成門、元祿十三年造營

寶物の重なるもの 天満宮御影(松平頼重寄付)二品道晃親王筆龍雲院遍額全上瀧見觀音像壹幅、黃不動像、傳智証大師筆

經塔長五尺六寸角 (天施主法大施主種部氏)弘安六年歲次癸壬十月日の銘あり

經塔 長七尺七寸角(全上)弘安九天歲次丙戌五月日の銘あり

極樂寺 長尾村大字東尾東に在り七壇議所の一なり本尊は本堂藥師如來持佛堂阿彌陀尊を安置す紫雲山寶藏院と號し眞言宗なり寺記に曰く天平元年僧行基當寺を郡内石田村に草創し法相宗なりしが大同中堂宇灰燼す今其墟を極樂寺と云ふ古瓦なほ存す弘仁十年弘法大師寺跡を鴨部莊東山村に移して之を再興し眞言秘密灌頂の場とす天長元年紫雲山寶藏院の號を賜ひ延喜三年壇議所と定めらる建武二年寺兵燹に罹る寺主明範遂に長尾郷に移る今の寺地是れなり永正中細川澄元寺領を喜捨す寛永十九年高松藩祖松平頼重亦本寺に歸依淺からず城中石清尾神社御旅所に本寺の阿彌陀佛を移し之を祀らしめたりと云ふ現在の境内貳千三百七十三坪堂宇は本堂諸尊堂船魔堂大師堂鎮守堂鐵樓堂大門等なり大門二王尊石佛高凡五尺慶安中に置く所建物嘉永七年の再建に係る桁端の彫刻頗る觀るべし

寺藏の寶物中國寶と定められたるものは

一 甲種四等彫刻、木造藥師如來立像

其他の重なるものは

一 鐵製古錫杖 傳弘法大師入唐將來品

一 兩界曼荼羅 傳真如親王筆

一 八花式雙鳳文唐鑑

一 古寫本和漢朗詠集

二 幅

一 面

二 帖

晝寢城址 長尾村長尾寺の南三十丁大字前山の山上に在る古城址を晝寢城墟とす細川國弘が午睡せしより此名ありと云ふ

元龜三年藤川元隣虎丸城より移りて此城に居る後藤川光永に至り阿波人海部左近の爲に陥らる生駒一正封を受け入國するに及び之を招く光永陪臣たるを耻ち辭して薙髮し淨慶入道と云ふ正保二年十一月卒す城址は磯巖突几頗る峻峻なり傍に老櫻一株あり枝條蟠蜒十六間春季爛熳一堆の彩雲に似たり名けて晝寢櫻と云ふ

晝 寢 櫻

久 家 暢 齋

瓊瑤妝點白屏顏 欲到花邊難可攀 知是僊妃絕塵俗 春光牢鎖在深山

上代の石窟及古墳 富田村の東字茶白山と云ふにあり史家の所謂前方後圓なる

車塚にして上代貴人の墳墓たること疑なし今は山上に天神を祭れる小祠あり此他石田村に式内大鏡彦神社布勢神社及び八幡神社あり此邊には小丘起伏せる間に四坪五坪の廣さなる上代の大石窟數ヶ所あり又數十相連なれる上代の墳墓ありて山丘の間往々石鏃石斧散布し或は上代の土器玉器等を見出すことありと云ふ

農事試験場 石田村に在り明治三十三年四月郡費を以て開設し米麥作の試験を主とし仍三十四年度より桑苗の苗圃を作り養蠶の傳習をも併行せり職員三人を以て構成し毎年試験の成績報告書を刊行して之を郡内に頒布し以て専ら農事改良の普及を圖れり

志度町 郡の西北端に位し北に海灣を擁す即ち志度浦にして灣内廣く水深く巨船を繫泊するに足る小串崎東北海中に突出し木田郡牟禮村の丸山鼻と相對して灣口を扼す風景絶佳其中間正北に高島あり志度町の地域は東西一里四丁南北二十九町あり街衢清麗商賈櫛を並へ警察分署郵便電信局東讚銀行等あり四國八十六番の札所たる志度寺も此處にあり旅舎亦數戸あり就中阿波屋鯛屋等を可とす

志 度 浦

大納言忠家

舟出して今こそ見つれ玉の浦のはなれ小島の秋の夜の月

衣笠 大・臣

玉の浦はなれ小島の沙の間に夕あさりする田鶴を鳴らす

公 朝

沙風や遠よる千鳥玉の浦のはなれ小島に友誘ふ聲

僧 行 基

沙みちて嶋の敷そふ房崎の入江くのまつのむらたち

佐々木 黄 愚

志度浦十二景

八栗厨雲

春はまた梢の花の色そひて猶幾重とも峰の白雲

志度晚鐘

ちる花に暮るゝを惜と聞くやはた我よりもいたくふる寺の鐘

高崎晴嵐

かすみはれ嵐も浪も絲にて朝日に匂ふ沖つしま山

惠遠嶋蟬

鷲の山うへなき法の趾とめて世を空蟬も踏聲になく

鹽釜夕煙

蚊遣火にむすはふれたつ夕煙伏屋に近き浦の鹽竈

神池群笠

神こゝに塵にまはしはる光かも池のみくさにすたく笠は

津村牧笛

小萩さく野かひの牛も心われや秋の哀れをこめし笛竹

珠嶋秋月

岩さしによるの光の玉くしけわけすもわれな浪の月影

八浦漁舟

いさりするあまの小船の音はしてみるめもわかぬ浦のやへ霧

屋嶋暮雪

山深み楨の葉白くつむ雪にくるしどもなく登る月影

原汀白鷗

磯近くあさる鷗のそことたにたちもあへずは雪と見ましや
海士野夜雨

志度浦

江村宗珉

客舟一泊白砂濱 波上風明浮月輪 遺哀千年海中玉 今宵清影屬何人

志度浦望八栗山圖記

黒木欣堂

自津田浦西行三里得志度浦浦湫鑿環海深波恬足繫藤船峨瀕浦東有志度寺爲寧樂
朝柳寶刹浦西北隅有八栗山五峰峭削如列劔戟峰腰五劍山八栗寺係弘法大師所創
創又有歡喜天祠賽者甚衆相傳大師將創此寺也埋炙栗八枚祝曰吉則生菓凶則勿蒙
一夕栗忽萌生遂取以號寺曰八栗云或曰否陟峰頂則可以瞰播磨二備及四國故曰八
國山八國八栗邦訓相近遂致轉訛云

志度寺 町の東北端に在り補陀落山と號し四國八十六番札所の名刹なり寺記に
據れば當寺の創立は推古天皇の朝に在りて本尊十一面觀世音は園子尼法名智
法尼と云ふもの靈瑞に感し觀音化身の靈像を獲たるもの即ち是なりと云ふ草

創の堂宇は一間四面なりしが天武天皇の朝藤原不比等大臣來りて堂宇を大に
して名けて死度道場と云ひしが持統天皇の八年藤原房前大臣更に大伽藍を修
造し僧行基を開基の主とし法花入講を修し且法華經十卷を書寫し之を伽藍の
側に納め又千基の石塔を建立し母堂の追福を祈らしめたりと傳ふ今猶寺側に
經塔を存す延暦以降文保の間當道場は相魔王廳と路相通する所と稱せられ亡
者屢蘇生の縁を得たりと傳ふ事は寺藏の御衣木縁起兼空上人筆玉送玉取縁起相良宗白
杖童子縁起世尊寺行房卿筆當願暮當縁起兼空上人筆松竹童子縁起兼空上人筆千歲丸縁起兼空上人筆阿一入道
縁起相良宗白筆志度寺縁起圖畫六幅等に詳なり天正年中寺は長曾我部元親の兵燹
に罹りしが慶長九年讃岐守生駒近規の室教芳院觀音堂を建て其の孫正俊元和
六年を以て又之を新にせしが寛文七年讃岐守松平頼重領分三ヶ年人別奉加の
令を出し本堂及諸堂を新にせしむ全十年竣工す現今の諸建築中本堂東西九間
南北六間
閻魔堂三間
四面赤衣婆堂四間
四面仁王門東西三間
南北五間は即ち是れなり其他大師堂四間
四面地藏堂四間
四面
藥師堂三間
四面阿彌陀堂四間
四面鐘樓堂兼丈堂尺
四間茶堂東西四間
南北四間客殿東西六間
南北十二間玄關東西七間
南北三間壺所東
北四間等は明曆三年より安永七年に至るまでの建造なりと云ふ要するに寺域廣
濶七千九百七十七坪を有し讃岐東部の最も舊き名刹なるを以て來賽する者常

に絶き志度町の盛榮多くは是なが爲めなり
 寺藏寶物頗る富む今先其の國寶に屬するものを擧ぐれば
 一 甲種三等繪畫絹本着色十一面觀音像
 一 全 四等繪畫絹本着色志度寺緣起圖繪
 一 彫刻木造十一面觀音兩脇士像
 其の他寺寶の重なるものを擧ぐれば
 一 白紙金野舊譯仁王經

傳菅原道真公書寫

永徳二年細川頼之寄進狀堂通副

- 一 眞如親王筆弘法大師御影 壹 幅
- 一 紺紙金泥清涼院筆觀世音普門經 三十三 卷
- 一 道晃親王筆卅六歌仙和歌式紙清涼殿作絹繡像圖額 六 面
- 一 絹本着色淡海公御影 壹 幅
- 傳 土 佐 光 信 筆
- 一 夢想國師筆聖者難倒頌文 壹 幅

二百文書 四通

文應二年二月七日橘朝臣下志度庄潮入新開一所金主未時狀

長祿元年十二月廿九日細川右京太夫勝元志渡寺寄進知行狀

元暦二年三月十七日源九郎義經下文案校正狀

文治三年五月十三日源右大將頼朝下文案校正狀

- 一定家卿和歌帖子 壹 幅
- 一 絹本着色祓平頼章筆楊柳觀音 壹 幅
- 一 絹本着色僧鶴洲筆魚籃觀音 壹 幅
- 一 絹本着色明人仇英筆漢宮々人圖 壹 幅
- 其他元明人書畫幅等略之

内 案 岐 讓

多和神社及多和文庫 志度町の入口に在り土人は多和八幡宮又は三の宮とも云ふ是れ香川郡田村神社を一の宮と云ひ三豊郡大水上神社を二の宮と云ふにむかへてかく稱ふるへし讚岐國式内廿四社の一にて元慶元年從五位上の神階に叙せられたると正史に見ゆ祭神速秋津姫尊一座相殿八幡大神天照大神等六座なりこの社の社司松岡氏の多和文庫には本邦古代の神像及繪畫彫刻古文書等

の所蔵頗る多し考古史家の往き観るべき所とす文庫中特に尊重すべきものは

- 一 木造彫刻男神坐像
- 一 全上左衽女体坐像
- 一 古本萬葉集
- 一 天平七年讚岐國古圖
- 一 最澄與空海書牘
- 一 鑄銀銅印
- 一 石劍
- 一 金製曲玉
- 一 別字和同錢
- 一 伴大納言繪詞

故平賀源内の宅 志度町字新町に在り源内の祖先是甲斐武田氏の家臣なりしが移りて我が讚に來り此處に居る源内の父は醫を業とす源内亦曾て高松藩の小吏たりしとありしが素より大志を抱き大名を成さんことを冀ひ祿を捐て四方に遊び終に江戸に留り蘭學を以て諸種の發明を爲し著述を以て一時の名聲を馳せしは世の知る所なり而して又畢に江戸に終りしが其故宅には松風と稱する酢の特製法を授け又陶窯の法を遺せり現今は其の五代の孫熊太郎その主たり製酢陶窯共に之を業とす家に源内の遺品を傳ふ左に其の品目の一二を示さむ(源内の事略は前の實業部に掲ぐ)

- 一 源内窯青黄紫釉獅子模様入平鉢
 - 一 全上樂焼模花瓶
 - 一 火流布原料石綿
 - 一 エレキテル發電機
 - 一 肥前國天草郡深江村陶器工夫書
 - 一 平賀權太夫宛源内筆書狀
 - 一 源内幼時自作天滿天神畫像
- 源内の意匠に係るもの
- 一 冊
 - 一 通
 - 一 幅
 - 一 個
 - 一 口
 - 一 包
 - 一 具

靈芝寺、日内山と號し志度町の東南端大字東末に在り舊高松藩侯松平氏の菩提所の一にして香川郡佛生山法然寺と並ひ稱せらるる寺は山に據り池に臨み山門の側老松二株双龍天に昇るが如し境極めて幽邃なり往古は圓律道場にして日内山大岡寺と稱し弘法大師亦曾て栖止せしが天正の兵燹に罹り廢趾となれり讚岐守松平頼重入國後寛文二年此道場を再興せしむ衆寮客殿始めて完し延寶八年命して寺名を靈芝寺と稱せしむ元祿十二年大に修補を加ふ寶永元年國守松平南嶺君頼常(高松侯二代)卒するや山を卜して壽域とす天保十三年南浜君頼恕(九代)も

亦之に葬らる山内に二君の兆域あり天保十四年三月寺中誤て失火松平侯寄捨の什寶等多く烏有に歸す現存の堂宇は本堂觀音堂十王堂客殿二王門鐘樓堂等にして寺中藏する所の寶器頗る觀るべきものあり今其重なるものを擧げんに

一木彫地藏菩薩立像

一 軀

高三尺一寸傳行基作

一木彫不動尊座像

三 軀

高三尺五寸作者不詳

一木彫十六阿羅漢像

拾六 軀

高凡二尺三寸作者不詳なれども高松祥福寺五百羅漢彫像と同時の作なるに似たり

一木彫三十三神小木像

三十三 軀

高凡六寸ツ、

一古畫絹本着色大涅槃像

一 幅

一僧雀洲筆絹本着色八祖大師

八 幅

一松平頼恕筆紙本墨畫源氏五十四帖圖繪

一 帖

長福寺 鴨部村大字鴨部東山に在り千手山法洞院と號す淳和の朝天長元年弘法大師奉勅建立せし所なり清和の朝貞觀三年奉勅仁王會を修し爾後歷朝勅願の密場たりき永享中細川勝元家臣雨瀧の城主安富盛保當寺本尊を特信し天正中鴨部城山の城主池田恒利又師依淺からず多く寺領を寄せたり徳川氏の世國守松平氏亦屢當寺に登りたることあり明和八年後は京都嵯峨大覺寺末に屬し現今に至ると云ふ本堂本尊は千手千眼觀世音菩薩持別堂本尊は半丈六藥師琉璃光如來にて國寶に屬せるもの是れなり其他建築には鐘樓門在り普門閣及經藏等あり

明治三十三年十二月内務省告示を以て國寶と定められたる佛像是

一甲種四等彫刻木造藥師如來座像 一 軀

にて其他寺寶の重なるものは

一僧鶴洲筆絹本彩色久米八幡宮庭燎尊影 一 幅

一宗本入道筆絹本彩色大涅槃圖 一 幅

一古畫絹本彩色十六善神圖 一 幅

等あり

津田町 縣道志度街道にして高松を距る六里九町の東に在り東西十七町南北殆ど三十町戸數千四百十九戸人口六千五百六十一人あり商賈櫛を連ね町内に警察分署あり郵便電信局裁判所出張所あり旅舎亦數戸掛鯛屋を最とす當町を距る北方凡三十町字北山と稱する部落は津田町に屬し全部殆ど朝鮮海の出漁を以て生計を營めり津田町と鶴羽町との間積翠の長帶を曳けるもの津田松原と稱す

津田松原(琴林) 其長さ殆ど一里に亘れり林中八幡神社あり往昔安富盛方豊後宇佐より迎へて祠を立つ社格今は郷社たり海邊松樹の間より東方を望めば淡路の島影髣髴として雲烟の間に模糊たるを見るべし北は播磨洋に臨み海砂細麗風最眞に絶佳なり左に古人の詞藻を録す

琴林碑記

皆川 洪園

東讚津田邑人安藝榮柱使其子榮尙來謁問予曰曩之姬適晉而得稱爲美姬西施之在苾羅未可得其美稱耶予曰奚爲其然雖在曩苾羅固亦天下之美耳曰有美玉於斯比之卞璧其厚倍焉然如連城之價則不可得以相值耶曰奚爲其言之以若是也其厚倍則價亦當倍也已矣榮尙於是乃稱曰我邑南有八幡祠廟東松林長三里餘其勢迤連東南

而前枕於海其松樹無慮數千株狀皆奇詭白沙綠陰雖畫不如也清風入之聲有似琴奏因稱之曰琴林夫播之妓濱以當其孔道故特聞而琴林以地稍僻故雖其景致勝於彼而不得世稱豈非美玉厚倍而讓於卞璧彌姬西施以在鄙而以埋其國色乎僕父子以生居其林側心常竊愜其未得顯聞今所以來謁者意欲得先生之筆而以播其勝於四方願勿爲吝也余曰果如子言是誠可惜也凡世所稱名區勝概率不近於通邑大都則與夫周行相依者爾我身乏勝具而不能遍遊然苟有遊則欲探奇搜秘以抉摘世所未知者今於子所言雖未能躬造而先獲其一焉矣於是乎乃爲之記

琴林

谷 本 燕

雨染松林翠靄晴玉砂縹緲夕陽明不識何人能寫出吟筇十里齋中行

全

片岡 琴 溪

沙白松青十里程輕帆往々隔林生無端原上清風起人在瑤琴聲裡行

全

久 家 暢 齋

幾樹青松遶浦栽 盤根偃蹇白砂隈 要聞琴韻天然砂

全

却被潮聲攪殺來 後 藤 漆 谷

海涯一綫綠松叢 近映蒼波遠映空 紅旭將升彩霞動

人行青錦屏風中

全

山田 鹿庭

風潮且暮洗根株 敷里濃陰翠積鋪 爭倩唐山孚九手

爲描沙浦海松圖

津 田琴 林圖記

黒木 欣堂

白鳥神社以四三里許浦滄透迤嶋嶼點綴沿海明沙之間松樹連翠古史所謂三里松原即此地而至津田浦成一老叢林曰琴林林在浦東廣袤凡三町老松万株皆千百年物盤根校地高皆丈餘錢幹輪困大皆連抱有落々排空者焉有偃蹇俯地者焉離奇錯落變態百出綜而望之則如千万老龍下于翠雲中張鱗磨牙舉攫相鬪者矣若其朝暾靜上月期飛則小豆之嶋當面凝然名子多賀諸島浮動于恬波鹽金之上雲帆沙鳥往來聚散風光明媚曠目怡心而薰風一鼓則三面松林颯々瑟瑟扣清徵於雲和激流泉於綠綺此其是林之所以名也

遼洋漁業 本縣より朝鮮海に出漁する者悉く韓海通漁組合に加入せり其組合西支部を小田村に東支部を津田町に設置せり現今縣下組合員の總數千七百餘人の内千五百六十三人は本郡より内九分は實に津田町字北山及小田村の一町一村より出るものなり隨て出漁の船數も毎年三百艘以上に達し即昨三十三年春季は百九十艘秋季は百六十八艘の出漁あり其春季とは毎年四月より六月まで

秋季は十月より十二月まで春秋各三ヶ月出漁するを常とす其出入又は操業の際に於て時に或は風波の災難に遭遇するものあるも之が爲め沮喪するが如き者無きは多年の實驗に徴し該海の氣象に習熟するを以て自ら其危難の原因と冒險の甚しきを知ればなり故に偶々此等の遭難者あるも毫も屈撓せず益進て朝鮮各道の海面に漁場を擴張開展するか故に壯者は概ね海外に作業し本國地先海面の如きは老若幼者に委して顧みず朝鮮海に於て春秋兩期最も漁獲多きは鯛及鱒とす彼の地に於て生魚のまゝ販賣するもの鹽藏して持歸るものあり魚獲の豐歛と市場の相場とに依り一樣ならず此兩町村に於ける一ヶ年の漁獲高毎年八万圓を下ることなし是に依て小田北山二個の部落は全然朝鮮海の漁業に依て生活するものと謂ふも亦過言にあらざる可し其鱒漁獲に使用する網は流瀬網と稱し潮流に任せて流下し夜間に張りて拂曉に捕獲するを常とす

釋王寺 丹生村字大谷に在り真言宗にて延暦二十年弘法大師之を開創す本尊阿彌陀佛なり寺天正の兵燹に係り舊記灰燼得て徵すべきなし現在の堂宇本堂客殿觀音堂鐘樓堂二王門等悉く備り屹として淨境を開く寺藏の寶物中明治三十三年國寶と指定せられたるものは

一 甲種四等彫刻木造聖観音立像 一 幅
其他寺蔵の諸佛亦頗る觀るべき多し之を左に録す

一 木造不迦二尊坐像 三 幅

一 全 大日如來立像 一 幅

一 全 下品阿彌陀尊坐像 一 幅

一金剛 一 幅

脇屋義治墓 丹生村土居に在り脇屋家傳に曰く正平廿三年七月上野國戰敗れ新田義宗脇屋義治出羽の羽黒山に匿る後伊勢の國に移らんと請ふ北畠氏京師に近きを以て許さず遂に潜行伊豫國宇摩郡下山村に匿る後義宗病を以て卒す土居通郷得能通種の義徒祠を立て、之を祭る其後新田の族を討索すること甚た急なり是に於て義治其子義長と讃岐國丹生の山長福寺に匿る土居氏の族と稱す其後土居に移り義長義信徳光義則等繼承子孫繁延せり云々

三本松町 白鳥神社の西二十八町一市街あり之を三本松町とす戸數六百二十二戸人口三千三百四十八人富家豪商多く郡内最も繁盛の市街地たり海邊は漁舍軒を列へ漁業亦盛なり町中に區裁判所警察署郵便電信局高松中學校等あり

旅舎は松原に比すれば劣れりと雖とも津田屋大阪屋日向屋住吉屋等あり當町より高松市に至る八里廿二丁餘とす

白鳥神社 松原村に在り祭神日本武尊を主神とし兩道入姫弟橘姫を配祀す其他八社の攝社あり社記に曰く日本武尊東夷征討の歸途伊勢の能褒野に到り薨す尊の靈化して白鶴と爲り飛て大和國彈琴河内國古市に到り復た化して白鶴となり西方に飛ひて讃岐國大内郡松原に止る依て其地を白鳥の郷と名づく仁徳天皇の御宇に及び讃岐の國造に勅し祠を立て、祭らしめ給ふ中世に及び王の弟武彘王の裔たる讃岐の豪族香西羽床の二氏以て祖神と稱し弓矢の神と云ふ此社元白鳥に在り寛文五年松平頼重入國するに及び其由來を質し祠を松原に遷して大に土木を起し宮殿を築き壯嚴を極む現在の建築表門鶴門坤巽の二門御手洗神輿殿御供所御庫及び神明社稻荷社の十棟は尙當時の舊構に係る本殿幣殿拜殿神樂殿及び三面の遠侍廻廊と攝社の東五社西三社等は明治十四年以後の再建に係る始め頼重當社神領として大内郡歸來村の二百石を寄付し又特に從五位下卜部兼慶を請して祠官とす(後の猪熊氏)皆當社を壯にする所以なりしか明治五年六月官改めて縣社に列せられ以て今日に至る當社の寶物を擧ぐ

れは左の如し

一 額 二品道晃親王御筆

一 額 白鳥宮三字御同筆

一 三十六歌仙 親王御筆并公卿寄合筆

一 具足

一 黄金作太刀一振 無名長二尺

一 石劍

一 弓箭

一 黄金作青江正恒刀一口 長二尺四寸二分

一 黄金作則重刀一口 長一尺九寸

一 備前大切先無名刀一口 長二尺五分

一 無名刀一口 長二尺三寸五分

一 國宗刀一口 長二尺三寸七分

一 藤島刀一口

一 正宗小刀一口 長一尺七寸

松平頼重奉納

松平頼重奉納

松平頼恭奉納

全 上

松平頼豊奉納

西原總右衛門

大野則正奉納

後藤主膳奉納

一 守國刀

長二尺

一 波平安正小刀一口

長一尺四寸

一 清光小刀一口

長七寸九分

一 字多國正小刀一口

長一尺

一 字多國宗刀一口

長二尺一寸

一 無名刀一口

長一尺七寸五分

一 大長卷一振

松平頼重奉納

一 八條隆祐筆空穂物語三十卷

一 古寫本類聚國史三十八卷

中村春野奉納

當社の祭典は毎年陰曆春秋二季に之を行ひ春季は四月四日より八日迄秋季は九月四日より八日までとし神輿下院へ渡御の際兵器を執れるもの行列に加はり尊か東夷遠征の古儀を摸擬し頗る壯觀なり諸國より參詣の人群集し雜沓を極む社前の松原村落は神靈の餘光に依りて繁榮し旅舎軒を並へ橋又阿波屋を最上とす共に僻地に似ず構造廣寬且清麗なり此地より高松に至る里程は九里徳島市へ八里なり

白鳥社

谷本 藏

日尊威武赫西東 神劍隨來草偃風 化鶴傳聞暮南土 仙松深處托靈宮

白鳥浦 渡邊 孚

人家落々雜漁商 滿浦湖聲日夜忙 東北微茫山缺處 鯉鯨掉尾播磨洋

北村 安雅

神さひて心ろすめるしろ鳥のうら松風のことのしらへは

小松 信周

風ふけはまつの小翠にひきつれて浪の鼓の聲あはすなり

坂上 道啓

ほととさすこのころなつとしのひ音のかけをや頼む白鳥の松

白鳥神社圖記 黒木 欣堂

是爲大川郡松原村縣社白鳥神社祭神五社正殿日本武尊配祀 仲哀天皇 神功

皇后 應神天皇及武卯王恭按舊記 景行天皇四十一年 勅造日本武尊伊勢能

保野陵忽有白鳥出陵群臣謂爲靈所化乃視其所止造大和琴彈陵及阿内古市陵然

靈鳥更飛翔西天遂止我讚岐國大内郡三里松原國人神之又造一陵社地即是也國

造神櫛王武卯王等皆致崇敬

仁徳天皇 勅建神籬鑿神池以鶴爲神鳥此是社開創所由也場來一千餘歲土人奉

以爲弓矢神寛文五年讚岐守松平頼重就封于高松也新建祠殿頗極莊嚴整祭儀奇

麗地以顯揚威靈皇政維新高松藩廢而神社列縣社此是社隆替之畧也社枕海濱面

南嶺神地東西二百八十步南北一百二十步社外松林回環四時蒼蒼與浦颯汀鳥之

上下往來者相掩映蓋社靈奧闕之境而兼曠濶清淨之勝者寔爲我讚岐國東部第一

風光矣

森權平墓 引田村より西方松原村に通ずる縣道の上に一祠あり之を森權平の祠

とす天正十二年長曾我部の兵松尾村田面に陣し將に進て引田城を攻めんとす

仙石久秀伏兵を設けて之を邀撃す元親の前鋒敗績して急を報す元親手兵を率

ひて進む久秀の軍終に敗る權平殿戰之に死す時に年十八村民之を非り墓表を

建つ權平生時久秀より姓を得て仙石權平と稱せしと云ふ

過 森 權 平 墓

赤 松 椋 園

水青山紫暮禽歸 無限愁情說向誰 黃葉蕭々飛似雨 行人傾笠讀殘碑

引田村 讚岐東陸阿波街道に當れり地域東西三丁南北九町餘戸口稠密なり其東

北の海灣を引田浦と稱す播陽の青山淡州の島影一陣の裡に在て船舶の往來常に絶へず風光頗る佳なり昔は國中第一の大港と稱せられ巨賈連櫓大船多く碇泊し諸國の交通頻繁なりしと云ふ警察分署區裁判所出張所郵便電信局等あり旅舎は柏屋大黒屋等を可とす高松市に至る十一里十六丁阿波國境に至る一里十丁なり此地醬油の製造盛にして夙に引田醬油の名聲を博せり

引 田 浦

岡 長 祐

月下揚帆去

溟渤湧我傍

蒼樹千萬疊

波上鬱相望

昔往丹花滿

今來樹欲黃

衆芳忽歇矣

此生長遑々

同

鈴木 資 深

播磨かたをきつ沙風ふきぬらし引田の浦に波たちさわく

引田城墟 引田材の西北方に在る一堆の山を引田城墟とす永正年間四宮右近寒川丹後の麾下となり此城に居る其曾孫光武に至り此城を去りて阿波の武田氏に倚る是に於て阿波の三好氏更に矢野駿河守をして之を成らしむ天正七年駿河守長曾我部元親の臣美馬藏人の爲に殺さる是より引田城守無かりしに仙石久秀淡路に在りて讃岐を攻略せんとし其臣森九郎左衛門を遣はして此城に據

らしむ天正十二年長曾我部元親來り攻むるに及び七月城終に陥る天正十五年生駒近規讃岐の領主として此城に入りたるも全國の治府たるに適せずと爲し宇多津城に遷り引田城を東邊の番城とし老臣をして之を守らしめ幾干ならずして廢絶し終に荒涼の空墟となれり

故向山周慶の宅 讃岐製糖の開祖といはるゝ故向山周慶の宅は郡内湊村に在り現今の家主は龜吉とて其の四代の孫なり周慶の遠祖は備後三郎高德に出て文祿の比兒島市兵衛政富といふもの讃岐に移り虎主城主安富氏に屬し豊公征韓の役に従ひ武名ありき周慶は其の後裔にして醫を以て家を成し製糖を以て民を利す文政二年九月廿六日歿墓は宅南の丘上に在り其の遠祖の墳墓累々相接す周慶の墓は題して義正院法山周慶居士といふ宅の直西の邱上に小祠あり向山神社といひ又祖靈社といふ周慶を主とし製糖を助けたる薩人良助を合祀せるものなり始め弘化三年周慶の遺潤を受けたる者共に一祠を建て之を祭り號して砂糖神といひ又向良明神と稱せり蓋向山の向と良助の良とを取りてかく名けしなり明治三年改めて祖靈社といひ十三年官金を賜ひて周慶を追賞し十九年祠宇今の處に移轉し向山神社と改まる又宅西田中に老櫻一株あり周慶の

遺愛に係る蓋此の櫻花の笑ふ候は甘蔗を移植するに最良の時なるを以て櫻は一種の驗候機たりといふ

大水主神社 譽水村大字水主に在り讃岐國式内廿四社の一にて往古は大内一郡の總鎮守たり土人は正一位水主大明神又は大社と稱ふ祭神正殿 孝靈天皇皇女倭迹々日百襲姫命裏殿 孝靈天皇正殿南北別宮あり南は早玉男命北は倭國香姬命外に末社二つあり當社の鎮座は上代に屬すへさも史傳詳かならず社記に實龜年中の勸請とあるは再營の時なるへし往古は神威隆盛なるまゝに元明天皇清和天皇の兩朝御崇敬一方ならず承和三年從五位下貞觀八年に其の上を授けられ 醍醐天皇の延喜年中には祈年祭に預り給へり承平五年及天承元年に海賊平定の御祈りの爲國司奉幣せり嘉禎以降應永の頃には社頭再三の修造ありて別當を大水寺と號し社家七十五員僧坊四十二字ありしといへは其繁盛知るへかりしに天正十一年長曾我部元親の兵燹に罹りて舊記寶物等多く灰燼となる生駒高俊國守たるに及び社殿を再營し社田三拾五石を寄す寶永六年讃岐守松平頼豐亦社殿を修造し奉る以後安政天保の頃復た末社を修造し以て今日に至る

- 社藏寶物頗る多し明治卅三年國寶の資格あるものと指定せられたるものは
- 一彫刻木造御神像 倭迹々日百襲姫命坐像 倭國香姬命坐像 大倭根子彦太瓊命坐像 三 軀
 - 一甲種四等彫刻木造狛犬 一 對
 - 一丙種 全 木造男神坐像 一 軀
 - 一全 全 女神坐像 四 軀
 - 一全 書蹟紙本墨書大股若經入白木面塗画 六十個
- 其他社寶の重なるものは
- 一木額 文正一位大水主大明神トアリ 正親町天皇詔額 祭初法親王額 一 面
 - 一木額 文八大水主御殿トアリ 永享十二年増味等増味寄附 一 面
 - 一木造彫刻隨神立像 二 幅
 - 一丹塗桐木獅子頭 文安五年三位公全秀作 文明四年再彩色 一 頭
 - 一青銅八花式雙鳳文神鏡 一 面
 - 一木造獅子狛犬 傳 運慶作 中大小四 對
 - 一螺鈿鞍 傳 源義經奉納 一 個
 - 一鍔製大雁股鎌 傳 能登守教經所持 一 個

- 一金地彩色扇子 素淨法皇御所持 一本
- 一古寫本木主神社和讃 宥旭筆 一卷
- 一縁起書 一册

倭迹々日百々襲姫命墳 水主神社の前南の丘上に在り

譽田寺 譽水村大字中筋に在り七談議所の一にして天平十一年行基菩薩の創造なり初めは醫王山藥師寺と稱し法相宗なりしが弘法大師入唐皈朝後當寺を修して七堂伽藍とし眞言宗に改め嵯峨帝に奏して鎮護國家勅願所とし大水主の神を以て當院の鎮守とす故に改めて神宮寺と號せり應永の頃龍德房増呼此の寺に住す呼修法の餘力佛畫彫刻等を能くす人其の巧妙に驚かざるなし應永九年勅して權僧正位に任し盧空藏院の號を賜ふ呼因りて又大修造を加へたり之を中興の祖とす天正中寺兵燹に罹りしか元文中讃岐守松平頼重封に就き大に修造を加へらる現存の堂宇は本堂護摩堂相魔堂聖天堂鐘樓門二王門なり庫裡客殿三庫皆宏壯なり當寺本尊は行基菩薩作藥師如來にて日光月光十二神將は増呼の作多聞持國の二天は弘法大師の作なりと傳ふ其他諸佛傳教覺鑿等諸大師の作多しと傳ふ

寺藏寶器頗る多し就中明治卅三年中内務省告示に依りて國寶の資格あるものと定められたるもの左の如し

甲種四等 繪畫 絹本着色佛涅槃圖 一幅

全 絹本着色地藏曼荼羅圖 一 幅

其他重なる寺寶は

- 一 紙本白衣大士像 豎幅 傳兆殿司筆
- 一 絹本雪中龍 豎幅 傳陳所翁筆
- 一 絹本十六善神 豎幅 傳増呼筆
- 一 絹本著者色醫王山盧空藏院全景橫幅 筆者不詳
- 一 増呼僧正筆寫本醫王山舊記
- 一 増呼僧正筆八宗目足古寫本
- 一 絹本淡彩万壑松濤圖巨幅 明徐澹筆
- 一 土佐光起筆山王祭圖六曲屏風
- 一 弘法大師筆 阿字小幅
- 一 増呼僧正刻 十二尺板木

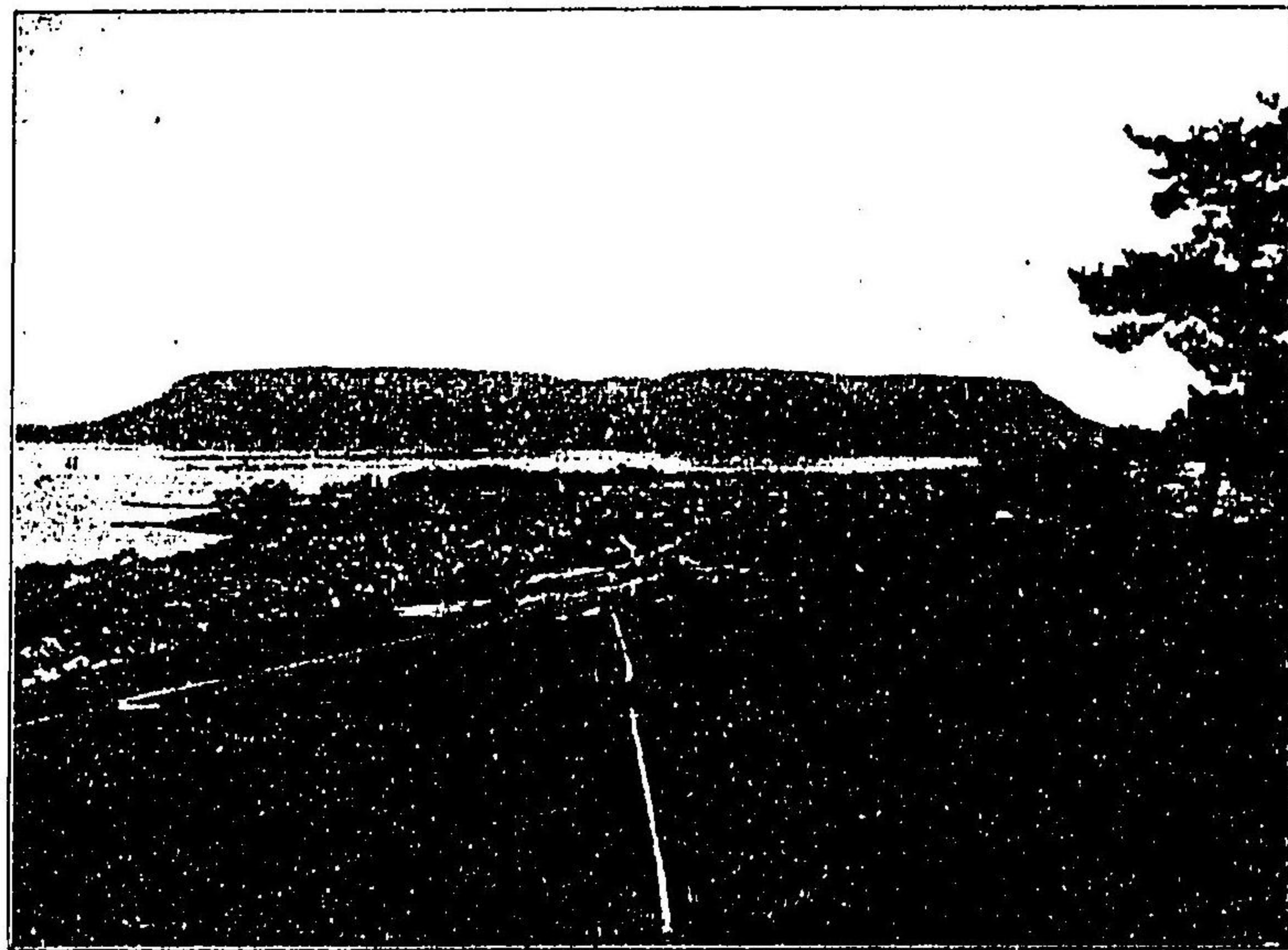
虎丸城址、譽水村大字水主に在り中古東讃の豪族寒川丹後守元隣の要城なり元
 龜三年阿波の三好氏の爲に迫られ寒川郡の畫麻城に退き安富盛方此城に居り
 しに天正十年長曾我部元親兵二万を率ひ來りて之を陥れ進て阿波に入り三好
 存保を攻め其勝瑞城を取る後和を講し存保は虎丸城に入りしが豊臣秀吉其臣
 仙石久秀を讃岐に封するに際し存保は采地二万石を得て十河城に入る是より
 虎丸城荒廢す



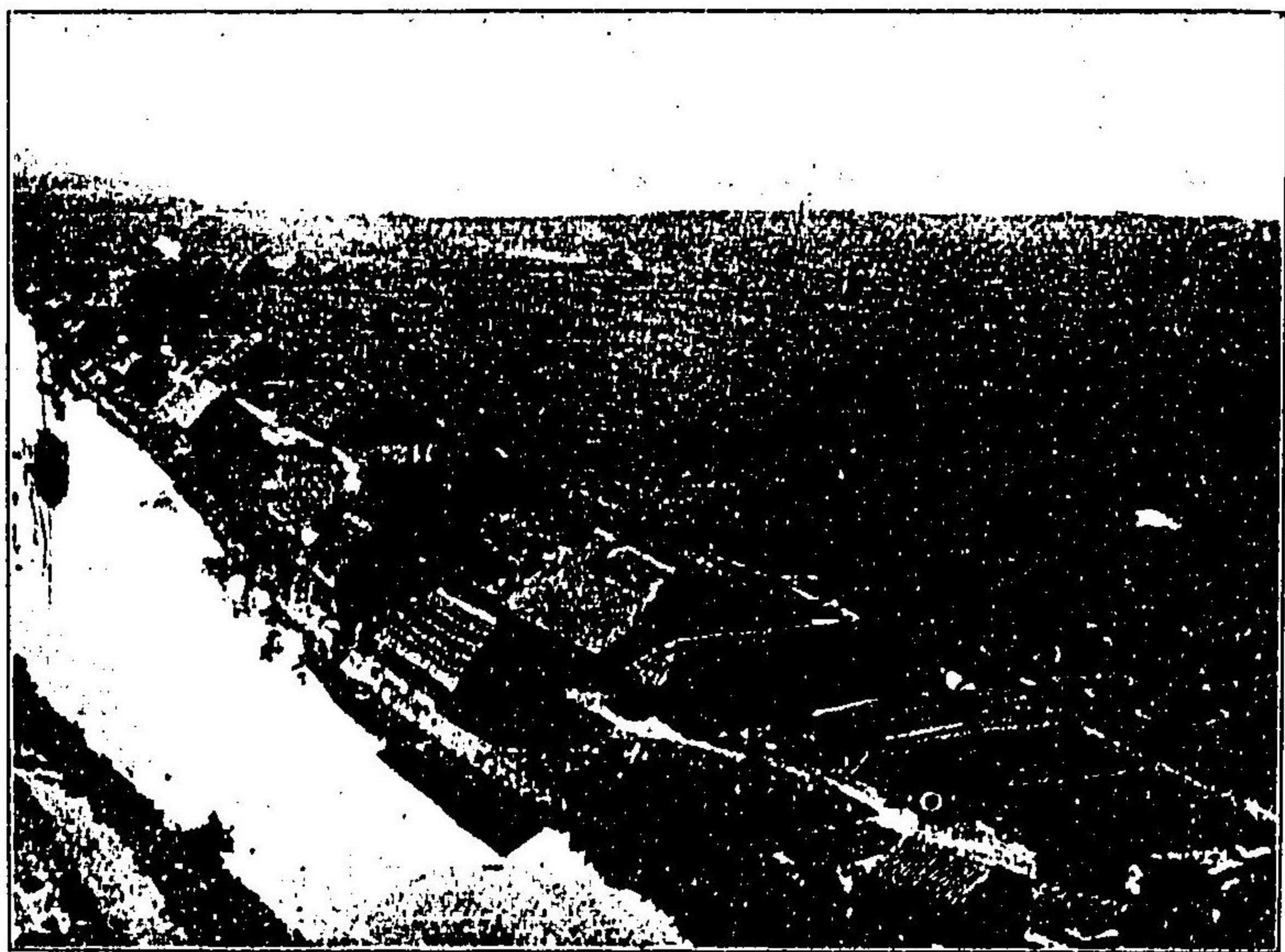
神 佛 王 御 陵



八 栗 五 劍 山 壇 浦



山 島 屋



田 堀 元 湯



小箕ノ瀑布

木田郡

内 案 岐 限 (八〇一)

木田郡は元の三木山田の二郡を合せたる名にして東は大川郡西は香川郡に接し北は海に瀕南は阿波に界す全郡の面積十三方里餘地勢東南は概ね山林原野にして西北は平坦なり奥鹿田中水上下高岡井戸平井牟禮庵治古高松瀧元前田川添木田林三谷坂の上十河東植田西植田の十九ヶ村より成る郡内を通ずる縣道二線あり一は阿波街道高松より長尾に通ずるもの一は高松より海岸に沿ひて志度津田を經阿波街道に會するもの是なり全郡の戸數一万四千八百八十一戸人口七万九千四百六十二人を有す本郡に於ける重なる物産は米麥甘蔗麥稗真田砂糖清酒醬油羽二重陶器等とす又郡内の官署社寺舊城址及び名勝舊蹟等を擧ぐれば左の如し郡役所警察署郵便電信局以上平井村和爾加波神社鎌倉塚靜塚以上井戸村細川清氏墓(下高岡村)虹ヶ瀧(田中村)白羽八幡宮六萬寺八栗寺神佛王墓佐藤繼信墓大夫黒墓惣門跡祈石駒立石射落畑源氏峯大砂子以上牟禮村菜切地藏(古高松村)戸田城址神内城址(西植田村)西尾城址(十河村)三谷城址(三谷村)喜岡城址(古高松村)屋島山瀧元鹽田(瀧元村)故柴野栗山ノ宅(牟禮村)和爾賀波神社 井戸村字熊田にあり祭神は豊玉姬命なり社記に豊玉姬孁に駕して今の新川を沂りて爰に跡を垂れ給ふ因て其河を勝河と云ひ祠を立て之を奉し勝河神社と謂ふ延喜の時八幡神を以て之に配す因て和爾賀波八幡宮と稱す

と當社は讚岐國式内二十四座の一社なり社藏寶物中に古代の木額あり奇古愛すべし
鎌倉塚 井戸村眞行寺内にあり相傳ふ征夷大將軍足利義材大永元年三月世を淡
州に避け世島公方と謂ひ同三年此地に移り尋て薨す謚を惠林院殿道舜嚴山大
居士と云ふ之を此處に葬る世呼て鎌倉塚と云ふと
静塚 井戸村高木に在り里人云ふ義經の愛妓静女此地に來り死して此に葬らる
と然れども静の墓は淡路の國志筑羅漢院に在りて顯然たり然らば則靜に縁あ
るもの此地に居りて追福のため營めるもの歟又同所に鼓が淵と云ふあり相傳
ふ靜の鼓を捨たる所なりと

過靜妓墓

藤田可致

草沒殘碑盡尙昏 空將舞袖委荒原 有時松嶺如琴瑟 喚返香娥夜日魂
細川清氏墓下高岡村白山の麓に在り清氏は南朝歸順の將なり正平十七年春清氏
勅を奉して四國を征する時白山の麓に旗揚げせり東讃の豪族十河神内植田三
谷等の諸氏之に従ひ高屋城(綾歌郡綾松山の下)に據る細川頼之と戦ひて死す清
氏曾て寶藏院(大川郡石田村)王明範和尚と相識る和尚其遺骸を收めて此地に葬ると云ふ
將軍征四國 綾北昔振雄 奪馬兵戈下 礮人矢石中 悲歌皇運極 扼腕僞謀通
俠骨雖委地 芳名千古崇
虹ヶ淵(又ハ小婁の淵) 田中村小婁に在り飛瀑三段に分れて落つ上段は白絹の如

細川將軍

中山城山

く中段は白龍の如く下段は白虹の溪に飲むか如し因て虹が淵と云ふ瀑もと世
に顯はれさりしを舊高松藩主源頼常來り觀て時雨する殿もきてみる小婁哉と
題せられしより小婁が淵といはれ大に世に顯はれたり左に古人の詞藻を借り
て其勝狀を叙す

渡邊 雅茂

白菅の菅の小婁をきて見れば黒き筋なし淵の白糸

岩倉 具選

岩におふる苔はぬれたるみの衣淵の皇雨とちるゆへ

山崎 宗矩

大空にわたせるはしはこみのなる名におふたきのにしにそ有ける

高尾 竹溪

廻合青山聳碧空 一双瀑布表雌雄 逆流成雨頂銀漢 直下倒光掛玉虹 近處
沾衣袂可着 愛情題句筆難工 先公會是垂高詠 勝景添名世々通

後藤 久包

連山西折眺望偏 白日彩虹巖壑懸 不到峩峩幽絕地 誰看飛瀑落天邊

崎嶇山路人氤氳 飛瀑潺湲隔嶺開 千仞練光寒碎玉 半天河影遠穿雲 虹懸
誰辨雌雄色、雷激應驚麋鹿群、舊識先公會賞詠、停車好此挹餘芬、
碧峰界天鏡、決管一蒼々、虎吼千山動、龍飛萬丈長、彩虹驕氣色、白日慘輝光
直訝河源極、溜從雲漢滂、

德永筆山

化翁何歲裂蛟贈、奔出懸泉高此憑、渴虬飲澗波瀾々、鳴雷擊石嶺層々、半空雨
共長烟碎、五彩虹迎落日蒸、更有玉花灑毛髮、滿襟仙氣奈飛騰、

勘解由小路詔光

洞光懸長三千丈、決管銀河掛中台、大珠小珠雪雪粹、驚倒晴午雨雨雷、織女綺
斲石自古、鮫人絹淨淚成堆、忽看神龍出窟宅、吐氣萬丈衝蒼崖、巧架畫橋穿飛
瀑、瀑似天梯插雲隈、定知遊仙出洞口、直下天梯踏橋來、

片山冲堂

小篾山中有双瀑、上下誰分雌雄目、雄瀑快瀉貼崖垂、逆如碎玉亂如絲、雌瀑飛
流聲吼怒、水勢扶開巖石剖、老龍張吻舌何長、噴沫散作晴天雨、安得素吟氣吐

虹、與此雙瀑競雌雄、雙瀑々々真可惜、如今世無李太白、

二本杉 田中村熊野神社の傍に在り、竝立數百尺千歳を経て斧鋸を免かるゝもの
神木とせらるゝか爲なり

秋山忠歸

昔よりその名も高くきこゑ來てなほ幾千代かふたもとの杉

深井象山

老株三百尺、古色一千年、相並元如鏡、高標欲到天、

白羽八幡宮 牟禮村大字牟禮に在り祭神は應神天皇なり社記に據れば文明年中
中村氏宗の勸請に係るものなりと氏宗曾て疫に罹り殆ど死せんとす此神に禱
り疫病頓に癒ゆ依て其神靈を領地内の此地に奉祀せしとぞ

六万寺 牟禮村牟禮にあり天平二年 聖武帝讚岐公高晴に食采六万户を加賜せ
らる高晴大に喜ひ寺を牟禮に建て領内の民庶一戸一軀の銅像を作らしむ因り
て六万寺と號す本尊は新羅王の刻せし阿彌陀如來なり天長四年寺僧眞濟之を
再修す壽永二年平宗盛 安徳天皇を奉して常國屋島に移るや實に是の寺を以
て行在所となすといふ元徳元年高松頼重本地堂を立て貞治年間細川頼之金堂

を脩し又佛像を脩飾す又細川詮春禁榜を制す天正十一年長曾我部元親此寺に陣し其歸後火を失して堂宇悉く烏有に歸し寶物多く亡ふと云ふ延寶六年其舊址に堂宇を再建せりと雖も僅に寺號を繼承するに過ぎず

八栗山 牟禮村にあり一名五劍山と稱す海拔千五百三十七尺山麓より山頂に至る二十四丁あり中腹に至る迄は松樹多きも其上部は怪巖突起五峯に分かれ蒼穹を摩す故に五劍山の名ありと雖も其北端の一端は永祿十一年五月霖雨の爲折裂し東峯は寶永三年十月大地震の爲め折くと天正九年中村藏人宗卜城を築き同十一年土佐の猛將珠數懸孫兵衛久重一千騎を率ゐ此城を攻む山險にして馬進まず皆徒歩して前む宗卜樹間より烏銃を發して孫兵衛を斃し城兵突出して力戦す土佐の兵度を失ひ無數の死傷ありたれとも宗卜其衆寡敵し難く大軍至れば險も恃む可からざるを慮り其夜出て、船に乘し備前に渡り道士中納言家に寓すと云ふ

五 劍 山

尾 池 桐 陽

峯分五劍挿雲端 兩洋風磨影自寒。白日南溟高紫氣 何人携得倚天看

全

僧 海 量

八栗山頭千仞峯。峰々如劍翠重々。青天時有雲烟起 精彩宛爲五色龍

全

山 川 熿

捫蘿攀石此登臨。播海阿山天際沈。誰謂人間難可謝 蓬萊巖上紫雲深。

八栗寺 八栗山の中腹に在り五劍山千手院と號す眞言宗にして四國八十五番の禮拜場なり本尊は正觀音とす延暦年僧空海の開基に係る境内坪數八百十四坪本堂、聖天祠、大師堂、通夜堂、中將堂、藏王堂、鐘樓、二天門等あり就中大聖觀喜變身天王は其靈應顯著なりとて賽者常に絶へず

神櫛王墓 牟禮村志度街道の南岡に在る大墓或は王墓と呼ふもの是なり王は景行天皇第十七の皇子にして御母は五十河媛なり讃岐國造の名を以て山田郡に封せられ屋島の下に宮居し給ひ薨して此處に奉葬す二個の立石あり皆北面す其面に星辰の象を刻す中山城山の説に據れば其大なるは神櫛王の墓にして小なるは須賣保禮命の墓なりと云ふ

佐藤繼信墓 王墓の東麓志度街道の傍に在り舊は池の内にありしを正保二年溜池を築く時此地に移す墓の内より大刀出づ之を志度寺に納むと云ふ寛永二十年松平頼重新に碑を壇の浦に立てしむ其文左の如し

佐藤繼信墓碑

維年壬午之夏我君受封讚州的爲維城助確乎其忠貞真可觀一日講武之暇泛蘭葉飛彩鷗吳歌越唱逍遙屋島偶覽佐藤次信墳墓茲乃命下吏刊貞石建新碑表義旌貞於乎君用意也深矣哉至矣哉次信決死于元曆之昔而感人于寬永之今奚其雄矣哉乃命余作碑銘遂書如左曾若渠系譜誕辰載曆日月事跡操行舊記所載前史所傳歷々焉章々焉胡贅余言於皇次信兮挺于瀕危之場酬恩致死兮百世誰曰不剛遇難當錯兮顯于莫之雄銘識定膽壯兮誠依教養有常尤可稱者兮維夫在將之良建碑刊石兮遺烈山高水長寬永癸未仲夏上浣

高松侯備臣 岡部 拙齋

大夫黒墓 繼信墓碑の傍に在り碑面に大夫黒馬埋所の五字を刻せり傳へ云ふ藤原秀衡の義經に贈るもの初め淡墨と云ひしか義經五位尉に叙せられし時此馬に乗りしとて大夫黒と改めしに屋島の役繼信忠死を遂げ義經深く之を哀傷し繼信を葬りて此馬を志度寺に送り以て繼信吊祭の料に換へしに或時逸走して繼信の墓前に斃れたりと

惣門跡 志度街道より左折敷町にして田畝の中に二柱あり之を惣門跡と云ふ元曆二年平家一の谷を遁れ西海の波に漂ひ牟禮村に來り六万寺を行在所とし睹

將此地に陣營を設けし時此處は惣門なりしか源義經來り攻むるに及びて平家は船に乗り檀の浦に浮ひしかは源氏の諸將入り更り爰に陣せしゆゑ却て源氏の惣門となりたりと云ふ松平頼重入國の後舊跡を討究して衛門を建て其所を表す

祈石駒立石射落畑 共に牟禮の海邊に在り那須與一宗高か扇を射るとき祈念を爲し又駒を立てし跡なりと云ふ射落畑は佐藤繼信か源廷尉に代り能登守教經の矢表に立ち塞かり遂に射落されし處依て畑の名となれり

源氏か峰 八栗山の續きに在り相傳義經此峰に登りて屋島の陣を望みし所なりと又判官腰掛石あり今人此石に腰を掛れば災ありと云ふ

大砂子 牟禮に在り屋島の戦亂軍に至る時惡七兵衛と三尾谷十郎とわたり合ひ戦しに三尾谷大刀打折られ逃げ出すを景清熊手を持って三尾谷か兜の綴シロに打かけて引合しが終に綴切れて三尾谷逃延たるは此處なりしと云ふ

菜切地藏 古高松明覺寺の東にあり昔武藏坊辨慶石地藏の背にて長刀を以て菜を切り汁となし之を義經に奉る時に義經句あり 辨慶かこしらへし菜は武藏坊

辨慶の句に、それ知りなから九郎判官といひしとぞ

戸田城址 西植田村にあり元暦年間植田若狹允信則なる者あり屋島戦役の際源義經に屬して功あり元龜天正の頃に至り植田美濃守安信此城に居り長曾我部元親の爲に征服せらる天正十三年豊臣秀吉兵を遣はし元親を攻むるや元親城に據りて之を防ぎ秀吉の兵屋島に退く後和成り元親阿讃豫三州を捨て、土佐に歸り城終に廢頽す

神内城址 西植田に在り元暦年間植田の族神内廣忠此城に居り義經に隨ひ戦功あり貞治年間神内景成あり天文天正の際神内景之及清定あり皆相繼ぎ居城せしが戸田城廢頽と同時に墟となれりと云ふ

西尾城址 十河村に在り十河氏歴世居城の墟なり神櫛王の後讚岐朝臣の姓を賜ひ世々牟禮城に居る其子孫植田氏に至り永長年間四子あり長子を神内に封し神内太郎と云ひ次子を植田に封し植田次郎といひ三子を三谷に封し三谷三郎といひ四子を十河に封し十河十郎と云ふ貞治の時に及び細川清氏南朝の勅命を奉し四國を征す十河十郎親存先づ行きて關す清氏大に喜ひ親存を賞して首領と爲す因て十河首領十郎といふ後三世を歴て三好長慶の第四子を養嗣子と

爲し之を十河讚岐守一存と云ふ武勇世に聞こゆ呼て鬼十河といふ一存子なし三好長治の弟を養ひて嗣子となす之を孫六郎存保と云ふ天正十一年長曾我部元親の爲に攻落せられ豊臣氏に歸す天正十四年島津氏征伐の軍に従ひ戦死し城終に廢す

三谷城址 三谷村にあり三谷氏世々之に居り元暦年間三谷左馬亮勝正源氏に屬して戦功あり永享の時三谷彌七郎景晴あり細川氏に屬し射術の精妙を以て名あり後花園院の御宇怪禽あり禁闕の棟上に留まり異光を放つ公卿相議し上古源三位頼政か鶴を射たる例により武士に命して射殺せしむへしとて足利家へ勅使をたつ足利家則景晴を奏薦す景晴大内に參し殿上の庇に至り怪禽の來るを待つ夜半果して來り光を發す景晴之を射る怪禽地に落つ景晴階を下らんとして落つ公卿相謂ひて曰く怪禽を一箭に射殺するの勇ありて何を階より落つるやと景晴答て曰く莽莽の微臣參内階上に登る非分の事に屬す而して既に勅命を果す誠恐誠懼の至に堪へず斯の如しと詞散聞に達し褒賞頗る深く故頼政の官と同しく兵庫頭と任せらる是より兵庫頭と彌七郎は三谷氏の通名とせり天正年間に及び長曾我部氏の攻むる所となり城遂に廢頽す

喜岡城址 古高松村歸來に在り昔此地に喬松あり因て高松の名あり讚岐領臣の族高松小三郎頼重世々此地に居城す其裔左馬助頼邑に至り香西氏に屬す天正十一年仙石秀久封を讚岐に受け來りて此城を攻む克たすして還る豊太閤の南征に及び片山志摩唐人彈正相助けて之を拒くと雖とも衆寡敵せず三將戰死し城亦陥り城となれりと云ふ城址に喜岡寺あり其背後に頼邑志摩彈正の墳墓相並へり頼邑及志摩の碑文左の如し

高松左馬助頼邑墓碑

元龜天正之間海内釋賊最甚迨豊臣氏闕然一城震驚四方如雷如霆餘威振海外若秦元親強暴南國草偃其餘舌縮股慄奔潰獨不屈其威者蕞爾喜岡城而已事詳于前載略舉其要城主左馬助頼邑私隘道勝所謂高松三郎頼重之冑而世食于高松郷居喜岡城仙石秀久受封於讚先至攻此城弗克而還明年豊臣氏命浮田黒田等七帥將兵二萬三千人征讚岐又先伐此城彈丸黒子地雖片山志摩唐人彈正率兵救之而城中僅二百餘人螻蟻龍車未足以喻矣於是主將與志摩彈正同心決命守三將振臂一呼士咸佻飛胷白及血戰而斃視死如歸豈非養士有素而得其死如此乎嗟乎三子完志節死之胡可不含笑于泉下哉彼不以德而以威宜乎其效死而不服也世稱之曰三烈比諸許男而纏絞人城

下之盟豈止天淵而已矣哉是時天正十三年四月二十六日也其墟今爲寺曰喜岡寺住寺龍客曰恐後世墳塋埋沒精魂無依也故欲立碑而表之且使四方之士過此者感遠慨然永懷其遺烈焉使人遺請文於予予深嘆其用心之厚爲之銘曰

猛將如雲矢如雨、十雉孤危猶一蚊、力雖窮志不可奪、嗟烈士歿有餘欣

從四位下行侍從 清原朝宣光撰

片山志摩墓碑

君姓首藤諱俊秀稱志摩父首藤玄蕃明應中自紀來讚屬香西氏食米鷲田居城片山因氏焉天正十三年四月二十六日豊公七帥以三萬七千人伐喜岡城君及唐人彈正援之與高松左馬助共守之猛將勅敵蝟集攻之激矢如雨攢鋒成林嬰城者僅二百餘人兵盡力窮三將死之嗟三子投命殉節雖張巡許遠何以加哉銘曰

其城可陷、志不可奪、義立守禦、自沒鋒括、

讚州處士 菊池武賢撰

屋島山 那の北端瀉元村に在り形ち屋宇の如し因て名を得たり山上山下共に舊跡多し其東方の山麓を壇の浦といひ源平二氏の古戰場なり山角北海に突出する處を長崎といひ、安徳天皇行宮の舊址なり壽永二年平氏太宰府にありて緒方

惟義の爲に追はれ、此地に来る時に菊地胤益材を阿波にとり、内裡及大臣公卿の居所を建つ。元暦二年源義經の爲めに焼かる山の南麓を繞るは古の所謂相引瀬の片影なり。西方海灣を隔て遙かに連櫓の塵烟中に現るゝは高松市街とす。屋島寺は山の頂に在り、南面山千光院と號す。四國八十四番の札所なり。本尊は千手觀音にして空海の作と云ふ。堂宇稍廢頽に及ひしに、近時屋島保勝會起り、漸次修補を加ふと云ふ。獅子靈岩は山の西にあり、岩の狀獅子に似たるを以て此名を得たり。屋島寺建立の時弘法大師此靈岸へ出て日を招き返す所と云ふ。血の池も山上に在り、源平戦争の時兵戈の血を洗ひしゆゑ、今に水色赤しと云ふ。今左に舊記及古人の詞藻を載せて詳記に代ゆ。

屋島 記

奥村 景武 高松藩儒 稱治兵術

屋島者當高城之東北、在碧海之中、蓋山嶽之神秀而南國之壯觀也。玲瓏之美、瑰奇之勝、非毛穎所能載也。其狀也、遠望之則彷彿如比屋、故名焉。蜂峰於白雲、倒景於滄海、長坂俯途、躋莓苔之滑石、攀壁立之翠屏、到絕頂有精舍、而瑤臺瓊殿玲瓏於上方、宛如入仙都也。有大悲閣、相傳僧空海一晝夜所營也。往到北嶺路、逶迤傳言、管築坊舍一千、遺跡尙存焉。或奇木千仞、垂陰萬畝、橫柯掩葉、鬱律綢繆、其幽寂也、可令松喬王期之徒、遊中從于此也。東仰

則五級峰、峽岫其狀宛如莫耶、新發於礪也。南則平野千里、地勢塊虬、西望則高城崢嶸、雄之鳥出其傍也。北則滄海萬里、洪濤瀾汗、夫不窺玉淵、何見驪龍之所、蟠不觀上邦、豈知英雄所、躋遊覽既周、心胸豁然、既經九折而下、壇浦元曆中、廷尉源義經與平亞相宗盛戰之所也。有安德帝皇居之遺蹤、昔者鳳闕玉階、盡輪奐之美、今者爲山鬼野鼠、遊戯之墟、松杉鬱々、秋氣撩慄、天命靡常、誠可恐懼矣。既到海濱、則有佐藤嗣信之碑、昔運留候之策、奮樊噲之勇、一朝代君而死、千載尙稱其忠烈。田夫野老、過莫不心酸淚下也。抑兩軍既交、鐘鼓之聲響于天、旂翻飄于地、當此時、欲愛此風光、樂此幽寂、其可得乎。嗚呼、功臣謀士、盡忠勵義、而今何在哉。今也逢方內人安、萬民樂業之日、父子兄弟、提携撫養、尙恐不終其壽也。予嘗經過數回、愛此幽寂、今茲九月之季、又陟此山、觀此治亂興亡、以感時運矣。遂揮毫而記焉。延享二年乙丑九月二十八日。

屋島 懷古

松平 頼儀 高松藩主 源義公

官軍一出狩南州。洋海風雲寄冕旒。戰合縱橫金鎬亂。城高左右旆旌流。臨營月影懸秋夢。打岸潮聲落客舟。遙憶英魂何所處。蒼々曉色星河悠。

桂山 義樹 江戸官儒 號鶴汀

海門風浪怒難平。此地曾屯十萬兵。金鎬頻飛魚鼈窟。樓船空保鳳凰城。宋帝遺

臣迷北極。周王君子盡南征。不識英魂何所處。月明波上夜吹笙。

同

那須資明 事府世臣

屋島戰塵元曆年。源軍金鼓震城邊。朱旗欲亂翻雲樹。滿鶴終飛映海天。檀浦浪花隨夕散。粟山風月經秋圓。猶餘平氏韓門迹。鬼哭應知夜雨前。

屋山懷古

中村文輔 高松藩儒

山擁大荒地勢雄。激波相擊拆西東。仙鐘遙響鳥聲外。帝座忽看厯氣中。一隊旌旗雲出壘。千房棟宇草連空。女牆曾照舊時月。獨落江流似學弓。

同

高尾養 高松藩儒

屋山秋老一寥然。此處戰功元曆年。水瀆血池蕭寺外。苔埋碑銘石橋前。風聲入樹驚兵走。紅葉映霞訝轍連。岸畔潮流猶有怒。英魂今日在何邊。

同

僧海量

海灣高倚梵王宮。畫閣金樓爛映空。啼淚未乾零露白。血痕猶濕落花紅。餓禽飛上狐墳樹。驚浪怒號屋島風。今日誰看南浦暮。雲間纖月影如弓。

屋山獅巖

荒木友興

獅巖枕海險。峭壁自巍々。座石仙雲起。俗林黃雀飛。功名何處厚。富貴古來非。知是滄洲地。

不堪帶月歸

屋山八景

賀雀庵梅晴

源氏か峯の秋月 明月や眼に見ゆるもの皆しろし

見歸橋の晴嵐 水筋を吹つゝさけり青わらし

八栗山の暮雪 御灯しの常より赤し雪の山

繼信墓の夜雨 雨雪の夜空に黒しけふ鳥

總門の落雁 稔りたる稻の黄みやあさる雁

檀浦の歸帆 釣舟の續や秋の淺黄空

屋山絶頂

黒木欣堂

直疑呼吸接青雲。下瞰十州紫翠紛。玉府真人餘鍊葯。潢池兒輩弄戲軍。大椎小椎帆光碎。雄木雌木島影分。試跨獅巖發雷吼。馮夷出窟亦驚聞。

屋島古戰場圖記

黒木欣堂

八栗山之西。横嶺劃一。如望厦屋者。爲屋島山。二山之間。曰牟禮村。實爲源平二氏古戰場。史曰。壽永二年七月。平宗盛奉安徳天皇。航于西海。九月長門。目代紀通資獻船百餘艘。以徒讚岐。屋島因建屋島爲行宮。所謂行宮。村東六萬寺是也。惜舊構多改。村北置存柵門。

耳史又曰元曆二年二月十七日源義經自阿波勝浦疾馳來襲屋島縱火高松里平氏大驚舉旅上舟海陸交射互有勝敗會日暮源軍退陣高松平軍在舟十九日源軍來攻平軍上陸接戰不利遂上舟奉乘輿避于志度義經復來攻乃遷西河今按地形所謂高松里即今山南古高松村村東有源軍勇士佐藤嗣信墓及名馬大夫關墳而庵治浦有巧射者那須宗高祈神石馬是岡爲入栗山下西望屋島之景島腰叢林中有一安徳天皇祠島腹古塔累累于草萊間相傳爲平軍追福之域覽古者每過此間未嘗不俯仰回望感慨以詠歎也。

瀧元濱鹽田 縣下鹽田中築設時代の古くして製鹽の最も精良なるは蓋し本郡瀧

元村の右に出るもの無かるへし此濱の鹽田は三ヶ所に區畫せられ寶曆五年亥年高松藩主松平家に於て築きたる三十三町三反歩の鹽田を亥の濱と云へ其翌六年子年舊藩老臣大久保一學の築きたる十六町三反歩を子の濱と云ふ共に今より百四十餘年前の築設に係り其他新濱と稱し天保十三年舊藩主松平家の築きたるもの古濱と稱し古來地方人の所有たりしものあり此四ヶ所の總反別七十九町歩餘竈數三十七個昔時は松葉を以て燃料とせしも明治五年より漸次石炭に改め其構造は皆石釜なり一ヶ年の製鹽數凡十二万六千石其石炭を消

費するもの二千五百万斤内外なり本村の食鹽は挾雜物少く殆ど純然たる眞鹽なるを以て最も優等品を生産せり販路は重に大阪に出て其幾小部分は九州及北陸道に輸出す現今鹽田賣買の價格は登町五反歩に對し五千圓乃至六千圓なりと云ふ

故柴野栗山先生宅 木田郡牟禮村大字牟禮に在り先生名は邦彦字彦輔栗山は其の號にて全處に生れ夙に京師に上り門を開きて徒に授け經術文章を以て近畿關西に鳴る一たび阿波侯の聘に應じ其の國學を振起せしが寛政中松平定信白河樂翁公幕府老中となるや先生を拔擢して幕府待問儒員とし天下の學政を整理せしむ定信が皇室に捧げ奉れる勅王の美績大内の造營 皇陵の修理等多く先生の献策に出つと謂ふ先生又尾藤二洲古賀精里を擧げ用ゐしむ世に先生及二洲精里を寛政の三博士と謂ふ而して先生實に其の巨擘たり文化四年丁卯十二月朔日七十二歳にして江戸に終る墓は音羽護國寺畔に在り是より前先生江戸に出るや江戸に家を成し又阿波に男允升(碧海)をして一家を成さしめ而して牟禮は其の出處たるを以て宗家とし多く遺物を殘留す今の戸主を新八と謂ふ五世の孫なりと云ふ遺物中の重なるもの一二を紹介せんに

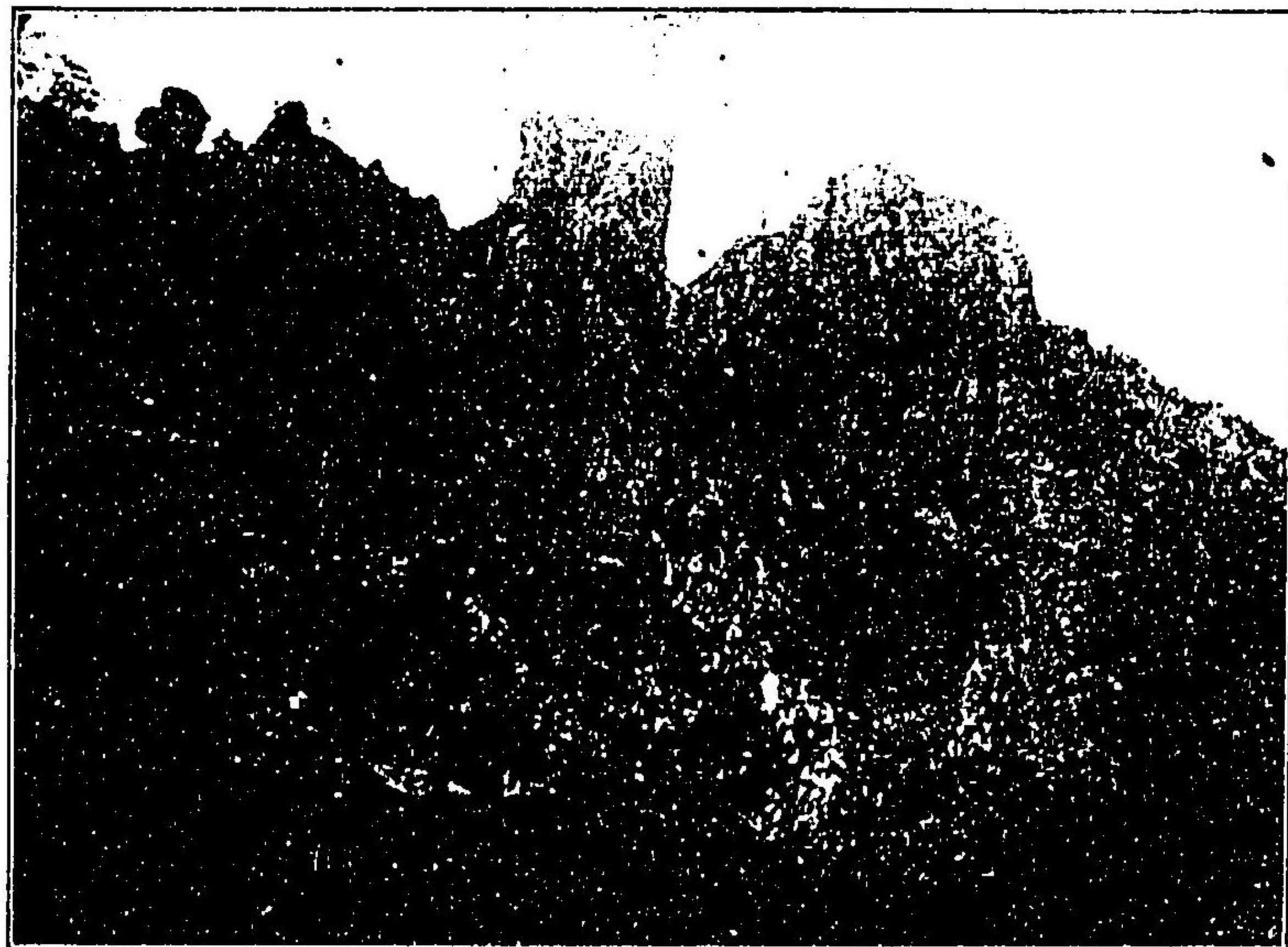
一紙本墨書正楷紫宸殿聖賢障子畫模本屏風記
一絹本着色南殿障子名臣圖蕭相國像稿本

一卷 梁山自筆
一幅

右外匣に栗山先生自書の文ありと云。

南殿障子名臣圖。三十二像内。仲山市蕭相國杜征南三圖。住吉廣行畫稿。圖上小傳白川羽林源公定畫也。其杜征南付兒允升。仲山市則傳藏我家。今送蕭相國一幀。致宗兄宜珍家。使姪男允寧守。是我鎮宅寶也。慎勿忽。享和二年征夷府待問備員柴彦。

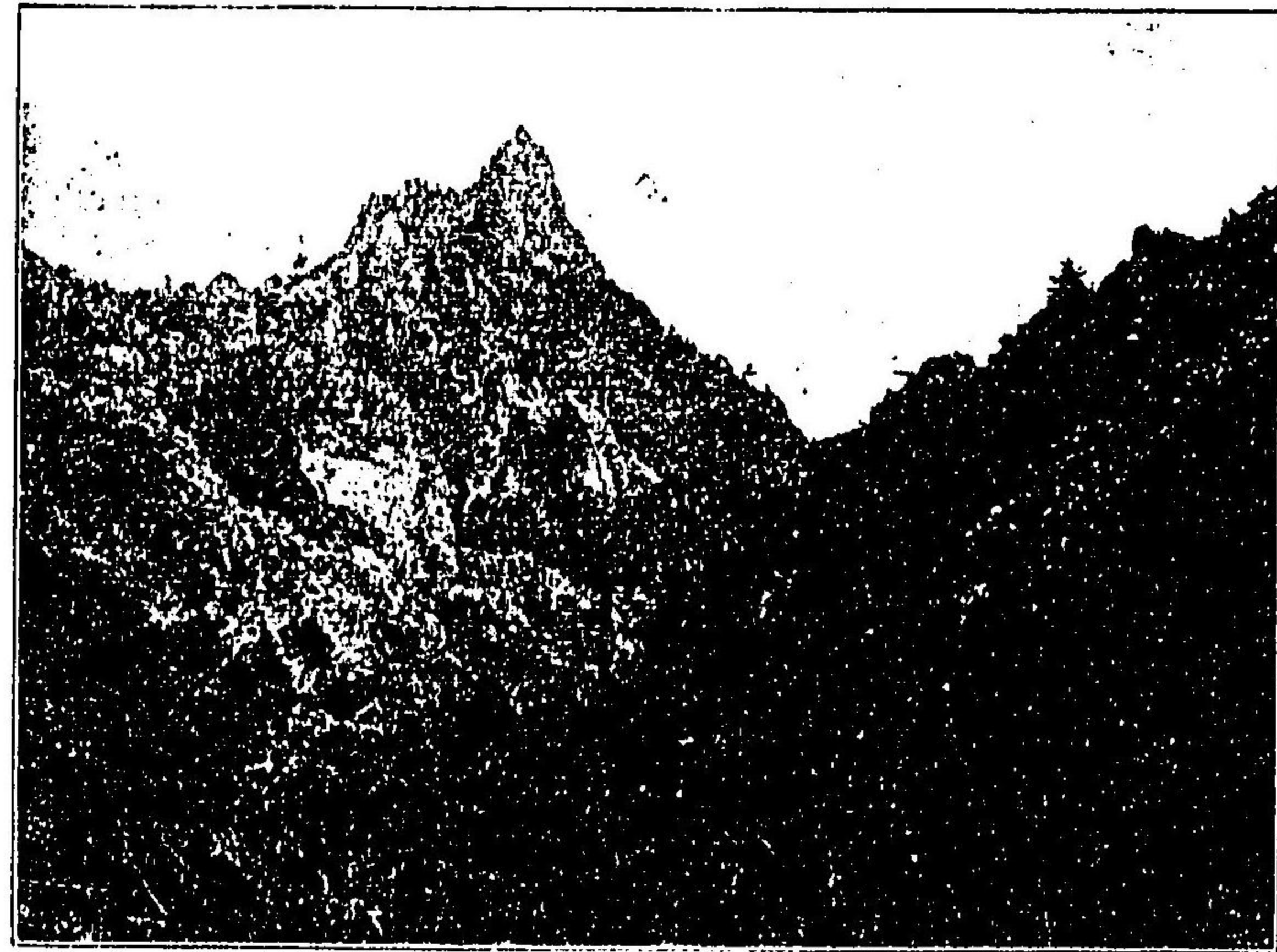
一紙本墨書栗山眞蹟六曲屏右桃李圖序一雙
左西室鏡



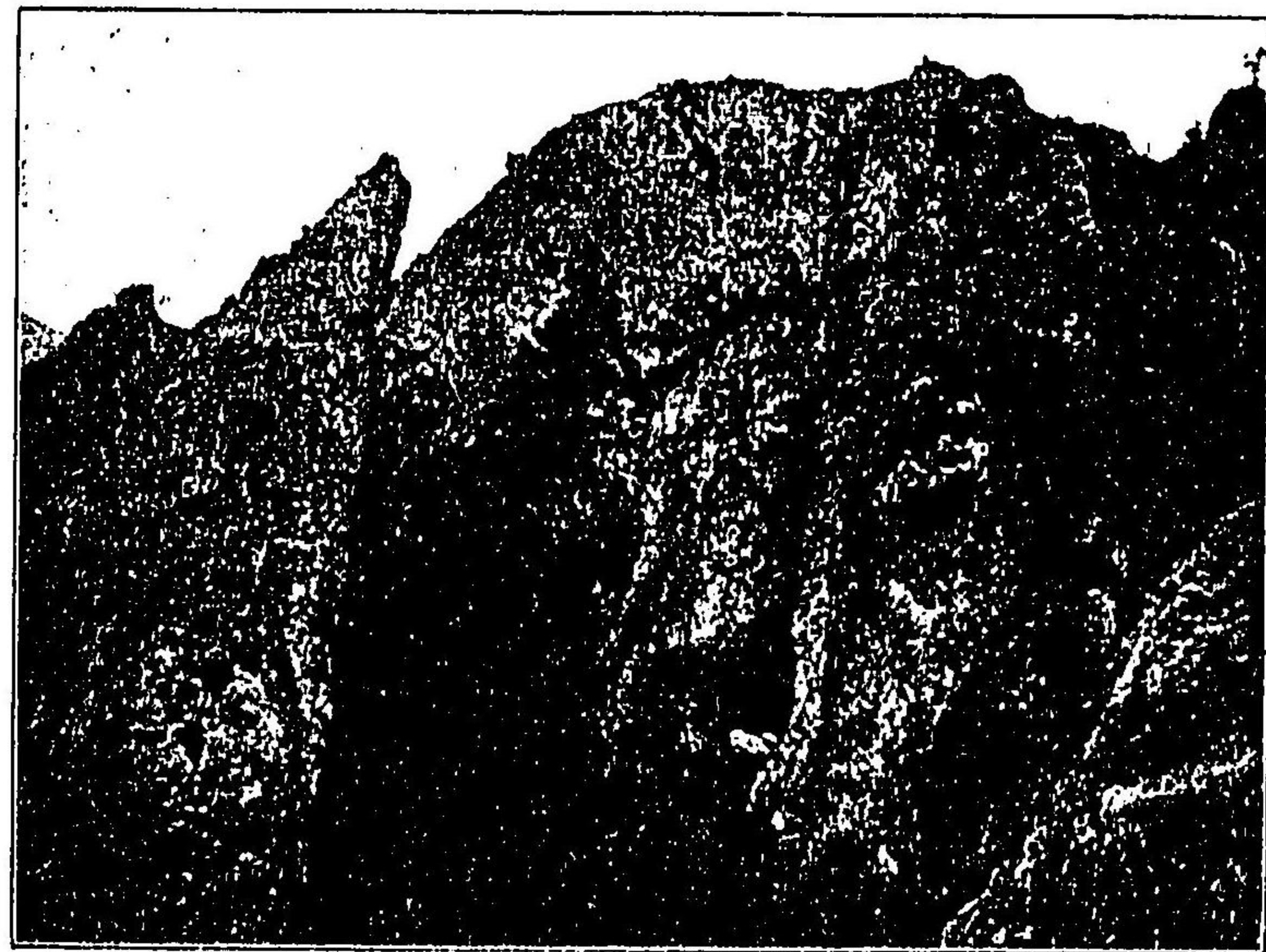
寒 霞 溪 錦 櫛 屏



寒 霞 溪 鳥 朝 子 殿



寒 霞 玉 笋 峰



寒 霞 老 杉 洞

小 豆 郡

小豆郡は大川郡の北方海上に横はれる島なり、其面積八方里七分、土庄町及淵崎、大鐸池田、二生、三都、西草壁、安田、苗羽、坂手、福田、大部、北浦、四海、豊島の十五ヶ村より成る、四周悉く海に瀕し、北は備前播磨と相對し、東は播磨灘及淡路島に向ふ、地勢山岳中央に連亘するを以て、其平坦なるものは、僅に沿海の地に過ぎず、土庄より池田、草壁、安田、苗羽を経て坂手港に到る五里餘の間は稍平坦也、之を假定縣道坂手線と稱す、
 其他の三面は概して崎嶇、羊腸車を通せず、本郡は讃岐本土と其沿革を同ふせざるに依り、聊其概要を記す、本島は上古備前附屬の一島たりしも、貞治年間細川氏の管領所となりてより、讃岐の屬島と爲れり、慶長年間豊臣氏の直轄地となり、徳川氏の時世に至りては、支配人を定め、代官を置き、以て統治せり、天保九年に及びて、草壁、福田、大部を徳川直轄とし、池田、淵崎、土庄、上庄、肥土山、小海を津山領となせり、維新の後、明治四年二月、徳川の直轄地は倉敷縣津山領は津山縣、又北條縣の管轄とし、五月一月、香川縣、六年十二月、名東縣、八年又香川縣、九年八月、愛媛縣、二十一年十二月に及び、更に香川縣所轄となりて、今日に至れり、本郡物産の重なるものは、麥、甘藷、醬油、素麵、麥稈及其眞田、石材、薪材、魚類等とす

又本郡所在の官署、社寺及名勝、舊蹟等の所在點を擧ぐれば左の如し
 郡役所 警察署 稅務署 郵便電信局 登記所 加藤遺物 (以上土庄町) 富岡

神社 寶生院 (淵崎村) 鏡子池 (大鐸村) 湯船庵 大麻山 北條遺物 龜山神社 (池田村) 内海灣 (三生三郡西村草壁安田苗羽の諸村) 石門 神懸山 (草壁村) 星ヶ城 清瀧山 飽浦信胤墓(安田村) 八幡神社 恭石山 (苗羽村) 洞雲山 隼山 (坂手村) 葺田神社 田中綏猷墓 (福田村) 四門山 仙屋瀑 琴塚 (大部村) 鳴瀧 (北浦村) 長勝寺 小江港 伊喜末神社 (四海村) 特有産物 島八十八ヶ所 土庄町 は郡の西南端に位し一市街を爲し郡中最も股賑の地區たり戸數一千三百三十戸人口五千六百六十五人を有す郡役所警察署稅務署郵便電信局登記所小豆島銀行の如き皆此地に在り又高松岡山神戸大阪を往復する汽船の日々寄港する吉ヶ浦は土庄を距る數町の西北に在り旅舎の重なるものは酒喜住屋赤松等を推すへし赤松は料理亭を兼ね他は旅人宿を專業とす當港より各地への里程左の如し 高松へ 十二海里 岡山へ 十八海里 志度へ 九海里半 神戸へ 五十九海里 大阪へ 七十一海里 寒霞溪へ 凡四里半

加藤遺物 同町に在り豊太尉大阪城を築きしとき其石材多く本島より徵す該城追手門見付の巨石は本町小瀬に在りしと云ふ當時加藤清正石奉行として時々來島し毎に郷正笠井三郎左衛門に投す事成り辭するに臨て天正祐定の刀劍珊瑚の珠數及古墨を贈らる今尙笠井氏に傳ふ

富岡神社 淵崎村東南宇富岡に在り 應神天皇を奉祀す 池田村の龜山神社苗

羽村の八幡神社福田村の葺田神社四海村の伊喜末神社と共に郡内郷社五社の一なり(祭神は各社共應神帝)社は山嶺に在りて四望の風光最も佳なり即ち海を隔りて西方に巍然として空を摩するものは五劍山なり其右に横はるは屋島山なり南は志度の海灣津田の松原を俯瞰し北は青門山天を衝きて聳る奇異の山容人目を驚かすに足る社前を降り双子山に上れば其の觀望更らに一層の快あり

寶生院 同村字北山に在り眞言宗にして天平年間行基の開山なり本尊は地藏菩薩弘安年中増畔の興復に係る皇跡山吉祥寺と號す大覺寺派の中本山なり堂宇莊嚴地域宏壯郡内第一の巨刹なり古書畫の藏最も多し

鏡子瀑 大鐸村肥土山に在り山麓より二十五町瀑上巨石相疊みて潭を成し其水口五尺且崖上に突出する數尺にして直下するもの六十尺恰も鏡子の口より洒を灑くが如し故に土人鏡子ヶ口と云ふ其水の清き其石の美なる實に掬すべきなり且此地怪巖多く綠樹深し幽邃閑雅一見仙境の如し是本郡三瀑の一なり歌句一二を録す曰く並たてる岩にさらせる眞清水はこや山人のおれる布かも秋滿(木枯の吹ももらさず瀧の糸)坐六

湯船庵 池田村中山に在り應永年間飽浦信胤氏の造營なりと云ふ堂下涌泉あり田面九町餘歩を養ふに足る地域甚だ宏からざるも綠樹翁鬱其幽邃愛すべく其閑雅親むべし信胤の歌あり曰く(かのつから光も清くたれてすむ月をあるしの山の井の水)

太麻山 池田村中山の背後にあり高さ千七百十六尺山骨露出天半に横はり其西端巖下に瀧水寺あり觀世音菩薩を本尊とす白壁延長數百間宛かも一帯の白雲山腰を廻りに似たり巖下に涌泉あり其水千古絶へず土俗此山を西の瀧又は虹の瀧とも云ふ山海の眺望頗る絶佳なり

北條遺物 同字にあり建久年間北條時頼二階堂信濃守を隨へ行脚せし時臥病數旬當村八木氏の主念々佛家富みて慈善なりしかば時頼の看護に盡力せり時頼快復歸館の後召して雙刀及朱印地を賜ふ後念々佛の玄孫覺音なる者傳來の朱印を没取せられしを愁訴し更に北條時宗より朱印を賜ふ其書及刀劍とも今尙八木氏に傳ふ

龜山神社 同村に在り本郡五社の一岩清水の別宮なり相傳ふ延長四年の墜屨にして當時奉幣使御璽輔則下向ありしと社地高燥頗る清潔なり其秋季例祭の如き

は郡内の大祭にして各村の老幼群集を極むと云ふ歌句一二を録す

稜威さへかしこかりけり龜山の宮居尊くふし仰きつゝ

松の香のこはれて涼し朝日影

秋 滿
二 三

内海灣 灣内廣潤にして深さ十一俣二生三都西村草壁安田苗羽の諸村灣を廻りて位置す其西南に灣口あり此灣の艦船に便する瀬戸内に名あり爰を以て内外軍艦の碇泊するもの自他船舶の風難を避くるもの常に其多きを見る聞く本灣の軍事上に必要の箇處なるを以て他日軍港の一部に列せらるゝの議ありしと且灣内草壁村に島及草壁の両醬油會社及倉庫會社吳服會社又百十四銀行支店あり安田村に郵便電信局及醬油會社又高松銀行の支店あり且本灣に沿ふの各村は醬油醸造の業最盛にして以上數會社の外大醸造家數十戸あり小豆島醬油の濫觴亦此にあり且此地は 天武天皇第一子草壁王(朱鳥三年に薨去せられし皇太子)の御名代地と定め玉ふことあり古歌に

内海の入江の波も御名代の昔戀しみ立歸るらし

且去る明治二十三年四月十八日 天皇陛下吳佐世保兩軍港へ行幸の途次本灣に御寄泊し玉ふ實に千載の盛事なり翌十九日御艦吳港に向け進發せらるに際

し濃霧海を蔽ふ因りて灣口に滯泊し給ひ二十日に至り僅に發艦し玉ふ御在泊中御製あり

思ひきやあつきのしまの朝霧にゆくさき見へずなりはてむとは

爾後島民は御寄泊の洪恩を永久に傳へむことを期し御眞影の下賜を願ふて許さる因て毎年四月十八日を卜し御眞影を灣頭八幡神社の祠内に奉掲し御寄泊紀年式を執行す其式典年一年盛にして近時は同社の年祭と同況なりしと云ふ且明治三十二年十月 東宮殿下西遊の途次御寄灣直に御上陸神懸山麓に於て御遊獵を成し給へり但此御遊は御微行なりしと云ふ抑本灣は斯の如く艦船の利又皇室の恩榮を辱ふするのみならず其風光の如き翠峰碧澗水面に落ち風帆漁艇遠近に往來し且葉舟を浮へて回岸を觀望すれば或は砂白松青あり或は斷岩懸崖あり其山水の雙美なる實に具備せりと云ふへし

草壁村 東は安田西は西村北は大部に隣し南は内海灣に面す上村下村片城の三部落に分つ戸數六百五十五戸人口三千百八十五人土庄に亞くの名邑なり其商工業に於ける醬油の如き最盛なり三部落の内下村は稍市街の状態を爲せり此地より日々土庄高松岡山へ往復する汽船の便あり

石門 同村字上村にあり(石窗又は牕と云ふ)山麓より二十町峻巖聳立巨門を成す其天工實に驚くべきなり且怪石奇巖削るが如く綠樹紅楓綴るが如く其壯觀實に愛すべきなり詩歌二三を録す曰く(前略)

陟降崎嶇到石門曰是窓也奇巖聳立突天中空成門雄偉可驚又行數十步指巖崑壁立如列屏風高數千尺下達壑底曰是瀑布也有銀河下九天觀而無水蓋曰牕曰瀑布者土人以形似名也其他傾而欲頽者橫而欲墜者斜走者倒懸者獅怒虎踞龍蟠鳳翼使人心悸目眩既而到山巔無樹無巖細草如羶四望開豁南海山陽諸山歷々鍾脚下蓋望十州云(後略)

南摩羽峰

石梁千尺勢如吞。 蹙步危磴易斷魂。 回顧乍驚眺望變。 碧雲低處是鳴門。

衣笠豪谷

仙人のすみかなるらん萬かつらからみまどへる峰の石門 平 目

さゝ晴や窓にふたするちきの雲 秋 起

神懸山 同村同字にあり山麓より三十町文墨社會にて鍵掛鉤懸浣花溪寒霞溪と書す相傳ふ應神帝本島に遊び玉ひしとき此山に登り索を以て鉤に束ね樹に懸けて以て山頂に達し玉ひしと乃ち關西の名區にして峰巒奇絶怪巖秀絶松杉雜

樹其間を點綴し澗水又其中に流る實に一步にして一景を得へし凡そ溪山の勝既に極むと云ふ且此景勝春花夏綠秋葉冬雪何れも其觀に富むと雖も晚秋滿山錦繡遠眺透明の時を以て最壯とす近時墨客の來游するもの年一年多きを加ふ而して其評多くは豊の耶馬溪と伯仲するを説く今遊人の詩章數首を録す曰く

(前略) 夫れ天下の名山多し然れども其奇石靈妙なる秀美清幽なるもの爽快活潑なる鍵懸の如き者は余の未だ曾て見ざる所なり其山質皆石にして峻嶒巖巖相對峙し劍の如く門の如く怪獸翔禽の如く其奇景名狀すへからず而して山中雜樹稀にして翠松紅楓相映して深淵飛瀑の間に點綴し一步一景變幻極り無く其頂に至れば回顧皆海にして讚阿の山水播備の城市歴々雙眸に撥る眞に宇内の絶勝なり余の斯山に登るや實に明治二年十月某日なり蕪詩數首あり今其一を録して證とす

絶勝始疑天有私。丹青難寫况文詞。半生憐我煙霞癩。未識溪山若個寄。

成島柳北

(後略) 有鹿野類關門過而左仰則群峯攢立不知其數五步改觀十步異狀一峯未移一峯又出更有一峯自其後而彌縫之有一峯分爲數峯合爲一峰有峰上安峰如人之

載帽有全石成峯不帶寸土有峰腹空洞中抱數松樹有上壘而下殺欲崩未崩有如突怒將相鬪有如離立離坐而往參之或俯或仰或起或臥或欹或反或橫或斜終無一有同形既而右峯傑出與之相銜成一長狹山路崎嶇繞通樵擔馬馱其水湍駛較緩處即成石潭清冽粟肌時霜露已降楓葉蒨蘿紅黃映發滿山繡錯矣初陟山南望阿淡與本州之山海皆在杖履下北窮而降則播備之州泓然崢然際天無極(後略) 片山冲堂愈出愈奇千百峯。一峯一步換形容。神鏡鬼鑿冠天下。耶馬溪山却策庸

岡本黄石

さのふきやふ花のしらわた葉の錦神山姫のいとまわらすも

しげる(貫名海屋)

可大

吹わたる岩に雲ちる紅葉哉

星城 安田村にあり神懸山より東三十町(元同村外廿六ヶ村の共有野山なり近頃分割して同村の區域に入る)郡中の高山にして其頂に登れば南海山陽の山川歴々當前に落つ其眺望實に壯絶なり二祠あり一を東峰神社と稱す祭神は天御中主神高産日神瓊々杵尊天兒屋根尊天太玉尊の五神なり一を西峰神社と稱す祭神大野手媛命古記に應神帝蒲生半坂に肇祀せられし五百年の後此に遷坐せり

と且つ此山は備前兒島郡飽浦の城主佐々木信胤氏城廓を築き地方の士をして守らしめ方士城と號けたりと云ふ太平記に備前國の住人佐々木飽浦三郎左衛門尉信胤早馬を打て去月二十三日小豆島に押渡り義兵を撃る處に國中の忠ある輩馳加て逆徒少々打順へ京都運送の舟路を差塞て候云々とあり是康永元年なり然るに官軍利あらず貞和三年細川頼之の攻撃を受け遂に城堡諸屋焼失せりと云ふ近時陸軍一等三角の點建設あり詩歌一二を録す曰く

吾小豆島連山之極東高一千八百尺南朝之世佐々木信胤嘗城于此今遺趾猶存史乘佐々木作飽浦屹立墨山千仞青邑連南麓擁江汀佐公當日城於頂篝火想看耀似星

秋暮るゝ鐘も届かず星が峰

中 桐 星 城
在 水

昨崎星峰勢自雄。稜々劍氣逼蒼穹。千年熱血孤臣淚。灑作寒林万樹楓。

黒 木 欣 堂

清瀧山 同村にあり山麓より十八町怪巖壁立深樹鬱蒼幽邃閑雅の勝區なり堂庵あり地藏尊を安す詩歌一二を録す曰く

突出奇崑松作圍。溪風送雨雨霏々。山靈正是非無意。添翠快來禪閣扉

日 下 聖 洲
遊 甫

古枯や雲のおさまる洞の中

飽浦信胤墓 同村小字植松にあり墓記曰く信胤姓源氏其先江州而以佐々木爲氏元暦三年三耶盛襲属子將軍欲伐平氏於備前兒島則爲藤戸之先渡也於是恩賜於兒島那故子孫分處于兒島之飽浦因謂佐々木三耶左衛門飽浦信胤曆應三年來于小豆島而後卒則葬此云有故而記

安 田 村 岡 田 利 和

八幡神社 苗羽村にあり本郡五社の一其肇麗久遠にして詳ならず土地丘岡にして鬱蒼たる翠松内海灣に映し亦風勝佳絶の一社地なり短句一二を録す曰く

神垣の下や網代のひとけしき

淇 亭

馬場先の松に見上げる霞かな

柳 糸

碁石山 苗羽村にあり麓より十七町堂あり不動尊を安す祠あり金比羅宮を配る奇石怪巖龍蟠虎踞以て洞を開き窟を穿つ且巖上平なる所數百の癭瘤を点す其色黒あり白あり恰も盤上に碁石を散布したるか如し實に碁石山の名に背かざるへし此境亦眺望に富めり詩歌一二を録す曰く

破曙靈鐘天外鳴。産峰雲靄逐朝晴。思聞往古遊仙窟。驚殺圍碁是此聲。

一顧頽々一顧歌。遠山如走近山追。淡雲細雨時々抹。出沒變更奇更奇。

日下聖洲

中澤雪城

可涼

鶯の聲を左右や下り登り

洞雲山 坂手村にあり礬石山より五町岩洞あり深きこと九十尺極所明窓あり以て光線を引く此に毘沙門天を安す其天工實に人造の及はざるものあり且巨松老杉洞頭に繁蒼し晝猶暗きの幽趣あり故に杜鵑の名所なり此地は往古先靈寺と稱する巨刹のありし所なりと云ふ小詩あり曰く
洞裏愁晝晦。一孔向南開。何圖深窟裡。海嶼入看來。

武元君立

老杉圍徑青苔滑。黃葉丹巖啼白鶻。好怪愛奇何處人。千尋洞裏營香刹。

衣笠豪谷

洞雲山壁數百仞。絕無雜世唯有梅。一株其下舊有管廟今廢

柴秋村

誰捫峭壁種疎梅。昔相廟荒丹巖摧。萬壑千巖深雪底。先將春色半天來。

隼山 同村にあり洞雲山より五町日向瀧又は東の瀧とも云ふ往古は先靈寺の境内なり是亦岩石の奇勝洞中に觀音佛を安す保元年間海中より出現す其後毎年六月十七日と大三十日に龍燈を鳴門沖に點し當山へ捧け來ると云ふ且此地又眺望に富み阿淡海峽の鳴門本國白鳥の海濱津田の松林歷々遠眸に入り大角の岬風の子の嶼は近く瞰下にあり尙且境内櫻樹多く又巖上常に猿群を見るを得へし詩歌一二を録す曰く

小野寺風谷

隼山觀音閣

大悲高閣倚孱顏。俯見嶂嶠連翠鬢。認得鳴門波浪穩。許多帆影飽風還。

山高八百尺有洞置大悲閣閣下有老松孟秋某日夜海上火見飛留此松梢年以為

例土人呼曰龍燈角榑崑石崎崔嵬。雲鎖洞門香閣開。龍帝深藏珠幾顆。年々

例貢大悲來。

中桐星城

山影や海は日の出のはとゞぎす

子朔

福田村 郡の東北端に位す東北は淡播洋に向ひ西南は大部安田に界する戸數二百九十六戸人口千三百六十七人其産業の如き農樵漁及礬石業なり就中石材花

崗石の盛なる各村に冠たり且明治十六年宮城建築の御用石に徴せられしより
其名一層四方に聞ゆ

葺田神社 同村にあり本島五社の一相傳ふ應神帝巡幸の際與助なるもの自田を
刈りて行宮の屋宇を葺き且該田を御供田に充つる等の故を以て土人村本氏と
稱す又神体の當嶺に流れ寄りしを以て肇禪すと云ふ土地高燥ならざるも老樹
積鬱一見古祠なるを見るへし

田中綏猷墓 同村にあり綏猷元但馬出石の人父は小森正造京都に出て縉紳中山
家の士田中某の義子となり河内介に任じ従六位下に叔せらる常に王室の式微
を嘆せしが文久二年同志の士と伏見寺田屋に會し事を謀らむとす偶薩藩の爲
めに其事成らず且薩州へ護送せらるゝの途次播州沖にて殺害せられ其男嘉猷
の屍と共に本村に漂着す實に同年五月二日なり土人之を假葬しありしに近年
同氏の親籍某來り父子の墓表を建設したり因に氏は明治二十四年四月八日正
四位を贈らる蓋し維新以前の勳王の功に依るものなりと云ふ品川子爵墓參の
際歌あり曰く

播磨洋あらし波間にすてられし君が屍の香くはしきかな

氏父子哀悼の碑は中山東宮太夫の篆額品川子爵の撰文にして其墓地を距る數
町の南丘岡の地に建設せり而して其碑面遙に京都に向ふ蓋し故有りと云ふへ
し

四門山 大部村大字小部にあり山麓より十七町不動尊を安置す此境亦怪巖巨石
異狀を呈し或は洞を開き或は門を爲す且添ゆるに危樓棧亭の建築を以てす又
播備の眺望佳絶にして實に奇異の一勝區なり詩歌一二を録す曰く

不觀四門壯。安知天造工。巖々皆競起。洞々互相通。棧閣常無雨。

嵌空自有風。畫圖難狀得。詞句豈爭雄。 武元君立

雲霞かまみ山の眞しみつにくみてこそしれさよき心を

無 住

仙厓瀑 (一名蝶の漣同村字大部にあり神懸の裏面に位す山麓より十五町巾六七
尺高さ六十尺層を重ねると五層毎層噴沫珠を飛し其奇狀筆の及ぶ所にあらず
若し一朝大水の出つる時は其層を消盡し一線に奔下するもの實に銀河の九天
より來るかと思はる且秋晚の時に際せば綠樹紅楓相映し更に數層の觀を添ゆ
是れ本郡三瀑の一なり短句あり曰く

たきに行く道幾すちそ春の山

橘 味

翠塚 同村の西端なり往昔神功皇后征韓より凱旋し玉ひし際備前邑久那矢寄の濱にて彈せられし玉翠を海中へ投られしが此濱に流れ寄りしを尊重して此地に埋め塚を立てたり今は地名となる翠を投られしことは古事記にも見ゆ

鳴瀑 北浦村大字小海にあり巾六尺高四十尺是亦數層を重ね飛玉噴珠雪花の散騰するが如く且水の奔下するもの落て潭を成す其深きこと四尋之を於玉ヶ淵と名く昔年郷正の婢女一日賓客の前に米をこほし之を耻ちて身を此に捨てしより此名ありしと云ふ是れ本郡三瀑の一なり短句あり曰く

鳴瀧や水の音にも打鼓

桂 城

長勝寺 四海村大字長濱にあり本尊は阿彌陀佛なり抑當寺は元祿の再建にして其建物は赤穂の義士大石内蔵介の舊宅を購入せしと云ふ其障子の如き以て見るへし且茶釜屏風の如きも之に附屬せしものと云ふ

小江港 同村中の大字にして本郡の乾角に位せり屬島沖の島との海峡は避風船舶の碇泊に便なり世之を小江の瀬と云ふ其千振島又蕪崎邊の山水實に畫中にあるが如し且春秋釣遊の期節に際せば數百の釣舟實に木葉を散すが如し且此

地と備前邑久那半窗の間日々定期の郵便船往復の便あり

伊喜未神社 同村大字伊喜未にあり本郡郷社五社の一にして岩清水の別宮なり相傳ふ仁和三年宇多帝の第四の皇子敦實王敷を奉して創建すと社地丘岡に位して海濱に臨む且松青くして砂白く尙且眺望の壯絶なる其山緒と共に富岡社と同趣あり

豊島村 本郡の屬島にして周廻四里三十一町戸數七百三十八戸人口三千五百十四人家浦甲生唐櫃の三大字あり郡役所を距ること六海里其産業は農漁及石材なり就中石は豊島石と稱し竈井戸側又は燈籠等に製し他に輸出するもの實に夥多なり

醬油、素麵及石材 本郡の特有物産とすへきものは此三種なり今其概略を左に列記す

醬油 是郡内到處に生産す其額一ヶ年六万五千石價額五十七万七千九百餘圓に達し島醬油の名聲夙に近國に播き率ね輸出せり故に醬油製造販賣の爲株式會社を組織するもの土庄池田北浦に各一ヶ所草壁村に二ヶ所ありて株式拂込の金額十四万五千五百圓に及へり其他四海坂手大郡池田の諸村に各一ヶ所の

合資會社あり皆醬油の製造販賣を業とせり
 素麵 は縣下生産總額の八割六分を占め其價額十八万四千二百九十圓是亦輸
 出に充つるもの其仕向地は廣島最も多し淵崎村に上庄合資會社池田村に製麵
 合資會社四海村に小江素麵合資會社あり皆素麵製造販賣を業とせり
 石材 は那の東北部最も多し太閤秀吉の大坂城を築くに當り其築城に要せし
 石材は本那の各所より斫り出し搬出せしと云ふ近年大阪港の修築により之に
 要する石材も亦本那より輸出せり築城と云ひ築港と云ひ大阪は古今本那石材
 の供給に依て修築せられ本那も亦大阪の石材需用に依り僻陬の繁榮を致すは
 奇と謂ふへし一ヶ年の生産價額八万二千餘圓に達す
 島八十八ヶ所 四國八十八番札所の外別に小豆島而已にて八十八番の札所ある
 ことは總説に於て述る所ありしが今此に其札番及寺院の所在地を表示す

札所番	寺院名	所在地
一 番	大師堂	坂手村洞雲山上
二 番	基石ヶ瀧	苗羽村苗羽
三 番	觀音寺	坂手村洞雲山
四 番	古江庵	苗羽村古江

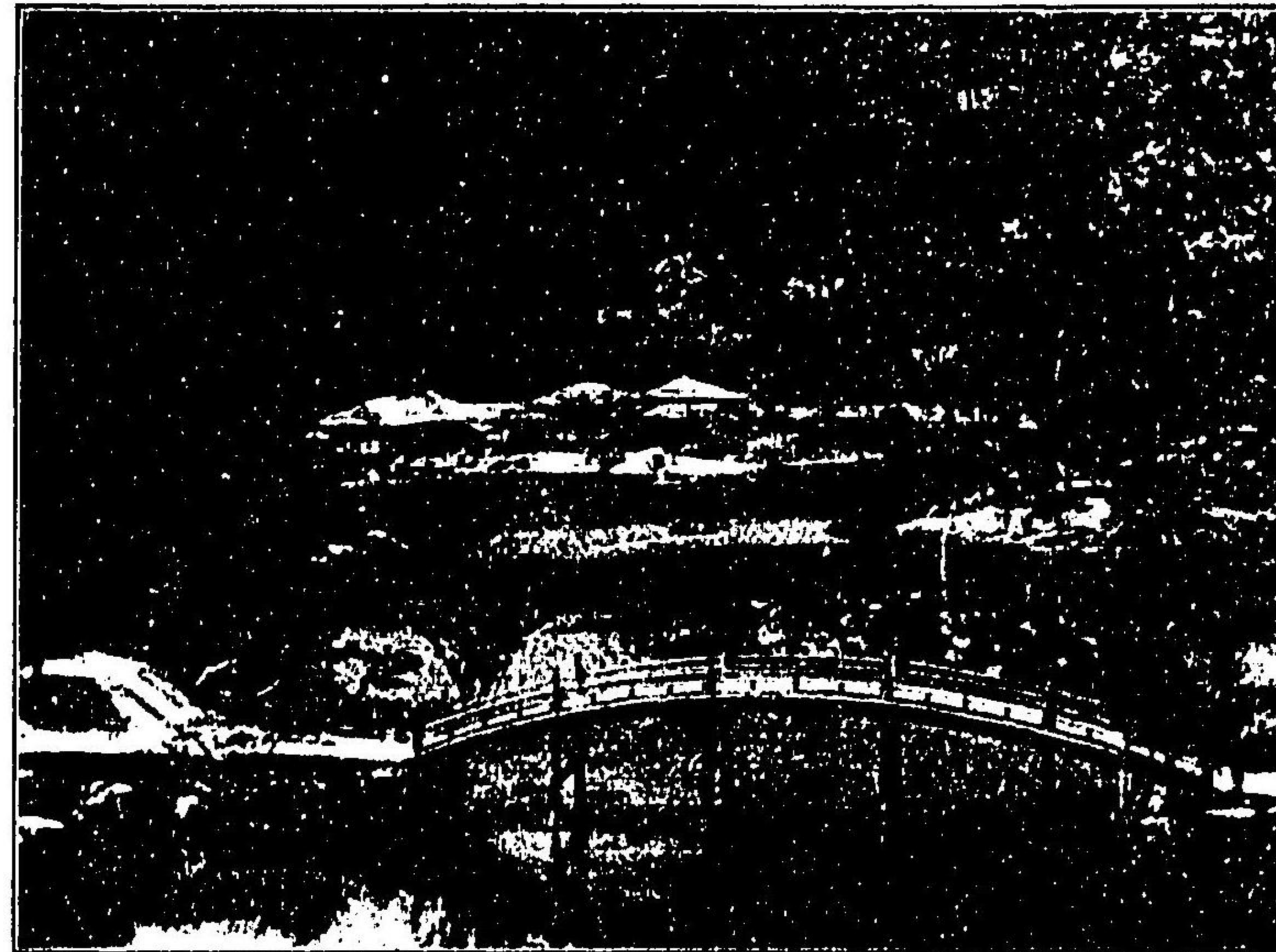
五 番	堀越庵	苗羽村堀越	二十番	廢庵	草壁村下村
六 番	田ノ浦庵	苗羽村田の浦半島	二十一番	清見寺	草壁村下村
七 番	阿彌陀庵	苗羽村苗羽	二十二番	峯ノ庵	草壁村下村
八 番	淨光寺	苗羽村苗羽	二十三番	本堂	草壁村下村
九 番	庚申堂	苗羽村馬木	二十四番	安養寺	西村日方
十 番	芦ノ浦庵	安田村	二十五番	誓願寺庵	西村日方
十一番	觀音堂	苗羽村馬木	二十六番	阿彌陀寺	西村水木
十二番	岡の庵	安田村安田	二十七番	阿彌陀寺	西村水木
十三番	榮光寺	安田村安田	二十八番	藥師庵	三都村蒲野
十四番	清瀧庵	安田村安田	二十九番	風穴庵	三都村上ノ浦
十五番	大師堂	安田村本の庄	三十番	正法寺	三都村吉野
十六番	極樂寺	草壁村片城	三十一番	誓願寺	二生村二面
十七番	一ノ谷庵	草壁村小坪	三十二番	愛染寺	二生村室生
十八番	東山庵	草壁村上村	三十三番	長勝寺	池田村池田
十九番	藥師庵	草壁村上村	三十四番	廢寺	三十二番へ遷ス

六十五番	光明庵	淵崎村
六十六番	阿彌陀堂	四海村伊喜末
六十七番	廢寺	併北浦村大字見目觀音寺へ合
六十八番	松林寺	四海村伊喜末
六十九番	藥師堂	四海村小江
七十番	長松寺	四海村長濱
七十一番	阿彌陀堂	四海村瀧ノ宮
七十二番	龍湖寺	大鐸村笠瀧
七十三番	觀音堂	大鐸村小馬越
七十四番	圓滿寺	大鐸村黒岩
七十五番	聖寺	北浦村馬越
七十六番	金剛寺	北浦村屋形崎
七十七番	觀喜寺	北浦村見目
七十八番	雲石庵	北浦村小海
七十九番	藥師堂	大部村田井
八十番	觀音寺	大部村大部
八十一番	不動瀧	大部村小部
八十二番	藥師庵	福田村吉田
八十三番	藥師庵	福田村福田
八十四番	雲海寺	福田村福田
八十五番	雲海寺	福田村福田
八十六番	觀音庵	安田村當濱
八十七番	觀音庵	安田村岩ヶ谷
八十八番	地藏庵	安田村橘

三十五番	廢寺	三十三番へ遷入
三十六番	本堂	池田村蒲生上池
三十七番	明王寺	池田村蒲生上池
三十八番	光明寺	池田村蒲生
三十九番	地藏堂	池田村蒲生北池
四十番	保安寺	池田村蒲生
四十一番	藥師堂	池田村蒲生
四十二番	瀧水寺	池田村西ノ瀧
四十三番	淨土寺	池田村中山
四十四番	湯舟山	池田村中山
四十五番	地藏寺	池田村中山
四十六番	多聞寺	大鐸村肥土山
四十七番	山ノ堂	大鐸村肥土山
四十八番	昆沙門堂	大鐸村肥土山
四十九番	万願寺	淵崎村上庄
五十番	藥師堂	淵崎村上庄
五十一番	廢庵	五十四番へ合併
五十二番	廢庵	全上
五十三番	本覺寺	全所
五十四番	寶勝院	全所
五十五番	觀音堂	淵崎村淵崎平木
五十六番	行者堂	淵崎村赤穂屋
五十七番	淨源坊	淵崎村
五十八番	西光寺	土庄町
五十九番	阿彌陀堂	土庄町
六十番	上ノ庵	土庄町鹿島
六十一番	合銅庵	土庄町合銅
六十二番	小ノ瀨庵	土庄町小七
六十三番	阿彌陀庵	土庄町大木戸
六十四番	觀音堂	土庄町大木戸

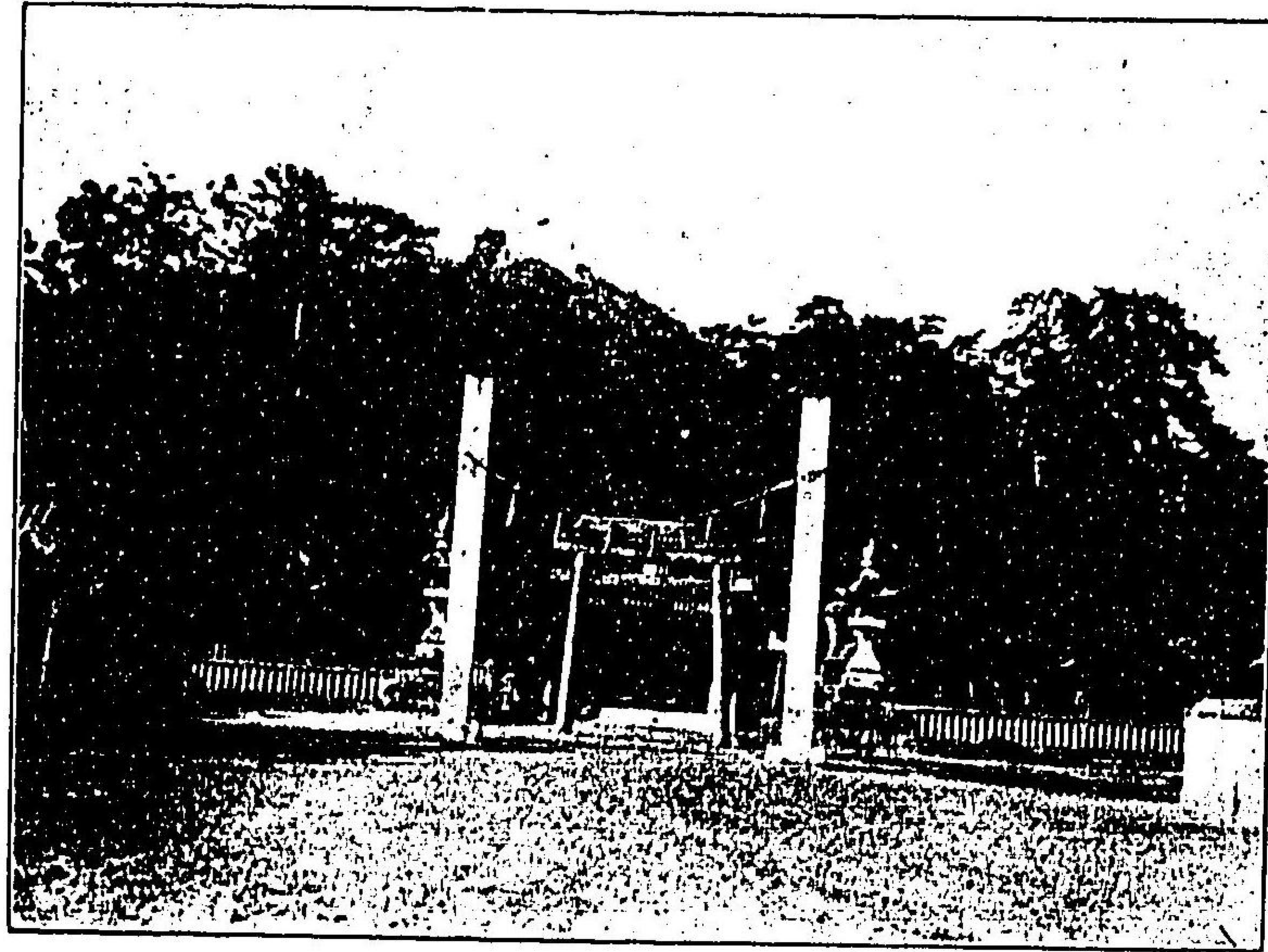


(一 共) 園 公 林 栗

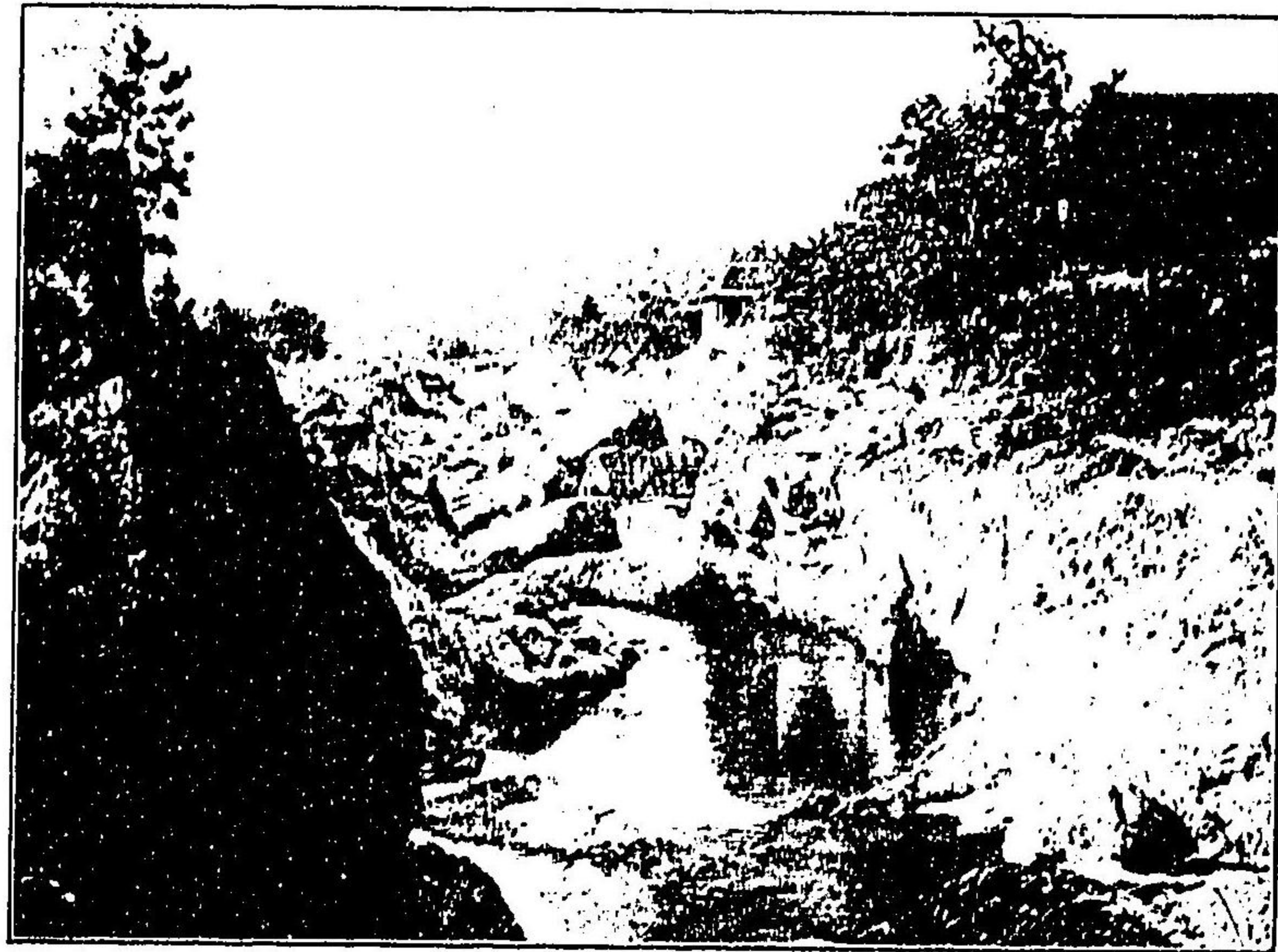


(二 共) 園 公 林 栗

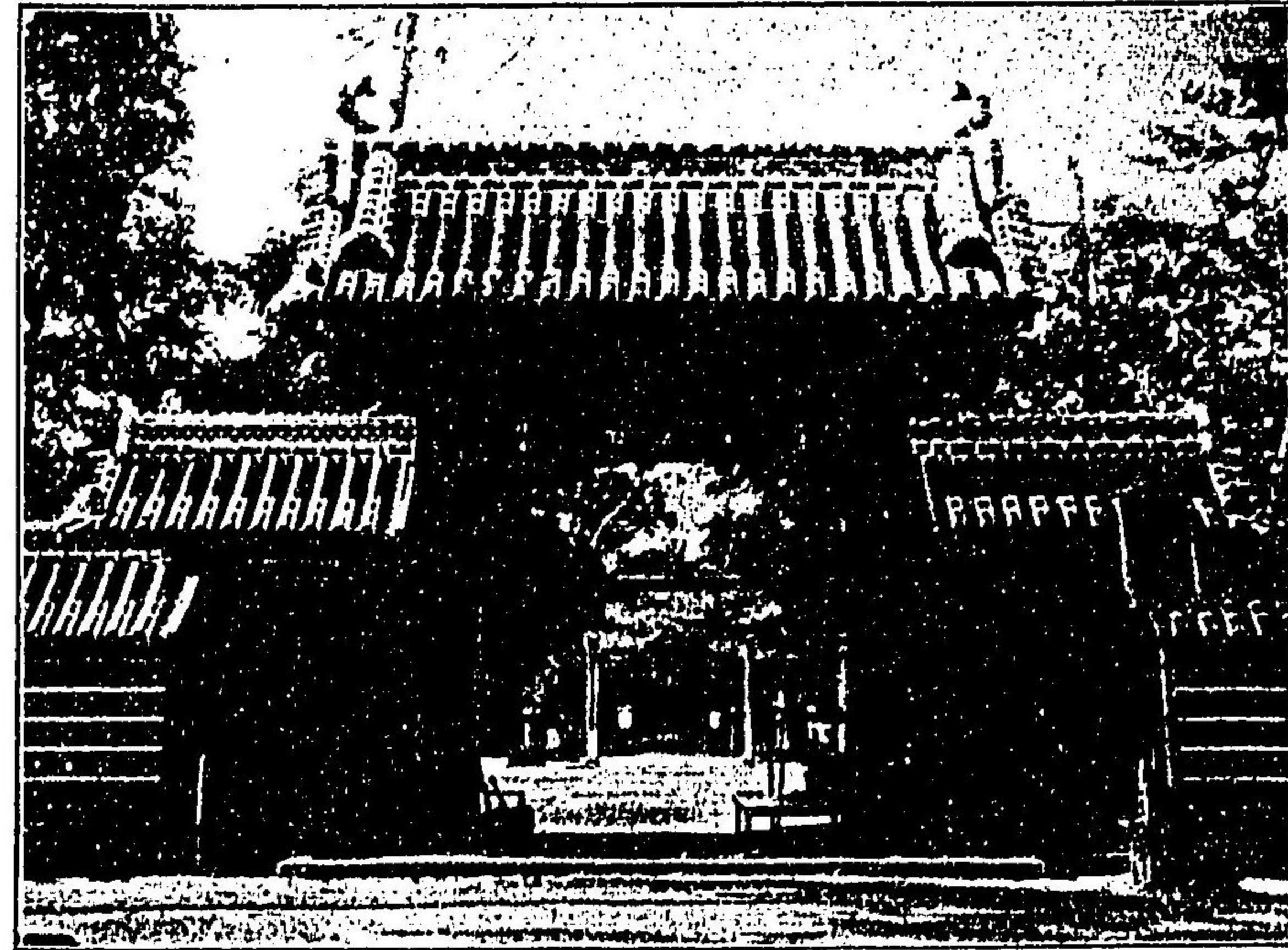




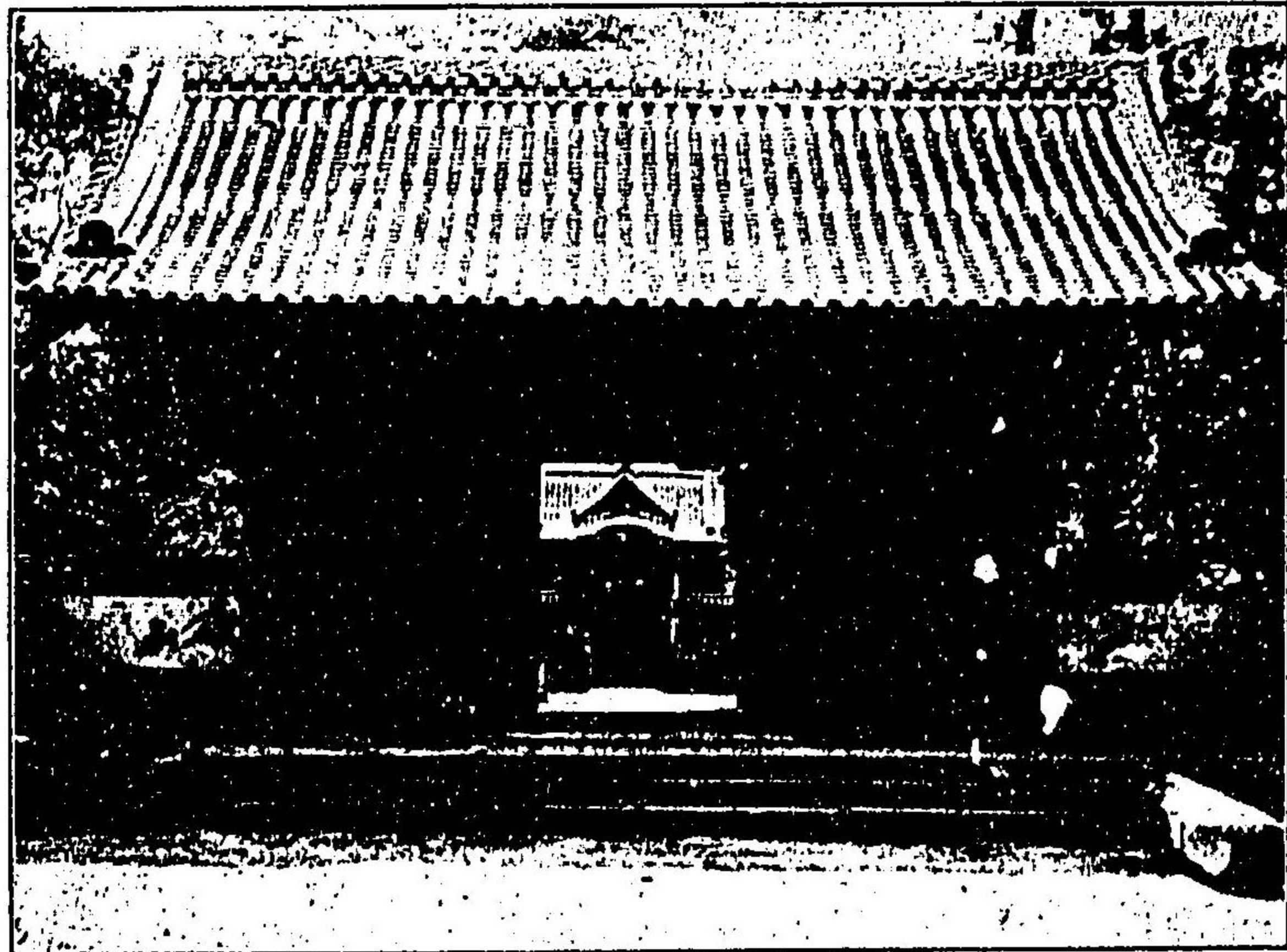
岩 清 尾 八 幡 宮



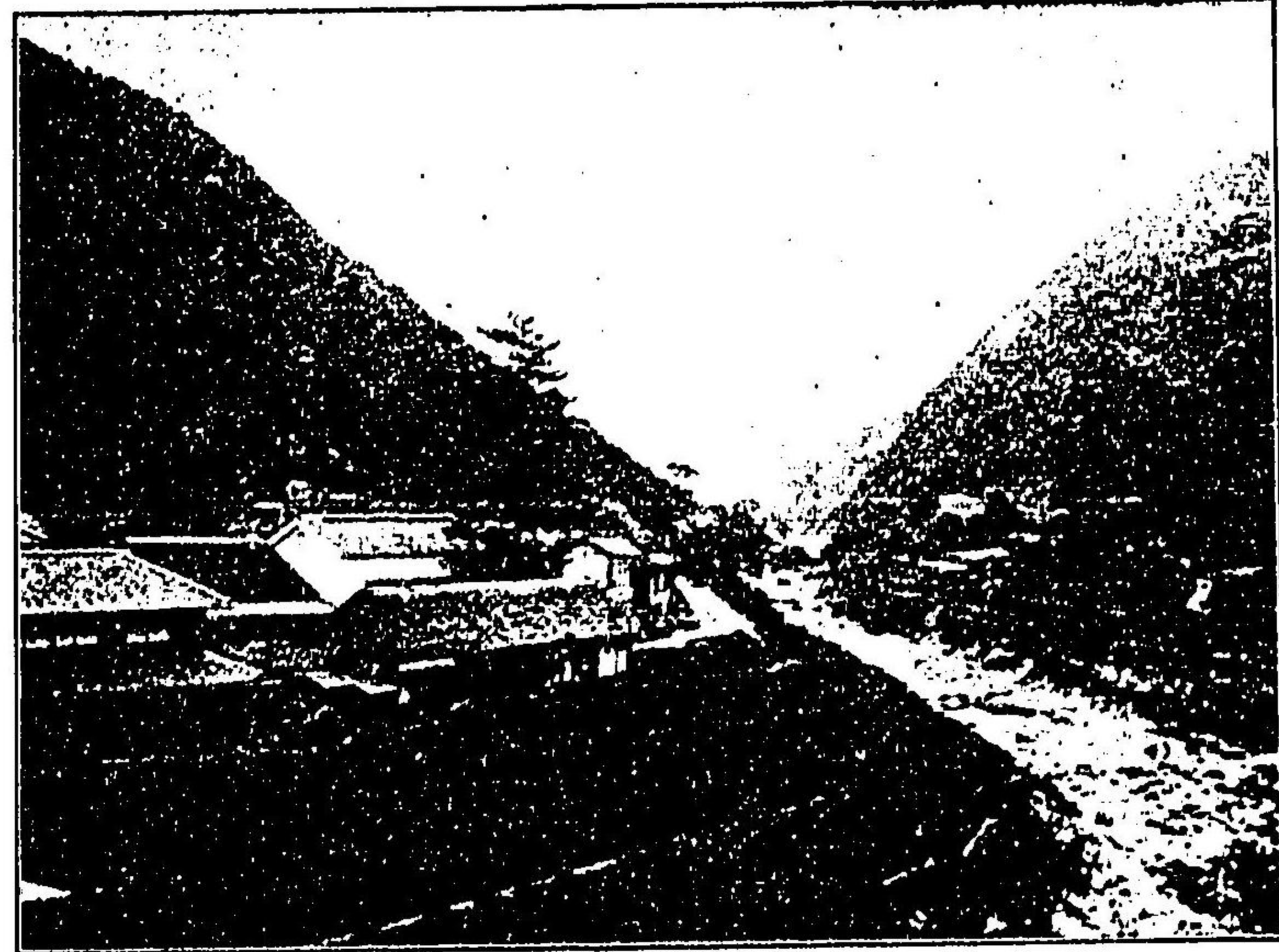
百 々 ヶ 淵



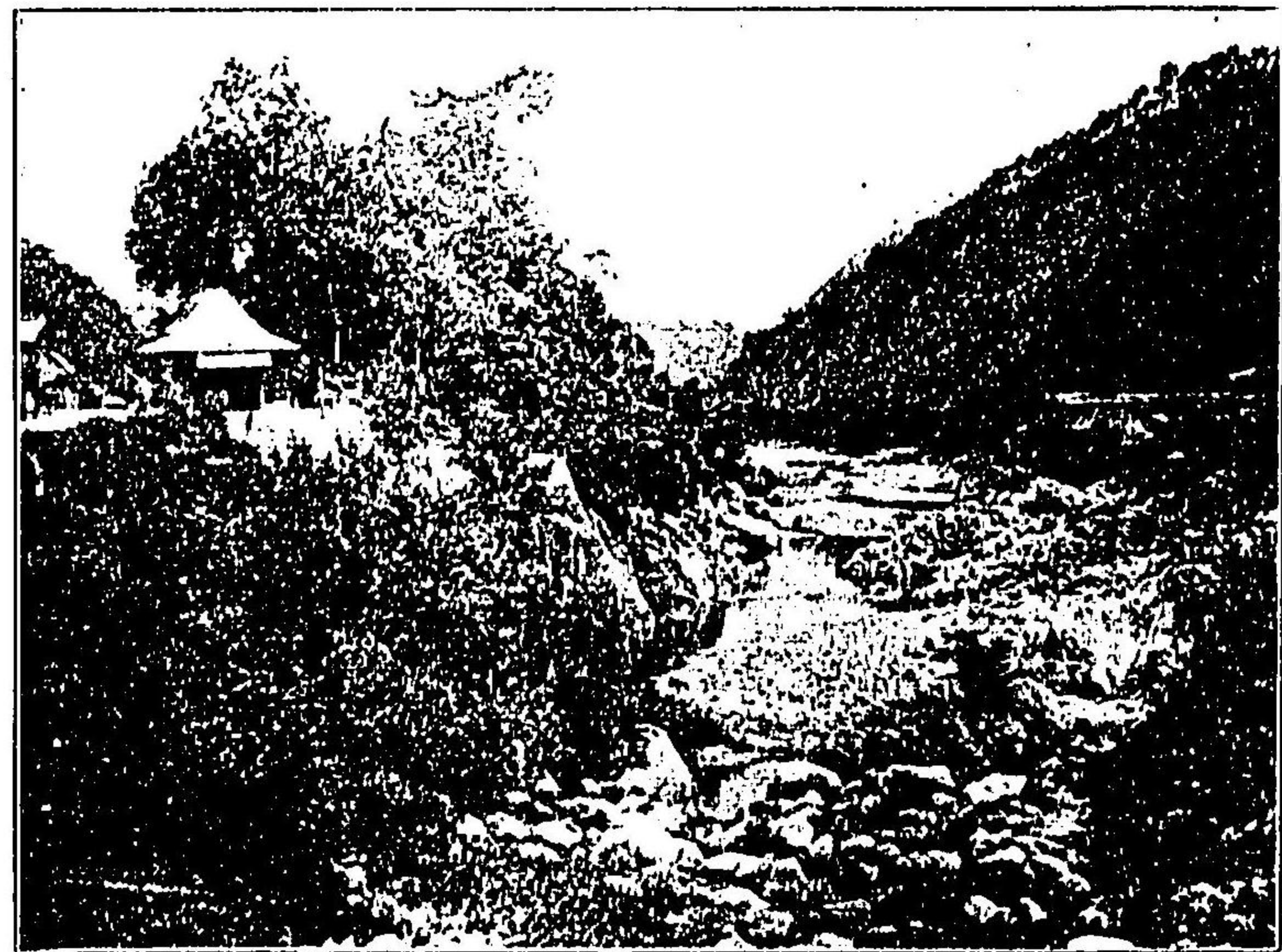
國幣中社 田村神社



佛生山法然寺



安原ノ江續泉浴舎



香東川源流